

東北大学学術資源研究公開センター 2015 年度 年次報告



2016 年 3 月

東北大学総合学術博物館
東北大学史料館
東北大学植物園

目次

I 学術資源研究公開センターの概要	・・・(1)
1. 沿革	・・・(1)
2. 設立趣旨	・・・(1)
3. 組織	・・・(1)
4. 組織化以降の活動	・・・(2)
(1) 組織の整備	
(2) 学術資源研究公開センターの活動	
(3) 学内競争的資金（総長裁量経費）の申請と獲得	
(4) 図書館の業務に対する指導・支援	
(5) センター運営専門委員会	
(6) 各部会の活動	
5. 東北大学学術資源研究公開センター規程	・・・(5)
6. 東北大学学術資源研究公開センター各種委員，教職員等名簿	・・・(7)
II 総合学術博物館	
1. 組織概要	・・・(11)
(1) 沿革	・・・(11)
(2) 目的	
(3) 活動方針	
(4) 組織と運営	
(5) 施設	
(6) 運営経費	
2. 活動概要	・・・(13)
(1) 資料標本等収蔵関連事業（収蔵・データベース）	
(2) 展示関連事業	
3. 教育・教育支援・普及教育事業の概要	・・・(15)
(1) 学内教育への貢献	
(2) 学内教育・学外教育との連携	
(3) 講演会・公開講座等	
(4) 広報・その他	
4. 研究活動の概要	・・・(18)
(1) 学会活動	
(2) 博物館紀要	

(3) デジタル工房／マイクロトモグラフィセンター	
(4) 図書館の業務に対する指導・支援	
(5) 総合学術博物館教員の研究活動	
5. その他大学運営に関する活動等	・・・(21)
III 史料館	・・・(23)
1. 組織概要	・・・(23)
(1) 理念・目的と事業内容	
(2) 沿革	
(3) 収集・所蔵資料	
(4) 組織・スタッフ	
(5) 関係委員会等	
(6) 施設	
2. 運営概要	・・・(28)
(1) 組織・運営	
(2) 学内外からの事業資金獲得状況	
3. 資料の管理・公開（アーカイブ事業）	・・・(29)
(1) 資料の受入・整理	
(2) 資料利用者への対応	
4. 普及・社会教育事業	・・・(31)
(1) 展示会および関連企画の開催	
(2) 展示室の利用状況	
(3) 他機関開催の展示会への出陳	
5. 教育・研修・学習支援活動	・・・(32)
(1) 教育・学習活動における史料館の利用	
(2) 全学教育の担当	
(3) 職員研修の担当	
6. 調査・研究活動	・・・(32)
(1) 学術出版物の発行	
(2) 研究会等の開催・後援	
(3) 学会・研究会・研修会等への参加および報告	
(4) 科学研究費獲得状況	
7. その他	・・・(33)
(1) 広報・情報公開	
(2) インターネット等を利用した情報発信	

IV 植物園	・・・(35)
1. 植物園の概要	・・・(35)
(1) 沿革	
(2) 設立の経緯と趣旨	
(3) 組織と運営	
(4) 施設	
2. 運営概要	・・・(40)
(1) 補修・整備工事, 庶務報告等	
(2) 植物園部会の開催	
(3) 学内外からの事業資金獲得状況	
(4) その他	
3. 収蔵展示事業	・・・(42)
(1) 資料標本等収蔵事業	
(2) 展示関連事業	
4. 教育・教育支援・普及教育活動	・・・(42)
(1) 入園者統計等	
(2) 学内教育との連携	
(3) 学外機関の利用	
(4) 報道機関・一般社会人等への対応	
(5) 講演会・体験活動等	
(6) ニュースレター・ホームページ・出版	
5. 全学・学部・大学院生への指導	・・・(48)
(1) 授与した大学院学位	
(2) 担当講義	
6. 研究活動	・・・(47)
(1) 研究支援活動	
(2) 研究活動	
V 教員・協力研究員の研究教育活動	・・・(53)
1. 総合学術博物館	・・・(53)
2. 史料館	・・・(71)
3. 植物園	・・・(75)

I. 学術資源研究公開センター

1. 沿革

2005年、「教育研究機能強化のために、特化された目的を持って設置された、学内共同教育研究施設等について、中期計画期間中の適切な時期に学外の専門家を加えた評価等の結果を参考に、再編・拡充を図る。」という東北大学の中期目標にしたがって、東北大学の学術資源の収蔵、保管、利用、研究に関わる事業を統合的・効率的に遂行するための組織改編の検討が着手された。上記業務に関わる組織のうち図書館をのぞく、総合学術博物館、史料館、植物園の3学内共同利用施設の組織統合をめざし、具体的な検討が行われた。

2006年4月1日に、総合学術博物館、史料館、植物園の3学内共同利用施設を統合した組織として、「学術資源研究公開センター The Center for Academic Resources and Archives」が新たに設置された。学術資源研究公開センターは、教育基盤施設群に属し、上記3施設はそれぞれ同センターの業務組織として従前の業務にあたることとなった。また同時に、情報シナジーセンターの組織改編ともない、全学卒定員助手3名が新たに学術資源研究公開センターの教員として配置された。

この統合によって、学術資源研究公開センターの職員は、各業務組織に配置されていた教員、職員等と情報シナジーセンターより再配置の教員をあわせて、教授3、助教授3、助手7（うち全学卒定員5）、技術職員4となった。その後、2007年4月の教員制度改革により教授3、准教授3、助教7となっている。

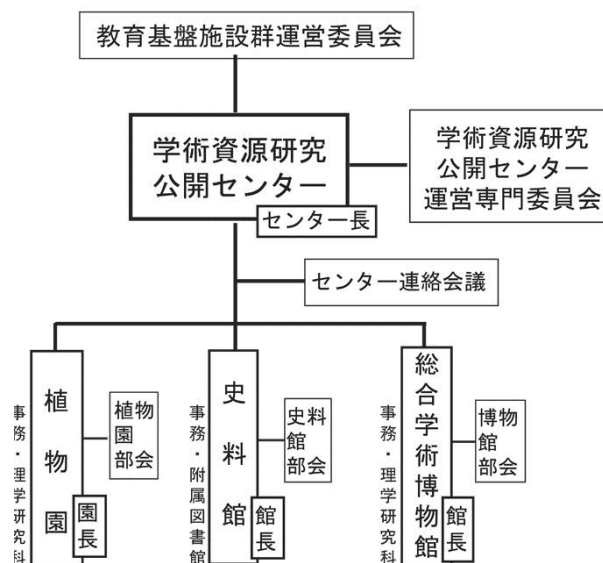
2. 設立趣旨

東北大学には、開学以来の「研究第一主義」の理念の下で生み出された、多くの新発見・発明の歴史があり、それらの研究の基礎となり、成果となった資料・標本・機器類の莫大な蓄積がある。総合学術博物館、史料館、植物園は、附属図書館などとともに、東北大学の学術研究・教育を支援し、大学の生命基盤ともいふべき、図書、情報技術、学術資料および史料などを運用する東北大学の共同教育研究施設の一部として、これらの貴重な資料・標本等の保管、植物園の敷地内に生育する生物資源の保全を行い、未来に継承するとともに、新たな研究・教育資源として活用できる環境を構築する責務を負ってきた。しかし、それらは財政基盤、施設、人員の配置のいずれもが規模が小さく、事業を行う上で責務を果たせる環境が十分に整っていなかった。そこで、業務性格に類似性のあるこれら3施設を統合して運営の合理化、業務ノウハウの共有化、資料標本等の統合的保全・活用を図るとともに、大学内部局としての自立性を高めることにより、資料標本に基づく研究教育の学内中核拠点となり、大学の知の発信基地としての機能を果たすことを目的とする。さらに、「開かれた大学」の窓として、東北大学の研究教育の現状を公開するとともに、大学に蓄積された知的資源を展示や講演会等により一般公開し、社会に還元することとする。

3. 組織

学術資源研究公開センターは、教育基盤施設群に属し、その事業組織として、総合学術博物館、史料館、植物園をおく。学術資源研究公開センターの組織、人事、予算その他基本的運営に関する事項は運営専門委員会において審議・決定される。また、各業務組織の運営を円滑に行わせるため、各業務組織に部会を置く。組織構成は付図のとおりである。

東北大学学術資源研究公開センター
組織運営図



4. 組織化以降の活動

2005年4月の学術資源研究公開センター発足後のセンターとしての活動について、2010年度以降の内容も含めながら述べる。

(1) 組織の整備

① 「東北大学学術資源研究公開センター運営内規」の制定

2006年4月～6月に組織の整備についての検討を行い、学術資源研究公開センターの運営上必要な連絡および調整を行うとともに運営専門委員会の議題整理を行うため、センター連絡会議を置くこととした。同連絡会議は、センター長、総合学術博物館長、史料館長、植物園長、各業務組織の教員各1名および世話部局事務職員若干名から組織される。また、センター長候補者の選考、各業務組織の運営のための部会に関する規則、協力研究員および協力調査員に関する規則等についても検討し、これらを「東北大学学術資源研究公開センター運営内規」として定めた（2006年7月10日制定）。

② 教員組織新制度の導入および移行に関する方針の検討

教員組織新制度の導入および移行に関する学術資源研究公開センターの方針を決定するために、2006年7月に教員制度の検討WGを6名の教員により発足させた。その後WGによる討議と数次にわたる案の全教員による検討をへて、2007年2月に最終案を決定した。

学術資源研究公開センターは、東北大学が所蔵する学術資料、標本、生物資源や歴史的公文書等の継続的収集・保管、研究を行い、これらを学内外の教育研究に資するばかりでなく、それらの成果等を広く一般に公開して社会教育の振興に寄与するまでを一体的に実現し得ることを目的として設置された学内共同教育研究施設である。この基本理念にたち、教員の職、および職務について決定した。新たに採用する助教については、学内外を問わず広く准教授、教授へつながるキャリアパスの第一段階に位置づけ、任期5年とする、ただし、その間の研究教育およびその他のセンター業務への貢献度などの実績を評価し、運営専門委員会の審議および議決により、再任可とすることとした。また、センター教員はそれぞれの専門分野を活かして大学院研究科・学部等の教育組織において協力講座担当・兼務教員あるいは協力教員等として参加できるものとした。

③ ホームページ・データベースの統合に関する検討

学術資源研究公開センターの業務の段階的統合、広報体制の強化のため、各業務組織において独自に設置されていたホームページ・データベースの統合を進めた。

④ 2010～2012年度センター外部評価の実施

学術資源研究公開センターの業務の評価を行うために、平成25年度第1回学術資源研究公開センター運営専門委員会（2013年8月7日）において、2010～2012までの年次報告書等をもとに、自己評価報告書を作成すること、および外部評価準備委員会（自己評価委員会：総合学術博物館3名、史料2名、植物園2名の委員）を設け、同委員会が自己評価報告書についても作成することとした。同委員会はおよそ半年にわたり協議と資料整理にあたり、2014年1月に自己評価報告書（本報告）を作成し、2013年3月6日～7日に外部評価委員3名に依頼し、実施した。

(2) 学術資源研究公開センターの活動

当センターの主要業務である資料の管理公開および教育研究等にかかる具体的状況については、業務組織である3施設が行っている。

(3) 学内競争的資金（総長裁量経費）の申請と獲得

「学術資源研究公開センター公開事業に関わる経費」として、本年度は16,000千円の配分を受け、学術財産の保管、学術資源化を図るためのデータベース構築とともに、その研究成果を広く学内外に公開し、社会に還元するための、学術資源研究公開センターが行うべき基本的事業である。また、震災復興支援活動のため「東日本大震災・震災遺構3次元データアーカイブ公開事業」（10,000千円・総合学術博物館）を取得した。

(4) 図書館の業務に対する指導・支援

学術資源研究公開センターに所属する、情報シナジーセンターから異動の教員 3 名は東北大学附属図書館協力研究員として活動してきたが、その活動はセンター異動後も継続している。主な活動は以下の通り。

- ・貴重図書選定・保存修復・目録データベース関連の委員、選定業務・目録作成等
- ・図書館所蔵資料の展示関連事業への協力

(5) センター運営専門委員会

第 1 回

日 時：平成 27 年 9 月 24 日（木）16 時 12 分から 17 時 16 分

場 所：植物園（1 階）講義室

議 題：

- 1) 平成 26 年度事業報告及び決算（案）について
- 2) 平成 27 年度事業計画及び予算（案）について
- 3) 協力研究員の委嘱について

報 告：

- 1) 2015.9.11 集中豪雨による被害状況（植物園）

第 2 回

日 時：平成 28 年 3 月 1 日（火）16 時 00 分から 17 時 17 分

場 所：植物園本館（1 階）講義室

議 題：

- 1) 学術資源研究公開センター長候補者選考委員会の設置について
- 2) 史料館長の選考
- 3) 教員の再任について
- 4) 協力研究員の委嘱について
- 5) 平成 27 年度活動報告・決算見込み及び平成 28 年度活動計画
- 6) 学術資源研究公開センター史料館利用内規の一部改正について
- 7) 学術資源研究公開センター史料館閲覧室利用細則の制定について

報 告：

- 1) 震災遺構に関する活動について（博物館）
- 2) その他

(6) 各部会の活動

① 総合学術博物館部会

第 1 回

日 時：平成 27 年 8 月 7 日（金）16:00～16:45

場 所：理学部総合棟 7 階 物理大学院講義室 736 号室

議 題：

- 1) 2015 年度活動報告および決算(案)について
- 2) 2016 年度活動方針(案)について
- 3) 研究協力員の推薦について
- 4) その他

第 2 回

日 時：平成 28 年 2 月 24 日（水）16:30～17:15

場 所：理学部物理系研究棟 4 階 中会議室（417）

議 題：

- 1) 2015 年度活動報告・決算見込みについて
- 2) 2016 年度活動方針について

- 3) 総合学術博物館長の選考について
- 報 告：
- 1) 柳田 俊雄教授の名誉教授称号授与について
 - 2) 総合学術博物館新営について
 - 3) 第3回国連防災世界会議への取組みについて
 - 4) 震災遺構に関する事業について（総長裁量経費）
 - 5) 自然史標本館3階屋上防水工事の実施について
 - 6) 委員の異動について

②史料館部会

第1回

日 時：平成27年9月9日（水）10：30～11：30

場 所：附属図書館1号館2階小会議室

議 題：

- 1) 平成26年度事業及び決算報告について
- 2) 平成27年度事業の取組状況及び予算について
- 3) 第三期全学中期計画にかかる施策について
- 4) 協力研究員の委嘱について

第2回

日 時：平成28年1月13日（水）15：00～15：15

場 所：附属図書館本館2階小会議室

議 題：

- 1) 史料館長候補者推薦委員会委員の選出について
- 2) その他

第3回

日 時：平成28年2月19日（金）13：35～14：35

場 所：附属図書館本館2階小会議室

議 題：

- 1) 次期史料館長候補者の推薦について
- 2) 平成27年度史料館事業の状況について
- 3) 平成27年度史料館予算執行見込について
- 4) 平成28年度史料館事業計画（案）について
- 5) 史料館利用内規の改正および史料館閲覧室利用細則の制定について
- 6) その他
- 7) 准教授の任用更新について

東北大学公文書管理委員会

第1回

日 時：平成28年2月4日～8日

場 所：メールでの書面審議

議 題：

- 1) 東北大学学術資源研究公開センター史料館公文書室利用等要項の改正（案）について

第2回

日 時：平成28年2月15日（月）13：30～15：30

議 題：

- 1) 史料館公文書室内規の制定に関する事項
- 2) 法人文書マニュアル（案）の作成・配付に関する事項

史料館公文書室の特定歴史公文書等専用書庫の仮移転状況に関する進捗状況報告

③植物園部会

2015年度は植物園部会は開催されなかった。

5. 東北大学学術資源研究公開センター規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学学術資源研究公開センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、東北大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設等として、標本、本学の歴史に関する資料その他の本学が所蔵する学術資料の収集及び保管、第8条に規定する植物園の敷地内に生育する生物資源の保全並びに学術資料及び生物資源に関する研究を行い、もって学内の教育研究に資するとともに、広く一般に公開して社会教育の振興に寄与することを目的とする。

第2章 職及び職員

(職及び職員)

第3条 センターに、次の職及び職員を置く。

センター長

教授

准教授

講師

助教

事務職員

技術職員

その他の職員

(センター長)

第4条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 センター長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 センター長の選考は、東北大学教育基盤施設群運営委員会の議に基づき、総長が行う。

4 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(協力研究員及び協力調査員)

第5条 第3条に規定するもののほか、センターに、協力研究員及び協力調査員を置くことができる。

2 協力研究員は、センターの業務のうち特定の事項について調査研究及び公開を行い、協力調査員は、センターの業務のうち特定の事項について調査等を行う。

3 協力研究員は本学の専任の教員以外の研究者等をもって、協力調査員は本学の事務職員又は技術職員をもって充てる。

4 協力研究員及び協力調査員は、第9条に規定する運営専門委員会の推薦に基づき、センター長が委嘱する。

5 協力研究員及び協力調査員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

第3章 業務組織

(総合学術博物館)

第6条 センターに、業務組織として、総合学術博物館を置く。

2 総合学術博物館は、学術標本の収集、公開等を行う。

3 総合学術博物館に、館長を置く。

4 館長は、総合学術博物館の業務を掌理する。

5 館長は、本学の専任の教授をもって充てる。

6 館長の選考は、第9条に規定する運営専門委員会の議に基づき、センター長が行う。

7 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(史料館)

第7条 センターに、業務組織として、史料館を置く。

2 史料館は、本学の歴史資料としての価値を有する資料の収集、公開等を行う。

3 史料館に、館長を置く。

4 館長は、史料館の業務を掌理する。

5 館長は、本学の専任の教授をもって充てる。

6 館長の選考は、第9条に規定する運営専門委員会の議に基づき、センター長が行う。

7 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(植物園)

第8条 センターに、業務組織として、植物園を置く。

2 植物園は、園内に自生する植物の保護及び栽培を行うとともに、植物標本の収集、公開等を行う。

3 植物園に、園長を置く。

4 園長は、植物園の業務を掌理する。

5 園長は、本学の専任の教授をもって充てる。

6 園長の選考は、次条に規定する運営専門委員会の議に基づき、センター長が行う。

7 園長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

8 植物園に、八甲田山分園を置く。

第4章 運営専門委員会

(運営専門委員会)

第9条 センターに、その組織、人事、予算その他運営に関する事項を審議するため、運営専門委員会を置く。

(運営専門委員会の組織)

第10条 運営専門委員会は、委員長及び次に掲げる委員をもって組織する。

一 総合学術博物館長、史料館長及び植物園長

二 各研究科、教育情報学研究部、各附属研究所、東北アジア研究センター及び高等教育開発推進センターの教授又は准教授 各1人

三 センターの専任の教授及び准教授

四 その他運営専門委員会が必要と認めた者 若干人

(委員長)

第11条 委員長は、センター長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

(委嘱)

第12条 第10条第2号及び第4号に掲げる委員は、センター長が委嘱する。

(任期)

第13条 第10条第2号及び第4号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(部会)

第14条 運営専門委員会に、各業務組織の運営を円滑に行わせるため、部会を置く。

2 部会は、委員若干人をもって組織する。

第5章 雑則

(事務)

第15条 センターの事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程(平成16年規第151号)の定めるところによる。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、センターの組織及び運営に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

- 2 次に掲げる規程は、廃止する。
 - 一 東北大学総合学術博物館規程（平成 10 年規第 44 号）
 - 二 東北大学植物園規程（平成 17 年規第 94 号）
 - 三 東北大学史料館規程（平成 12 年規第 156 号）
- 3 この規程施行の際現に前項の規定による廃止前の東北大学総合学術博物館規程の規定により平成 18 年 4 月 1 日に総合学術博物館長に併任されるものとして選考された者は、この規程施行の日において第 6 条第 6 項の規定により選考されたものとみなす。
- 4 この規程施行の際現に第 2 項の規定による廃止前の東北大学史料館規程の規定により史料館長の任にある者は、この規程施行の日において第 7 条第 3 項に定める史料館長となったものとみなし、その任期は、同条第 7 項の規定にかかわらず、平成 18 年 11 月 5 日までとする。この場合において、史料館長の選考の範囲及び方法については、同条第 5 項及び第 6 項の規定は、適用しない。
- 5 この規程施行の日の翌日以後最初に選考される史料館長の任期は、第 7 条第 7 項の規定にかかわらず、平成 20 年 3 月 31 日までとする。
- 6 この規程施行の際現に第 2 項の規定による廃止前の東北大学植物園規程の規定により植物園長の任にある者は、この規程施行の日において第 8 条第 6 項の規定により植物園長となったものとみなす。（平成 18 年 4 月 1 日施行、平成 19 年 2 月 20 日一部改正）

6. 東北大学学術資源研究公開センター各種委員、教職員等名簿

学術資源研究公開センター運営専門委員会

委員長	学術資源研究公開センター長	教授	西 弘嗣
委員	総合学術博物館長	教授	井龍 康文
委員	史料館長	教授	八鍬 友広
委員	植物園長	教授	中静 透
委員	文学研究科	教授	阿子島 香
委員	教育学研究科	准教授	池尾 恭一
委員	法学研究科	准教授	金谷 吉成
委員	経済学研究科	准教授	室井 芳史
委員	理学研究科	教授	掛川 武
委員	医学系研究科	教授	北本 哲之
委員	歯学研究科	教授	高橋 信博
委員	薬学研究科	教授	松 沢 厚
委員	工学研究科	教授	高村 仁
委員	農学研究科	教授	中井 裕
委員	国際文化研究科	准教授	吉田 栄人
委員	情報科学研究科	教授	坂口 茂
委員	生命科学研究科	教授	河田 雅圭
委員	環境科学研究科	教授	境田 清隆
委員	医工学研究科	教授	阿部 高明
委員	教育情報学研究部	教授	村木 英治
委員	金属材料研究所	教授	佐々木孝彦
委員	加齢医学研究所	准教授	井上健太郎
委員	流体科学研究所	教授	小原 拓
委員	電気通信研究所	教授	庭野 道夫
委員	多元物質科学研究所	教授	高桑 雄二
委員	災害科学国際研究所	教授	木戸 元之
委員	東北アジア研究センター	教授	千葉 聡
委員	高度教養教育・学生支援機構	教授	吉本 啓
委員	学術資源研究公開センター	教授	(西 弘嗣)
委員	学術資源研究公開センター	教授	藤澤 敦
委員	学術資源研究公開センター	教授	牧 雅之
委員	学術資源研究公開センター	准教授	佐々木 理

委員	学術資源研究公開センター	准教授	長瀬 敏郎
委員	学術資源研究公開センター	准教授	高嶋 礼詩
委員	学術資源研究公開センター	准教授	永田 英明

総合学術博物館部会

部会長・博物館長	教授	井龍 康文
委員 文学研究科	教授	阿子島 香
委員 理学研究科	教授	掛川 武
委員 高度教養教育・学生支援機構	教授	中村 教博
委員 東北アジア研究センター	教授	平野 直人
委員 文学研究科	教授	長岡 龍作
委員 医学系研究科	教授	上条 桂樹
委員 学術資源研究公開センター	教授	藤澤 敦
委員 学術資源研究公開センター	教授	西 弘嗣
委員 学術資源研究公開センター	准教授	佐々木 理
委員 学術資源研究公開センター	准教授	長瀬 敏郎
委員 学術資源研究公開センター	准教授	高嶋 礼詩
委員 学術資源研究公開センター	助教	黒柳あずみ
委員 学術資源研究公開センター	助教	小川 知幸

総合学術博物館教職員

教授	藤澤 敦	研究支援推進員	鹿納 晴尚
教授	西 弘嗣	事務職員	齋藤 拓 (理学研究科)
准教授	佐々木 理	パート職員	遠藤賀津子
准教授	長瀬 敏郎	パート職員	草野康子
准教授	高嶋 礼詩	パート職員	高玉久美子
助教	黒柳あずみ	パート職員	長谷川栄子
助教	小川 知幸		
技術職員	根本 潤 (理学研究科)		

客員教授 ハイルー・ヨウ教授 (中国科学院古脊椎動物古人類研究所, 2016年2月~3月)

総合学術博物館兼務教員

文学研究科	教授	阿子島 香
文学研究科	教授	長岡 龍作
文学研究科	教授	今泉 隆雄
理学研究科	准教授	中森 亨
医学研究科	講師	笠原 紳
歯学研究科	助教	鈴木 敏彦
薬学研究科	教授	倉田祥一朗
国際文化研究科	教授	深澤 百合子
国際文化研究科	教授	鈴木 道男
情報科学研究科	教授	根元 義章
生命科学研究科	助教	鈴木 孝男
環境科学研究科	教授	境田 清隆
東北アジア研究センター	准教授	鹿野 秀一
理学研究科	技術職員	根本 潤

総合学術博物館協力研究員

東北大学名誉教授	森 啓
東北大学名誉教授	谷口 宏充
東北大学名誉教授	蟹澤 聰史
東北大学名誉教授	井原 聰
東北大学名誉教授	百々 幸雄

東北大学名誉教授	永廣 昌之
東北大学名誉教授	高柳 洋吉
山形大学名誉教授	山野井 徹
東北大学名誉教授	斎藤 常正
東北大学名誉教授	尾田 太良
東北大学名誉教授	吉田 武義
物質材料研究機構名誉フェロー	中沢 弘基
長崎大学名誉教授	東 幹夫
高野山大学教授	奥山 直司
岩手県立大学博物館学芸員	大石 雅之
国立科学博物館学芸員	坂上 和弘
熊本大学名誉教授	長谷川四郎

史料館部会

委員長	八鍬 友広 (教育学研究科教授・史料館長)
委員	西尾 剛 (農学研究科教授 附属図書館副館長)
	柳原 敏昭 (文学研究科教授)
	安達 宏昭 (文学研究科教授)
	佐藤 大介 (災害科学国際研究所准教授)
	羽田 貴史 (高度教養教育・学生支援機構教授)
	中川 学 (高度教養教育・学生支援機構講師)
	永田 英明 (学術資源研究公開センター准教授)
	曾根原 理 (学術資源研究公開センター助教)
	大原 理恵 (学術資源研究公開センター助教)

1) 職員

館 長 (公文書室長・記念資料室長)		
教育学研究科教授	八鍬 友広	
教員等		
准教授	永田 英明	
助 教	曾根原 理	
助 教	大原 理恵	
教育研究支援者 (公文書室)	小幡 圭祐	※協力研究員兼務
事務職員・アルバイト		
事務補佐員	高橋 早苗	
事務補佐員 (公文書室)	小林 由里	
教育研究支援者	相澤秀太郎	
事務補佐員	大谷 瞭介	
事務補佐員	宮崎 嵩啓	

2) 兼務教員

高度教養教育・学生支援機構教授	羽田 貴史	
文学研究科教授	安達 宏昭	
高度教養教育・学生支援機構講師	中川 学	
高度教養教育・学生支援機構講師	串本 剛	
高度教養教育・学生支援機構助教	高橋 禎雄	

3) 協力研究員

秋田高等工業専門学校教授	吉葉 恭行
岩沼市史編纂室	伊藤 大介

植物園部会

部会長・植物園長	教授	中静 透
委員 農学研究科	准教授	伊藤 幸博
委員 生命科学研究科	教授	高橋 秀幸
委員 生命科学研究科	教授	西谷 和彦
委員 文学研究科	教授	阿子島 香
委員 キャンパス計画室	特任教授	杉山 丞
委員 学術資源研究公開センター	教授	藤澤 敦
委員 学術資源研究公開センター	教授	牧 雅之
委員 学術資源研究公開センター	助教	米倉 浩司
委員 学術資源研究公開センター	助教	大山 幹成

植物園教職員

園長	中静 透 (生命科学研究科教授)
教授	牧 雅之
助教	大山幹成 (本園担当)
助教	米倉浩司 (八甲田山分園担当)
技術職員	津久井孝博
技術職員	関 正典
技術職員	小倉 祐
技術職員	大内 匠
事務員 (事務補佐員)	千葉正治
事務員 (事務補佐員)	鈴木亜弓
臨時用務員	佐々木きみこ
事務補佐員 (標本作製担当)	桜井順子

植物園兼務教員

生命科学研究科	教授	西谷 和彦
生命科学研究科	講師	横山 隆亮
生命科学研究科	教授	占部城太郎
生命科学研究科	教授	中静 透
生命科学研究科	教授	彦坂 幸毅
生命科学研究科	准教授	酒井 聡樹
環境科学研究科	教授	境田 清隆
農学研究科	教授	清和 研二
農学研究科	准教授	陶山 佳久
農学研究科	准教授	昆野 安彦
高度教養教育・学生支援機構	准教授	田嶋 玄一

植物園協力研究員

東北大学名誉教授 (理学研究科)	大橋 広好
東北大学名誉教授	鈴木三男
石巻専修大学理工学部教授	根本 智行
福島大学共生システム理工学類准教授	黒沢 高秀
東北大学元准教授	片岡 博尚
木製彫刻文化財保存修復研究所代表	岡田 靖

II. 総合学術博物館

1. 組織概要

(1) 沿革

東北大学は、理科大学として発足以来の研究教育の過程で蓄積されてきた、240万点をこえる学術資料標本を有している。1965年4月16日、これらの学術資料標本を統合的に管理することを目的として、学長を委員長とする総合研究資料館設置準備委員会が開設された。同年6月1日、総合研究資料館の設置に関する特定の事項の調査研究のため、専門委員会が設置され、総合研究資料館の設置予定場所を理学部キャンパス内（現自然史標本館敷地）とすることが決定された。1974年7月1日、医学部、理学部、文学部等の標本類を収蔵していた東北大学標本室（片平キャンパス旧化学棟）の運営に関し、標本室運営委員会が設置された。

1994年度概算要求において、理学部自然史標本館の設置が認可され、1995年10月3日に開館した。標本館は、理学部地球科学系の資料標本を収蔵し、常設展示を行っている。

1996年6月11日、評議会のもとに「東北大学総合研究博物館（仮称）設置構想検討委員会」が設置され、既存の施設を含む総合博物館構想について概算要求がおこなわれた。1998年4月9日、総合学術博物館の組織設置が認可され、教官8名：教授2名、助教授3名、助手2名、外国人客員教授1名と、事務官1名（理学部・理学研究科）、事務補佐員1名の構成で発足した。その後2004年4月の東北大学法人化の際の配置定員整理にともない、助手は1名となった。

2006年4月、東北大学が所蔵する学術資料・標本、東北大学の歴史に関する資料および植物園の敷地内に生育する生物資源の保全、新たな学術資源の収集等の業務や学術資料および生物資源に関する研究を総合的に行える組織体制をつくるために、総合学術博物館、植物園および史料館の3者が組織統合し、学術資源研究公開センターを発足させ、総合学術博物館は同センターの業務組織として位置づけられた。この組織統合と情報シナジーセンターの組織改編にともない、新たに全学卒定員助手3名がセンターの教員として配置され、そのうち1名が総合学術博物館所属となった。その結果、現在の総合学術博物館配置教員は、教授1名、准教授3名、助教2名、外国人客員教授1名である。

総合学術博物館は、博物館建物について新築計画にもとづき概算要求を行ってきたが、2007年の東北大学創立100周年を期に、現50周年記念講堂を総合学術博物館として改装する方針が2004年4月に提出された。しかしながら、記念講堂改築も実現に至らず、展示事業等については理学部自然史標本館を共用して運営し、現在に至っている。

またこの間、理学部自然史標本館を共用しての展示のほか、東北大学収蔵標本に関するデータベース作成などの資料標本収蔵・管理事業や特別講演会、公開講座、博物館体験講座などの普及事業を行ってきた。さらに、外部施設を借用しての企画展・特別展「東北大学総合学術博物館のすべて」シリーズI～XIIIを企画し、実施してきた。

(2) 目的

総合学術博物館は、附属図書館・史料館・植物園などとともに、東北大学の学術を支援し、その生命基盤ともいふべき、図書・情報技術・学術資料および史料などを運営する東北大学の共同教育研究施設（アカデミック・サービス）の重要な一部として、これらの貴重な知的財産を管理・保存し、データベース化を図り、新たな知的資源として現在と未来に活用できる環境を構築するための研究教育施設である。また、新たな資料・標本の発掘・収集につとめ、資料・標本に基づく研究教育の学内中核拠点となり、大学の知の発信基地としての役割を果たす。

総合学術博物館は、図書館－史料館－植物園などとの連携を図り、「東北大学」についての初年次教育を行う場として機能するとともに、東北大学の学生・スタッフであることのアイデンティティーを涵養し、大学の一員として共に発展をめざす共通の精神的基盤を与える場となる。また、学内構成員や来訪者の「集いの空間」となることを目指す。さらに、「開かれた大学」の窓として、東北大学100年の研究教育の歴史や現在おこなわれている研究を公開するとともに、蓄積された知的財産を展示やインターネット、講演会等により一般公開し、社会に還元する。

(3) 活動方針

総合学術博物館は、東北大学がその研究教育活動を通じて蓄積してきた学術資源の継承・保全、データベース化、それらの学術財産としての活用および学内外への公開につとめる。具体的には、

以下の諸事業を企画し、実施する。

- ① 東北大学所蔵の資料標本等の収蔵・管理・利用等に関わる諸規程を整備し、東北大学の各部局に分蔵されている資料標本等を一括収蔵・保管・展示するとともに、これらを学内・学外の研究者や大学院生・学生の研究・教育の資源として利用できる体制を作る。
- ② 新たな資料標本等の発掘・収集につとめるとともに、資料標本に基づく研究教育の学内拠点となることをめざす。また、資料標本類のデータベースを構築して、研究者に情報を提供し、かつ膨大なデータに基づく新たな研究を行う。
- ③ ギャラリー展示・常設展示・特別展示・企画展示などを企画し、実施するとともに、インターネット・ホームページの公開などを行い、東北大学の研究教育の歴史や現状、東北大学が所蔵する学術資料標本等を一般公開する。また、博物館紀要・ニュースレターの発行、各種講演会・講座・体験学習会などの事業を行い、「開かれた大学」の窓として研究成果の社会への還元を図り、社会教育・生涯教育に寄与する。

(4) 組織と運営

総合学術博物館（以下博物館）は、館長、研究部および事務室から組織される。博物館は学術資源研究公開センターの業務組織として、センター運営専門委員会の議による基本方針に従い、業務を行う。総合学術博物館の具体的運営については総合学術博物館部会が審議する。

総合学術博物館には、教授2名、准教授3名、助教2名および客員教授1名が配置されている。総合学術博物館の日常的業務運営は、博物館教職員からなる博物館会議が担当する。また、関連する分野の兼務教員をセンターに置き、これらとともに研究テーマや研究分野ごとの研究グループを組織し、資料標本等に基づく研究を行う。本学の専任の教員以外の研究者等からなる協力研究員、本学の事務職員又は技術職員からなる協力調査員の協力を得て、事業を推進する。

総合学術博物館事務室は、専任（理学研究科）およびパート事務員から構成され、博物館業務の円滑な遂行を図るための管理・運営事務および資料標本のデータベース作成業務などを担当する。

(5) 施設

① 理学部自然史標本館

理学研究科附属自然史標本館を共用して運営している。自然史標本館の総面積は 1,747m² で、うち収蔵室面積 742 m²、展示室面積 498 m² である。収蔵室にはおよそ 600,000 点の生物、古生物、鉱物、岩石標本および古地図資料が収蔵されている。年末年始と休館日（休日の翌日）を除き、通年開館している。

② 総合学術博物館仮収蔵施設

各部局管理の資料標本類および自然史標本館収蔵以外の、総合学術博物館管理の資料標本類は、他部局から借用したスペースに収蔵・保管されている。それらの概要は以下のとおりである。

資料標本	点数	収蔵場所	面積
金属学・金属工学資料標本	約5,000点	理学部機械室	50 m ²
骨格標本, 分析用岩石試料	200点+150箱	理学研究科合同A棟別館205 および206	48m ²
岩石・古生物・動物標本, 考古資料標本	28,500点	総合学術博物館三神峯標本収蔵室（プレハブ）	260m ²
分析用岩石試料, 金属学関係書籍	150箱 +5,000冊	理学研究科敷地内プレハブ倉庫	54m ²
計	約33,700点+ 300箱+ 5,000冊		約612 m ²

(6) 運営経費

予算額		決算額	
研究支援経費等 （博物館運営経費, 業務委託）	12,564,686	管理運営費 施設運営費	1,939,995 2,271,780

等経費, その他)		印刷製本費	1,963,440
研究基盤経費より充当	0	運送料	175,769
総長裁量経費	1,000,000	清掃費	580,327
全学的基盤経費	9,200,000	借料・雑役務費	799,959
		展示関係費	987,060
		賃金経費	3,761,668
		管理旅費	280,213
		全学的基盤経費	9,200,000
		総長裁量経費	10,000,000
計	31,764,686	計	31,960,211

2. 活動概要

(1) 資料標本等収蔵関連事業（収蔵・データベース）

博物館は、自然史標本館に保管されている自然史関係（生物標本、古生物標本、鉱物標本、岩石標本、古地図など）の資料標本約 60 万点と、学内数カ所の借用スペースに保管されている約 15 万点の整理（データベースの作成を含む）、管理、貸出、展示に関わる、情報関連設備整備事業、収蔵資料標本登録事業、収蔵資料標本情報公開事業、収蔵関連設備整備事業の各事業を実施した。それらの概要は以下の通りである。

① 仮収蔵場所確保と標本移転

三神峯収蔵庫の復帰

三神峯キャンパスの収蔵庫については、電子光理学研究センター研究棟の改築工事のために研究スペースとして提供していたが、工事の完了に伴い、2014年8月21日に同キャンパス内の旧廃液物貯蔵庫に一時収蔵していた古生物標本・岩石標本・骨格標本等を戻し、元通りに利用できるようになった。

未登録標本の移転

自然史標本館に収蔵されている未登録の古生物・現生標本のうち約 400 箱（運搬箱）を旧青葉山ゴルフ場クラブハウス内の収蔵室に移転した。これにより新規登録標本ないし受け入れ標本等の保管場所を確保した。

② 資料標本の受入・収蔵（新規登録番号 111508～111700 の発行および移管等：資料標本件数；瓶は液浸ガラス瓶個数、箱は運搬箱個数）

1. 遠藤隆次氏採集の化石標本等 27 点（寄贈）
2. 遠藤隆次氏の業績にまつわる資料（寄贈）
3. 原始維管束植物化石、ロシア産三葉虫化石 11 点（購入）
4. 恐竜模型および鉱物標本等 2 点（寄贈）

資料標本等の学外からの利用件数

1. 古生物標本：22 件
 2. 鉱物学標本：2 件
 3. 考古学資料：3 件
 4. 生物学標本：1 件
 5. 科学史資料：1 件
 6. 金属学資料：1 件
 7. 河口慧海資料：3 件
- 計 33 件（2015.4.1～2016.2.22）

③ 標本管理データベース入力作業

- ・ 標本整理及び保管場所データ入力作業
東北大学理科学部報告の文献情報を標本データベースに組み込んだ。
- ・ 未登録標本の内容確認作業

自然史標本館に収蔵されている未登録の古生物・現生標本の内容確認作業を進めた。約1200箱（運搬箱）について終了。

④ 収蔵資料標本情報（データベース）公開事業

- ・ 二枚貝類画像データベース公開事業
2013年9月に仮公開を開始した現生・化石二枚貝類標本のデータベースについて随時修正および追加作業を進めている。
- ・ 3D現生浮遊性有孔虫データベース構築
日本海洋研究開発機構と連携し、現生種、標本について3Dデジタル標本を作成しデータベース構築を進めた。
- ・ 3D底生有孔虫データベース構築
長谷川四郎協力研究員と連携し、浅野名誉教授コレクションのデータベース構築を進めた。

(2) 展示関連事業

自然史標本館常設展示等

- ・ NPO法人 natural science「サイエンス・デイ 2015」との連携で7月19日標本館の無料開放を実施した。
- ・ NPO法人ミクロネシア振興協会招へいプログラムで、ミクロネシア高校生・日本国際協力センター職員が来館した（7月22日）。
- ・ 理学部キャンパスツアーで、「みちのく博物学団」が展示案内を行った（7月23日）。
- ・ 神奈川県小田原市中高生「東日本大震災被災地スタディツアーin東北大学」来館（7月25日）。
- ・ オープンキャンパス（7月29～30日）の無料開放を実施した。
- ・ しばたの郷土館「史跡めぐり」が来館した。
- ・ 開館記念日（10月3日）の無料開放を実施した。
- ・ ホームカミングデー（10月31日）の標本館無料開放を実施した。
- ・ 常設展スタンプラリーを制作し、実施した。
- ・ ミュージアム缶バッチの販売を実施した。
- ・ 総合学術博物館・理学部自然史標本館入館者数（2015年4月～2016年1月）13,151名（内訳：大人：9,230名，小人：2,876名，パスポート入館者：1,045名）。

入館者数

有 料 者 数				無 料 者 数		合 計		
個 人		団 体						
大人	小 人	大人	小 人	大 人	小 人	大 人	小 人	計
7,812	1,468	79	77	2,930	2,920	10,821	4,465	15,286

入館料収入

有 料 者 数				合 計	
個 人		団 体			
大人	小 人	大人	小 人	計	
1,171,800	119,200	28,560	1,380	1,258,540	

① ミニ展示（自然史標本館）

「復興 南三陸町・歌津魚竜館 ―世界最古の魚竜のふるさと」

② 特別展・企画展・講演会等

- ・ 奈良美智講演会 in 東北大学「記憶の中のカタチ～豊かさと貧しさ」
学際科学フロンティア研究所と共催，青森県立美術館企画協力
- ・ 内容：2016年度に計画されている青森県立美術館企画展「青森EARTH2016」での，アー

ティスト奈良美智氏による東北大学所蔵資料を用いた展示のプレ企画として開催。
会場：東北大学総合学術博物館
期間：2015年11月3日開催。参加者420名。

- ・宮城県議会・国立大学法人東北大学企画展示
「東日本大震災アーカイブ～あの時を忘れないために～」
宮城県議会・東北大学共催，展示担当：東北大学総合学術博物館
2月24日～3月4日に「3次元でみる震災の記録」で3次元デジタル震災遺構MR体験展示，NHKメディアテクノロジー制作の3D動画を展示。
2月29日関連講演会を開催。
「東北地方における歴史・先史時代の巨大津波」
後藤和久（東北大学災害科学国際研究所）
「東日本大震災からの教訓災害に韌い社会を創る減災意識」
保田真理（東北大学災害科学国際研究所）
会場：宮城県議会庁舎（2016年2月16日～3月11日）
- ・ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会「震災遺産を考えるーガレキから我歴へ」
主催：ふくしま震災遺産保全プロジェクト，共催：東北大学学術資源研究公開センター，東北大学災害科学国際研究所，東北大学グローバル安全学トップリーダー育成プログラム
期間中3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験実施
3月19日シンポジウム「震災遺産を考えるー震災を伝えるためにー」開催
会場：福島県立博物館（2016年2月11日～3月21日）
- ・東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム「共に未来へ～東日本大震災から5年～」
主催：東北大学災害復興新生研究機構
会場：東北大学川内キャンパス（2016年3月8日）
震災遺構の3D可視化デモンストレーションを実施
- ・東北みらいプロジェクトレクチャー「地球と宇宙の謎に挑む」
東北未来プロジェクトと協力して開催
東北大学川内キャンパス，総合文科系講義棟2階大講義室（2016年3月19日）
講師：西村太志（東北大学大学院理学研究科），三浦 哲（東北大学地震・噴火予知研究観測センター），早坂忠裕（東北大学大学院理学研究科）
- ・第25回日本外来小児科学会年次集会
「未来を担う子どもたちのために ～小児科医に託されるもの～」
日本外来小児科学会
震災遺構の3D可視化デモンストレーションを実施
東北大学川内キャンパス（2015年8月22～23日）

④ 仙台宮城ミュージアムアライアンス（SMMA）等の地域連携

- ・SMMAクロスイベント「みんなでどろんこ！生きもの観察in 地底の森」（総合学術博物館と地底の森ミュージアムによる企画）（2015年9月26・27日実施）。
- ・SMMAミュージアムユニバースへの出展
在仙15館が集結する年一度の祭典ミュージアムユニバースに，みちのく博物楽団とともに参加。内容：トークとイベントの広場①「シンデレラの原型～ガラスの靴・灰の意味～」②「ミュージアムのとっておきの話うごく編」，体験の広場「生きもののふしぎにふれてみよう」（うみの杜水族館・八木山動物公園とのコラボ），展示の広場「みちのく博物楽団の取り組み」他。
会場：せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア。
期間：2015年12月18～19日（来場者数：2,548名）
- ・学都仙台宮城サイエンス・デイ2015
7月19日（日）9:00～16:00（東北大学総合学術博物館およびみちのく博物楽団参加）。
内容：理学部自然史標本館当日入館無料，みちのく博物楽団「昔の仙台ってどんなところ？～作って学ぼう！化石折り紙～」。
サイエンスデイAWARD2015表彰式。7月24日（金）（みちのく博物楽団参加）。

全体の来場者数：8,661名。

- ・南三陸町「わらすこ探検隊」（9月23日開催）に講師として協力した。
- ・宮城県被災文化財等保全連絡会議の運営に幹事館として協力した。
- ・東日本大震災により被災した国指定天然記念物「魚竜化石産地」の復興事業に協力した。
- ・いわき明星大学で開催された「富岡町の成り立ちと富岡・夜の森」[同時開催]富岡町震災遺産展～複合災害とこれから～（富岡町・富岡町教育委員会主催）にて、3D デジタル震災遺構アーカイブ体験にデータ提供および展示協力を行った（2016年3月9～14日）。

3. 教育・教育支援・普及教育事業の概要

総合学術博物館は、学術資料・標本をあつかう教育・研究の拠点として、各部署と連携を図り、自然・人間・社会に関する広範な分野の研究教育をめざしている。活発な知の創造の拠点として、学術資料標本の学術的価値ならびにそれをあつかう知の継承と普及の拠点として、広い視野と高い専門性をもち行動力のある指導的人材の育成をめざしている。総合学術博物館は、東北大学でおこなわれる全学教育ならびに専門教育を学内教育共同研究施設として支援するために、多分野にわたる資料標本を展示のかたちで提供し、大学人としての幅広い教養の修得に貢献する。初年次教育の一環としての、博物館に収蔵されている学術資料標本などを通して東北大学における研究の成果にふれさせる講義や実習を支援し、学生の知的好奇心の拡大を図っている。また、他大学の博物館学実習等の教育支援も行なう。また、博物館教員はそれぞれの専門分野に応じて、関係する学部・大学院研究科の教育にたずさわっている。

(1) 学内教育への貢献

総合学術博物館所属教員（教授2，准教授3，助教2）は全学教育や協力部局での専門教育，大学院教育に参加し，学内教育に貢献している。

① 学内教育への参加（担当延べ授業数：分担も1コマとして扱う）

全学教育科目		専門教育科目		大学院科目		他大学	計
講義	実習・課題 研究等	講義	実習・課題 研究等	講義	実習・課題 研究等		
1	0	10	8	6	6	1	32

② 学位審査等

卒業論文指導	修士学位審査			博士学位審査		
	主査	副査	最終試験 委員	主査	副査	最終試験 委員
4	0	10	29	1	1	1

(2) 学内教育・学外教育との連携 授業・実習等での博物館（自然史標本館）の利用

総合学術博物館（理学部自然史標本館）の常設展示は，学内の諸授業や県内・県外の小中高等学校および大学での授業の一環として，また，社会学級，子供会，教員の研修その他の活動の一環として利用されている。

① 学内教育との連携 授業・実習等での博物館（自然史標本館）の利用

	講義での利用 回数		実習・演習等での 利用回数		その他	備考
	全学 教育 科目	専門 教育 科目	全学 教育 科目	専門 教育 科目		
2015 年度	4	2	0	0	0	地球の科学，地球のダイナミクス，進化古生物学，博物館学Ⅱ，理学部の歴史，動物資源利用学等

② 学外機関の授業・実習等での博物館（自然史標本館）の利用

	オープンユニバーシティ	他大学授業等	高等学校・専門学校	中学校	小学校	その他（社会教育等）	計
利用回数（延べ人数）	2 (1,612)	1 (31)	9 (385)	32 (639)	21 (464)	13 (279)	78 (3,410)
地域等		宮教大, 山形大	県内, 福島	県内, 山形, 福島, 岩手, 北海道	県内, 秋田, 岩手, 山形, 青森		

②大学博物館体験活動（公開活動後援）

- ・ NPO 法人ミクロネシア振興協会招へいプログラムで、ミクロネシア高校生・日本国際協力センター職員が来館した（7月22日）。
- ・ 理学部キャンパスツアーで、「みちのく博物学団」が展示案内を行った（7月23日）。
- ・ 神奈川県小田原市中高生「東日本大震災被災地スタディツアーin 東北大学」来館（7月25日）。
- ・ オープンキャンパス（7月29～30日）の無料開放を実施した。
- ・ しばたの郷土館「史跡めぐり」が来館した。
- ・ 開館記念日（10月3日）の無料開放を実施した。
- ・ ホームカミングデー（10月31日）の標本館無料開放を実施した。
- ・ 常設展スタンプラリーを制作し、実施した。
- ・ ミュージアム缶バッチの販売を実施した。

標本館展示室においてMR設備による震災遺構の3次元可視化デモンストレーションを12回実施した〔（福島県富岡町（2015年5月14日）、福島県浪江町復興政策課他（2015年5月21日）、宮城県山元町教育委員会（2015年6月3日）、神奈川県小田原市中高生向けスタディツアー（2015年7月25日）、宮城県石巻市復興政策部（2015年8月17日）、国交省東北地方整備局東北国営公園事務所ほか（2015年8月25日）博物館実習（2015年9月15日）、福島県富岡町副町長他（2015年9月18日）、仙台市（2015年12月24日）、浪江町および福島県生涯学習課ほか（2015年12月25日）、福島県いわき市行政経営部秘書室ほか（2016年1月25日）等自治体の視察、授業等〕。

(3) 広報その他

常設展および企画展、普及講演会、普及事業等の広報のために、総合学術博物館のホームページを制作・更新するとともに、ニュースレター等の印刷物制作と配布および新聞等への掲載依頼を積極的に行い、活動の広報につとめている。

① ホームページ

- ・ 博物館ホームページ更新6件。
- ・ 博物館ホームページ訪問数 145211（2015年4月～12月）
- ・ 博物館標本データベースアクセス数（2015年4月～2016年1月）165,351件（トップページ：105,057、デジタル標本：12,355 チベット民俗：5,432 河口恵海：936 金属：4,559 考古：7,590 鉱物：3,184 冬虫夏草：9,816 植物：873 有孔虫：15,549）

② ニュースレター「Omnividents」（オムニヴィデンス）の発行

- ・ No.48（2015年7月発行）第3回国連防災世界会議関連報告 アンインテンディド・ジャーニー スミソニアン自然史博物館と国連防災世界会議— 震災被災地発見の旅・新教授・新助教ごあいさつ・ミュージアムの種を蒔く（後編）・博物館の魅力— データベース作成補助ほか。
- ・ No.49（2016年3月発行）南三陸町で発見された“謎の化石”はわが国初の囊頭類（Thylacocephala）化石・第3回国連防災世界会議関連展示報告・発見の楽しさがわかるワー

- クショップを目指して・宮城県鬼首の地層に記録された過去の破局的噴火ほか。
- ・ No.50 (2015 年 11 月発行) 50 号記念特集号 ひらく、つながる、大学博物館・特集① “遊びをせんとや生れけむ” ～ 3D コンピューティングとミュージアム～・特集② “バイオミメティクスと博物館” ～ Mining the past for the future ～・特集③ “MR 技術がつなげる博物館と人々”・特集④ “総合学術博物館に期待しています”・ちいさな博士の誕生～「みんなでどろんこ！生きもの観察 in 地底の森 2」を開催しました・奈良美智講演会 in 東北大学「記憶の中のカタチ ～豊かさと貧しさ」を開催しましたほか。

4. 研究活動の概要

総合学術博物館は、研究資料としての新たな資料標本等の発掘・収集につとめるとともに、資料標本にもとづく研究教育の学内拠点となることをめざしている。また、資料標本類のデータベースを構築して、研究者に情報を提供し、かつ膨大なデータにもとづく新たな研究を行う。その主要な目標は以下の通り。

- ・ 東北大学所蔵の貴重な学術資料標本等を集中的に保管し、これらを学内外の研究者が研究資源として有効に利用できる体制を作る。
- ・ 学内外の研究者・大学院生による、博物館収蔵資料標本および設備機器を使用した研究活動を支援する。
- ・ 収蔵資料・標本にもとづく基礎的研究を奨励し、学術資料標本のさらなる資源化を図るための方策を講ずる。
- ・ 豊富な原資料標本の詳細な記載にもとづく「かたち」の多面的研究を積極的に推進する。

(1) 学会及び教育活動

- ・ 第18 回大学博物館等協議会・第10 回博物科学会への参加。会期：2015 年6 月25～26 日 会場：金沢大学資料館。ポスター発表：「福島県における東日本大震災遺構 3次元ポイントクラウドアーカイブ構築公開事業」（鹿納晴尚）
- ・ J-DESC（日本地球掘削科学コンソーシアム）コアスクール微化石コースを、2015 年8 月6 日から8月8 日の期間で開催した（J-DESC および理学部地圏環境科学科との共催）。
- ・ 附属図書館関係業務の一環として震災復旧活動に関わる漱石文庫修復助言（2015 年5 月～）
- ・ 山元町の要請により宮城県山元町合戦原遺跡の地質調査と、同遺跡の線刻横穴墓の 3D 撮影を実施した（2015 年6 月10 日）

(2) 東北大学総合学術博物館研究紀要第 15 号（196 頁）を 2016 年 3 月 28 日発行。

1. Bandoceras, a new Late Silurian genus of orthocerid cephalopod from the HitoeganAIZUMI
2. A catalogue of name-bearing type specimens of fossil Bivalvia (Mollusca) deposited in the Tohoku Univee Formation, GifuPrefecture, Central Japan. SHUJI NIKO
3. Trematoceras hikichii sp. nov., an Early Triassic orthocerid cephalopod from the Osawa Formation, Miyagi Prefecture, Northeast Japan. SHUJI NIKO, MASAYUKI EHIRO and YUKIHIRO TAK
4. rsity Museum. SHIN'ICHI SATO, TOMOKI CHIBA, TAKAKI YAMANAKA, JUN NEMOTO, MASANORI SHIMAMOTO and TAKASHI MATSUBARA
5. Nicaniella (Trautscholdia) nagaoui, a new replacement name for Astarte minor Nagao, 1934, non Astarte sulcata var. minor Jeffreys, 1864 ["1863"] (Mollusca: Bivalvia: Astartidae). TAKASHI MATSUBARA
6. 北海道中央部芦別地域に分布する空知層群・蝦夷層群の古地磁気学的研究。北川雄貴，高嶋礼詩，伊藤康人
Standard use-wear chart of TUMRT(2):Microflaking (2). KAORU AKOSHIMA, HYEWON HONG

(3) デジタル工房／マイクロトモグラフィセンター

学内共同利用設備として学内及び学外研究教育組織と連携し、卒業論文、修士論文、博士論文の支援および指導、海洋酸性化・古生物学・火山岩石学・岩石破壊学・考古学・生物学など自然史科学に加え、医工連携など多様なテーマについて共同研究を実施した。また、民間企業との共同研究による CT 技術開発を進めたほか、進化古生物学（理学部）・博物館実習 I（理学部）、集中講義（文学部）など学生教育に積極的に活用した。

学内利用

理学研究科地球惑星物質科学科（火山岩等112）
 理学研究科地圏環境科学科（堆積岩等120）
 文学研究科考古学（土偶等14）
 薬学研究科臨床（マウス等2）
 災害科学研究所（津波堆積物2）
 流体科学研究所（血管モデル等40）

学外利用

日本海洋研究開発機構（浮遊性有孔虫等148）
 東京大学・北西大学（中国）（胚化石10）
 首都大学（アリ類10）
 東京大学（サンゴポリプ22）
 東京工業大学（ガボン化石等10）
 琉球大学（サンゴ40）
 近畿大学・京都大学（衝突実験試料14）
 名古屋大学（堅果類104）
 新潟医療福祉大学（縄文人頭骨2）
 七ヶ浜町教育委員会（象嵌土製品1）
 産学連携（樹脂等27）

(4) 図書館の業務に対する指導・支援

博物館に所属する、情報シナジーセンターから異動の教員は附属図書館協力研究員として活動してきたが、その活動はセンター異動後も継続している。小川知幸助教が行った附属図書館関係業務は以下の通り。

- ・ 附属図書館で発見されたドイツ新カント派哲学者W. Windelband の直筆ノート鑑定助言（2015年5月～12月）読売新聞2016年1月11日朝刊12面掲載
- ・ 貴重図書等委員会委員（2015年4月～）
- ・ 附属図書館協力研究員への助言と指導（2015年4月～）
- ・ ミュンスターベルク文庫の照会，調査にかかる業務（2015年4月～）
- ・ 漱石文庫修復助言（2015年5月～）
- ・ 『図書館人物事典』（仮）人名録（パニッツィ，エドワーズ，ユーアト）執筆（2015年6月）
- ・ 附属図書館企画展「狩野文庫の世界」展示資料解題監修（2015年10月）
- ・ 「附属図書館より発見された2通の書簡」（東北大学附属図書館調査研究室年報第3号）執筆（2016年3月発行予定）
- ・ 附属図書館企画展「漱石没後100年記念 漱石文庫～文豪が遺した創作の背景～」展示資料解題監修（2016年3月）

(5) 教員及び協力研究員による研究活動

総合学術博物館所属教員（教授2名，准教授3名，助教2名）は，それぞれの研究分野において協力講座（理学研究科地学専攻自然史科学講座），協力教員（文学研究科）として研究活動に加わっている。また，国内外での調査にもとづき，資料標本に関する研究を行い，学会等において積極的に発表するとともに，その成果を学会誌等に投稿・公表し，関連分野の科学的発展に貢献している。また，学会役員，学会誌編集委員や査読委員として，関連する学会活動に貢献している。これらの研究活動を遂行するために，科学研究費助成金や財団・民間等の競争的資金に積極的に応募している。

① 学術論文等（論文，著書，その他）（共著含む）

著書（分担執筆含む）	論文			報告書，その他	書評	計
	査読あり	査読なし	計			
2	14	1	15	5	0	20

② 学会講演（共同発表含む）

国際学会			国内学会			総計
招待	一般	小計	招待	一般	小計	
0	4	4	0	45	45	49

③ 国際研究集会への参加・海外渡航等

国際研究集会への参加	海外渡航(学術調査等)	計
5	3	8

④ 学会役員・編集委員・学外委員等

国内学会役員	国際研究組織委員	学会誌等編集委員	学外委員	研究集会・シンポジウムの組織委
7件	5件	12件	10件	3件

⑤ 研究資金受託状況

科学研究費受託状況

科学研究費助成金件数（当該年度補助金：千円）						計	
基盤 A		基盤 B		基盤 C		挑戦萌芽	
代表	分担	代表	分担	代表	分担	代表	分担
1 (3,600)		1 (2,700)	1 (700)	2 (2,753)	2 (550)	0	
						4 (9,053)	2 (1,250)

財団・民間等研究助成金，共同研究件数（該当年度補助金総額）

委託研究，財団・民間等研究助成金	共同研究	計
4 (7,439)		4 (7,439)
高知大学，三菱財団自然科学助成，住友財団環境科学助成，有機化学研究助成		

⑥ 外国人客員教員の研究活動

博物館に外国人客員教授を招聘し，東北大学所蔵標本に関する研究や博物館教員との共同研究を行っている。招聘の客員教授とその研究テーマは以下のとおりである。

ハイラー・ヨウ教授（中国科学院古脊椎動物古人類研究所，2016年2月～3月）

西教授，高嶋准教授と中国の白亜系陸成層の層序に関する共同研究を行った。

⑦ 協力研究員との連携教育・研究活動

- ・ 永広昌之東北大学名誉教授と連携し，南三陸町において被災ミュージアム支援活動として古生物調査研究および普及活動を実施した。
- ・ 長谷川四郎熊本大学名誉教授と連携し，浅野名誉教授・底生有孔虫コレクションの整理を進めた。

⑧ 研究機関等との連携構築

- ・ 仙台市文化財保護委員会委員
- ・ 名取市文化財保護審議会委員
- ・ 南三陸町天然記念物委員会委員
- ・ 宮城県被災文化財等保全連絡協議会幹事
- ・ SMMA 実行委員
- ・ 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所での共同利用研究への参加。
- ・ 2015年7月10-12日 国立科学博物館と山梨県乙女鉱山の岩石鉱物を共同調査した。
- ・ 2016年1月7-8日 国立科学博物館と東京都白丸鉱山の鉱物を共同調査した。
- ・ 内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）次世代海洋資源調査技術（海のジパング計画）への参加。

5. その他大学運営に関する活動等

博物館教員は、東北大学の広報や運営、他部局の運営等についても、各種委員会委員として貢献している。

- ・ 情報シナジー機構情報システム利用連絡会議委員
- ・ 埋蔵文化財調査研究センター運営委員会、同専門委員会委員
- ・ 青葉山キャンパス整備委員会委員
- ・ 青葉山北キャンパス WG 委員
- ・ 広報連絡会議委員
- ・ 理学部開講 100 周年事業準備委員会
- ・ 理学部安全委員会委員
- ・ 附属図書館協力研究員
- ・ 附属図書館貴重図書等委員会委員
- ・ 附属図書館古典資料等修復保存小委員会委員

6) 東日本大震災文化財等レスキュー事業等の被災地復興支援活動

博物館は、震災直後から被災ミュージアム支援と震災遺構アーカイブ構築に重点を置いた被災地復興支援を実施している。本年度は以下の事業を実施した。

① 被災ミュージアム復興支援活動

- ・ 宮城県被災文化財等保全連絡会議の運営に幹事館として協力した。
- ・ 東日本大震災により被災した国指定天然記念物の復興事業に協力した。
- ・ 被災ミュージアム支援活動として南三陸町小学校行事「わらすこ探検隊」(9月23日)に協力した。

② 東日本大震災・震災遺構 3次元ポイントクラウドデータアーカイブ構築事業

- ・ 総長裁量経費による支援とみちのく震録伝の協力により、以下の震災遺構等の3次元ポイントクラウドデータアーカイブの計測作業を行った。
いわき市 豊間中学校 (2015年4月), 浪江町 浪江中学校体育館 (2015年10月), 荻野小学校体育館 (2015年10月), 浪江駅周辺まちなみ (2015年12月), 荻野公民館 (2015年12月), 泉田川漁協建屋およびふ化場 (2015年12月), いこいの村浪江内部 (2015年12月), 請戸集会所 (2015年12月), 南棚塩集会所 (2015年12月), 双葉町 マリーンハウスふたば 駅前近くの原子力標語看板 (2015年10月), 南相馬市 井田川河口周辺 (2015年12月), 富岡町 町なみ (2015年12月)。
- ・ 標本館展示室において MR 設備による震災遺構の3次元可視化デモンストレーションを12回実施した。(福島県富岡町 (2015年5月14日), 福島県浪江町復興政策課他 (2015年5月21日), 宮城県山元町教育委員会 (2015年6月3日), 神奈川県小田原市中高生向けスタディーツアー (2015年7月25日), 宮城県石巻市復興政策部 (2015年8月17日), 国交省東北地方整備局東北国営公園事務所長ほか (2015年8月25日) 博物館実習 (2015年9月15日), 福島県富岡町副町長他 (2015年9月18日), 仙台市 (2015年12月24日), 浪江町および福島県生涯学習課ほか (2015年12月25日), 福島県いわき市行政経営部秘書室ほか (2016年1月25日) 等自治体の視察, 授業等) 実施したほか, 外来小児科学会 (2015年8月22-23日, 東北大川内キャンパス) において震災記録の展示および MR 設備による震災遺構の3次元可視化デモンストレーションを実施した。
- ・ 宮城県議会・国立大学法人東北大学企画展示「東日本大震災アーカイブ～あの時を忘れないために～」の関連行事「3次元でみる震災の記録」で3次元デジタル震災遺構MR 体験を実施 (2016年2月24日～3月4日)。
- ・ ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会「震災遺産を考えるーガレキから我歴へ」において3D デジタル震災遺構アーカイブ体験実施 (2016年2月11日～3月21日)。2月11日にマスコミ対応を行い, 当日のNHK 福島放送局のローカルニュースにて「3D で震災遺構を体験」として報道等がされた。
- ・ 本学災害復興新生研究機構シンポジウム関係特別企画展示 (3月8日) において3D 可視化

デモンストレーションを実施。

- 2016年3月9日から14日にいわき明星大学で開催された，富岡町・富岡町教育委員会が主催する「富岡町の成り立ちと富岡・夜の森」[同時開催]富岡町震災遺産展～複合災害とこれから～にて，3D デジタル震災遺構アーカイブ体験にデータ提供および展示協力を行った。

III. 史料館

1. 組織概要

(1) 理念・目的と事業内容

東北大学史料館は、東北大学の歴史に関する資料の保存・公開をおこなう、東北大学のアーカイブズ（Archives＝文書館・公文書館）である。

発足間もない 2001 年度に当時の史料館運営委員会でまとめられた『東北大学史料館の将来構想』では、21 世紀の東北大学のアーカイブズとして史料館が果たすべき基本的な役割が、以下の 4 点に整理し明示されている。

- 一、大学における歴史的情報を学内外に公開し、現代的情報を対象とする情報公開制度との両輪で「開かれた大学」という理念を実現する。
- 二、大学自身の歴史的资料を、長期的な見通しに立った大学改革・大学評価の基礎となる材料として活用し、大学の発展に貢献する。
- 三、収蔵資料を基礎にした大学史に関する研究活動を行い、これを基礎にした大学教育・社会教育活動を行うことで学術研究や地域文化の発展に貢献する。
- 四、アーカイブズそのものに関する研究・教育活動及びその支援を行い、公文書館等各地の資料保存機関で活躍する人材の育成に貢献する。

ここに示された理念の実現のために、史料館では本部事務機構以下の学内諸部局や関係分野の教員との連携のもと、以下の事業を継続的に実施している。

- 1) 学内諸部局に散在する大学公文書を保存期間満了後に歴史的価値評価に基づいて選別集約し、同時に本学の歴史に関する個人文書等の調査・収集を行うことで、東北大学の歴史資料として価値を有する様々な記録資料の集約と保存を図る。
- 2) 史料館に集積された資料を一般の閲覧利用に提供し、同時にそのための利用環境の整備（資料調査・整理および目録・データベースの作成公開）を図る。
- 3) 常設展示や企画展示など東北大学の歴史に関する展示活動や広報誌の発行等を通じて、東北大学の歴史に関する社会教育・普及活動を実施する。
- 4) 東北大学の歴史や資料保存・公開等に関する調査研究活動を実施し、同時にこれらを基礎にした教育活動を行う。

(2) 沿革

東北大学史料館は、昭和 38 年(1963)7 月にわが国初の大学アーカイブズ「東北大学記念資料室」として設置されて以後、半世紀近くにわたって活動を続けている。その沿革は以下のようにまとめられる。

①『東北大学五十年史』編纂事業と東北大学記念資料室の発足

東北大学では、昭和 35 年(1960)に『東北大学五十年史』の編纂刊行を終了したのち、編纂事業において調査・収集した資料の保存公開の必要が認識され、1963 年(昭和 38)7 月、「本学の歴史に係る記念となる資料を収集、保存するとともに、これを公開活用して、もって本学及び学術の発展に寄与する」ことを目的とする「東北大学記念資料室」が設置された。当時国内にはこうした大学アーカイブズの設置例はまだなかったが、欧米の大学ではアーカイブズが多く設置され始めており、こうした事例を参考にわが国初の「大学アーカイブズ」として発足した。

当初この記念資料室は附属図書館内に設けられ、職員もまた図書館業務を兼務するなど実質的には図書館と一体的なかたちで運営されていた。しかし 1986 年 10 月からは片平地区の旧附属図書館本館閲覧室を単独で使用し、教員についても専任の教員が配置され、実質的にも図書館業務と独立した組織として運営されるようになった。

②いわゆる「情報公開法」の施行と東北大学史料館への改組

平成 12 年(2000)12 月、「東北大学記念資料室」は「東北大学史料館」へと改組された。この「史料館」への転換は、国立大学法人化に向けた学内改組の動きのなかで従来の「記念資料室」のありかたについて再検討を進めた結果、(1)いわゆる「情報公開法」の施行に伴う保存期間を満了した歴史公文書の保存公開体制整備、(2)『東北大学百年史』編纂事業の伸展に伴う資料受入・保存公開体制のさらなる整備、(3)本学を代表する一般公開施設としての整備充実、といった観点から必要な改革としておこなわれたものであった。とくに(1)については、翌年 4 月より保存期間を満了した歴史公

文書の評価を史料館が担当することが学内で正式に制度化され、以後歴史公文書にかかる業務が大きな比率を占めるようになった。

なお平成 18 年(2006)4 月には、総合学術博物館・植物園・史料館を「業務組織」として傘下に置く「東北大学学術資源研究公開センター」が設置され、史料館は以後同センターの業務組織となった。その結果博物館等との連携も強めているが、一方で事務担当部局は従来通り附属図書館とされ、図書館との関係も維持されている。

③「公文書等の管理に関する法律」施行と史料館公文書室の発足

平成 23 年(2011)4 月、「公文書等の管理に関する法律」の施行に伴い、国の行政機関や独立行政法人等における公文書管理制度の大幅な見直しがおこなわれることとなった。東北大学においても同法に対応する形で「国立大学法人東北大学法人文書管理規程」が制定されるとともに、従来から実施してきた歴史公文書の史料館への移管制度をふまえ、同法が「特定歴史公文書等」の保存公開施設として定める「国立公文書館等」に相当する施設として、史料館に新たに「公文書室」を設置することとなった。

公文書室は学術資源研究公開センター史料館の一部門である一方で、総長の指名する副学長又は理事が委員長をつとめる「東北大学公文書管理委員会」のもとで本学の歴史公文書の管理公開を担当する組織としても位置付けられるなど特別な位置づけとなっている。またこうした位置付けに対応し、公文書室関係の事務に関しては総務部総務課が担当している。

また公文書室の設置と同時に、個人からの寄贈資料やその他の大学史にかかる多様な歴史資料を「特定歴史公文書等」と区分して管理・公開するため、「公文書室」と並ぶ室として「記念資料室」を設置し、以後この 2 室(2 部門)体制で、本学の歴史に関する資料の保存と公開をおこなっている。

(3) 収集・所蔵資料

「公文書等の管理に関する法律」および「国立大学法人東北大学法人文書管理規程」にもとづき保存期間を満了した東北大学の歴史公文書の移管を受けるとともに、教職員・卒業生はじめとする関係者の記録など大学の歴史を跡づける多様な資料を収集・保存し公開している。

史料館が収集・管理する資料の概要(平成 27 年度末現在)

区分	主な内容(公開中のもの)
東北大学の歴史公文書	7,383 点
東北大学および各部局・学内各種組織が発行する刊行物(学術誌を除く)	約 12,000 点
東北大学関係者の個人・関連団体資料	65 資料群
東北大学の歴史に関する写真・動画資料	写真資料 5,960 点 動画資料 3 点
東北大学の歴史に関する物品資料・記念品等	看板, 教育用器具, 絵画, 印章, 衣服, 記念品等

(4) 組織・スタッフ

①スタッフ(2015 年度)

1) 職員

館長(公文書室長・記念資料室長)

教育学研究科教授 八 鋏 友 広

教員等

准教授 永田 英明

助 教 曾根原 理

助 教 大原 理恵

教育研究支援者(公文書室) 小幡 圭祐 ※協力研究員兼務

事務職員・アルバイト

事務補佐員 高橋 早苗

事務補佐員(公文書室) 小林 由里

教育研究支援者 相澤秀太郎

事務補佐員 大谷 瞭介

事務補佐員 宮崎 嵩啓

2) 兼務教員

高度教養教育・学生支援機構教授	羽田 貴史
文学研究科教授	安達 宏昭
高度教養教育・学生支援機構講師	中川 学
高度教養教育・学生支援機構講師	串本 剛
高度教養教育・学生支援機構助教	高橋 禎雄

3) 協力研究員

秋田高等工業専門学校教授	吉葉 恭行
岩沼市史編纂室	伊藤 大介

②組織

1) 資料管理・公開業務にかかる組織

「東北大学史料館」全体として本学の歴史に関する資料の管理公開に取り組むと共に、平成23年度より「特定歴史公文書等」の管理を担当する公文書室と、「歴史的資料等」の管理を担当する記念資料室の2室を設置し管理公開業務をおこなっている。

公文書室

保存期間を満了し移管された本学の歴史公文書、および公文書に準じる性格を有するその他の資料を含む「特定歴史公文書等」の保存・公開等をおこなう。「公文書等の管理に関する法律」第二条第3項第二号に定める「国立公文書館等」としての指定を受けた施設。

記念資料室

退職教員・卒業生その他の個人等からの寄贈資料を中心とする、東北大学の歴史に関する多様な資料の保存、公開等をおこなう。「公文書等の管理に関する法律」第二条第5項第三号に定める「歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料」を管理する施設としての指定を受けた施設。

2) 事務担当組織

史料館にかかる諸種の事務事項のうち、公文書室に特有の事務については総務部総務課が、それ以外の事務については附属図書館事務部がそれぞれ担当している。

(5) 関係委員会等

①学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会

「東北大学学術資源研究公開センター規程」第14条にもとづき、学術資源研究公開センター運営専門委員会の下に設置された、史料館の運営に係る専門的事項の審議をおこなう委員会。

2015年度委員名簿

委員長	史料館長・教育学研究科教授	八鍬 友広
委員	農学研究科教授・附属図書館副館長	西尾 剛
委員	文学研究科教授	柳原 敏昭
委員	高度教養教育・学生支援機構教授	羽田 貴史
委員	文学研究科教授	安達 宏昭
委員	災害科学国際研究所准教授	佐藤 大介
委員	高度教養教育・学生支援機構講師	中川 学
委員	学術資源研究公開センター史料館准教授	永田 英明
委員	学術資源研究公開センター史料館助教	曾根原 理
委員	学術資源研究公開センター史料館助教	大原 理恵

②東北大学公文書管理委員会

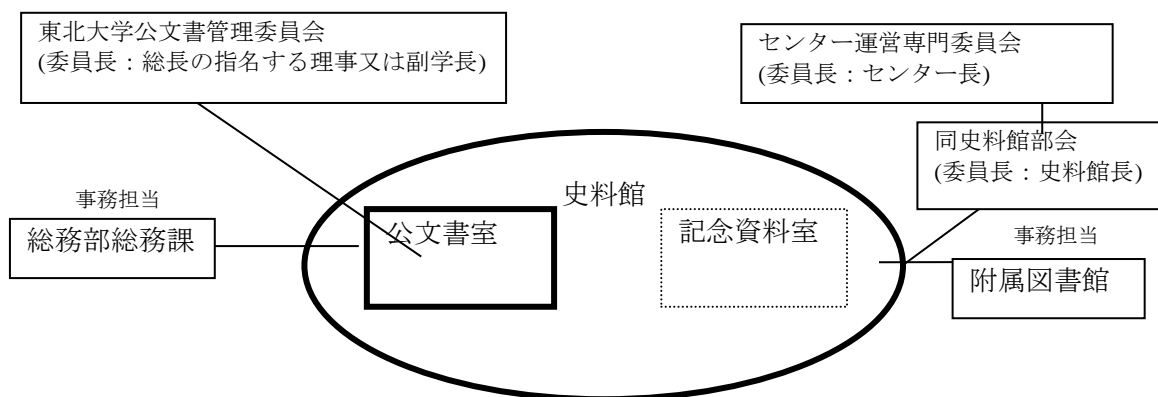
「国立大学法人東北大学法人文書管理規程」第8条に基づき、本学の法人文書および「学術資源研究公開センター史料館公文書室が保存する特定歴史公文書等」の管理に関する重要事項を審議す

る委員会.

2015 年度委員名簿

委員長	副学長	兵藤 英治
委員	総務企画部長	斎藤 仁
委員	史料館長・教育学研究科教授	八鍬 友広
委員	総務企画部法務課長	船田 正幸
委員	法学研究科教授	中原 茂樹
委員	学術資源研究公開センター准教授	永田 英明

史料館組織概念図



(6) 施設

史料館本館は 1924 年に旧附属図書館本館として竣工した鉄筋コンクリート二階建ての施設を使用している。総床面積は 1214 m²であるが、うち 52 m²は小田滋国際司法裁判所判事記念室に提供中である。またこのほかに、本部 1 号館 (旧理学化学科棟) 内の東側約 100 m²を歴史公文書庫として使用していたが、平成 26 年度における東北大学「知の館」新設工事に伴い該当建物が取り壊されることとなり、平成 26 年 3 月末で退去せざるを得なくなった。この部分については、代替スペースが確保されるまでの一時的な措置として、平成 26 年 4 月以降片平キャンパス内職員宿泊施設 (片平会館) の一部を臨時の保管場所として借用している。

なお本館については平成 24 年度から 25 年度初頭にかけて、東日本大震災による被災復旧を兼ねた耐震改修工事が実施された。

施設は全般的に狭隘な状況にあり、業務遂行に必要な施設の確保が課題となっている。特に資料収蔵スペースの確保は今後の業務の遂行に不可欠の課題となっている。

施設総面積の推移 (単位: m²)

	本館内						館外 倉庫	備考
	合計	執務	展示	閲覧	収蔵	他		
平成22年	909	117	332	28	255	157	104	執務室拡張 (旧百年史編纂室)
平成23年	1,162	145	437	100	287	193	104	閲覧室・展示室等整備 (旧法科大学院講義室等)
平成24年	1,162	145	437	100	287	193	104	
平成25年	1,129	163	406	78	273	209	104	耐震改修工事に伴う使用区分変更
平成26年	1,129	163	406	78	273	209	40	館外書庫は仮移転
平成27年	1,129	163	406	78	273	209	40	館外書庫は仮移転

史料館施設利用状況一覧 (平成 27 年 3 月現在)

1 階・地階	事務室	32
--------	-----	----

	教員室 1	28	准教授室
	教員室 2・ミーティング室	56	助教および教育研究支援者室
	資料研究室	28	協力研究員およびアルバイト作業室
	資料整理室	19	受入資料の荷解・一時保管室
	閲覧室・開架書庫	78	書架延長 195m
	書庫 A	56	書架延長 371m
	書庫 B	17	書架延長 114m
	書庫 C	21	書架延長 61m
	地下倉庫（階段含む）	16	物品資料保管室
	倉庫（階段含む）	23	
	廊下・便所	120	
2・3 階	展示室	406	
	展示準備室	28	展示用品等の保管場所
	貴重資料室	18	美術資料その他の貴重品保管室
	書庫 D・E・F・G	79	書架延長 463m
	書庫 H・I	38	書架延長 140m
	廊下・階段室	89	
片平開館	公文書室書庫	40	

収蔵・保存環境

項目	内容	導入年度
紫外線対策	紫外線吸収膜付蛍光灯（館内収蔵庫等） 展示室外窓紫外線防止フィルム貼付	平成22年度 平成25年度
空調管理	別館収蔵庫空調機 本館内収蔵庫空調機 ワイヤレス式温湿度計	平成23年度 平成24年度 平成24-25年度
地震対策	別館内書庫耐震固定工事	平成23年度
火災対策	書庫内消火器の更新（二酸化炭素消火器）	平成22年度
保存措置用機器	メディカルフリーザー（冷凍燻蒸用） HEPAフィルター付業務用清掃機	平成22年度 平成22年度

収蔵書架延長の推移

	収蔵室書架延長 (m)	
平成22年度	1,470	旧百年史編纂室収蔵設備の移管による増加
平成23年度	1,570	開架閲覧室等の整備に伴う増加
平成24年度	1,570	
平成25年度	1,570	
平成26年度	1,149	館外書庫の転出による

公開設備

閲覧室・開架図書室	専用閲覧室の整備（閲覧室の拡張移転および閲覧机，書架，マイクロスキャナ等/広報課総長裁量経費）	平成23年度
	耐震改修に伴う専用閲覧室の再整備	平成25年度
展示室整備	展示室の増設に伴う魯迅記念展示室・企画展示室の整備（広報課総長裁量経費）	平成23年度
	耐震改修に伴う常設展示・魯迅記念展示・企画展示室の再整備（展示室の2階への集約）	平成25年度

2. 運営概要

(1) 組織・運営

① 関係委員会の開催

(1) 学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会

以下の2回にわたり同部会を開催した。

①第1回（平成27年9月9日（水））10:30～11:30

場 所 附属図書館1号館2階小会議室

出席者 八鍬委員長（館長）、西尾（図・副館長）、柳原（文）、安達（文）、
中川（高度教養）、永田（史料館）、曾根原（史料館）、大原（史料館）

欠席者 佐藤（災害）、羽田（高度教養）

陪席者 小幡教育研究支援者（史料館）、下山附属図書館総務課総務係員

議 題

- (1) 平成26年度事業及び決算報告について
- (2) 平成27年度事業の取組状況及び予算について
- (3) 第三期全学中期計画にかかる施策について
- (4) 協力研究員の委嘱について

②第2回（平成28年1月13日（水））

場 所 附属図書館本館2階小会議室

出席者 八鍬議長（館長）、西尾（図・副館長）、柳原（文）、安達（文）、
羽田（高度教養）、佐藤（災害研）、永田（史料館）、曾根原（史料館）、
大原（史料館）

欠席者 中川（高度教養）

陪席者 小川附属図書館総務課長、下山附属図書館総務課総務係長

議 題

- (1) 史料館長候補者推薦委員会委員の選出について
- (2) その他

③第3回（平成28年2月19日（金））

場 所 附属図書館本館2階小会議室

出席者 八鍬議長（館長）、西尾（図・副館長）、柳原（文）、安達（文）、
佐藤（災害研）、中川（高度教養）、永田（史料館）、曾根原（史料館）、
大原（史料館）

欠席者 羽田（高度教養）

陪席者 小川附属図書館総務課長、田口附属図書館総務課補佐、
小幡教育研究支援者（史料館）、下山附属図書館総務課総務係長

議 題

- (1) 次期史料館長候補者の推薦について
- (2) 平成27年度史料館事業の状況について
- (3) 平成27年度史料館予算執行見込について
- (4) 平成28年度史料館事業計画（案）について
- (5) 史料館利用内規の改正および史料館閲覧室利用細則の制定について
- (6) その他
- (7) 准教授の任用更新について

(2) 東北大学公文書管理委員会

①第1回（平成28年2月4日～8日）

場 所 メールでの書面審議

議 事

[審議事項]

(1) 東北大学学術資源研究公開センター史料館公文書室利用等要項の改正（案）について

②第2回（平成28年2月15日（月））

出席者 兵頭委員長、八鍬（史料館公文書室長）、中原（法学研究科）、船田（法
務課長）、永田（史料館）の各委員

陪席者 大友（法務課文書審査係長）、小幡（史料館公文書室）

議 事

- 1) 史料館公文書室内規の制定に関する事項
- 2) 法人文書マニュアル（案）の作成・配付に関する事項
- 3) 史料館公文書室の特定歴史公文書等専用書庫の仮移転状況に関する進捗状況報告

(2) 学内外からの事業資金獲得状況

平成27年度全学的基盤経費

学術資源研究公開センター配分経費のうち、史料館企画展・休日開館経費および東北大学デジタルアーカイブズ整備経費として合計1,500千円の配分を受けた。

3. 資料の管理・公開（アーカイブズ事業）

(1) 資料の受入・整理

① 公文書室所管資料（特定歴史公文書・刊行物）の受入・整理・公開

資料の受入・移管

1) 特定歴史公文書（保存期間満了後公文書室に移管された法人文書）

平成27年度末保存期間満了文書の評価数 計3,991ファイル（うち188点を移管指定）

平成27年度特定歴史公文書の受入数 計228冊（本部 / 部局 ）

平成27年度に受け入れた特定歴史公文書（移管元別内訳）

総長室	0	文学研究科	4
総務企画部総務課	7	教育研究科	46
総務企画部広報課	6	法学研究科	3
総務企画部法務課	7	経済学研究科	3
総務企画部コンプライアンス推進課	0	理学研究科	2
人事企画部	5	医学研究科	11
人事企画部環境安全推進室	2		
教育学生支援部学務課	2	歯学研究科	2
教育学生支援部教務課	17	薬学研究科	2
教育学生支援部入試課	8	工学研究科	13
教育学生支援部学生支援課	15	農学研究科	7
教育学生支援部留学生課	4	国際文化研究科	6
教育学生支援部キャリア支援事務室	3	情報科学研究科	6
		サイクロ RI センター	0
財務部財務課	1	生命科学研究科	4
財務部資産管理課	0	環境科学研究科	6
財務部調達課	0	医工学研究科	0
財務部資金管理室	0	金属材料研究所	15
財務部旅費計算室	0	学際センター	0
財務部財務決算室	0	国際高等研究教育機構	0
研究推進部研究推進課	13	加齢医学研究所	2
研究推進部産学連携課	2	流体科学研究所	0
施設部計画課	2	電気通信研究所	4
施設部建築整備課	0	多元物質科学研究所	3
施設部設備整備課	0	災害科学国際研究所	0
情報部情報推進課	0	図書館	5
情報部情報基盤課	2	史料館	0
国際交流課	9	医学分館	0
監査室	0	病院	3

未来科学技術共同研究センター	0
WPI	1

② 目録の整備・公表

特定歴史公文書の目録公開 計 955 点 (累計 7,383 点)

平成 27 年度に公開を開始した主な特定歴史公文書

受入年度	点数	主な内容
平成 27 年度新規受入文書	228 点	<ul style="list-style-type: none"> 各部署の平成 26 年度末保存期間満了文書 教育学部教授会議事録
平成 26 年度以前受入文書	約 700 点	<ul style="list-style-type: none"> 学部長会議関係 (昭和 20 年代) 工学部学生原簿等 (大正 8～昭和 30 年代) 学術交流協定関係等 (1970～80 年代) 大学病院文書 (1910 年代～80 年代) 附属図書館文書 (1920～60 年代) 教養部文書 (1970～90 年代) ほか

○利用制限区分はすべて「要審査」のまま (未審査状態)。

○平成 26 年度以前受入分の法人文書のファイル名目録公開は、平成 27 年度末で完了見込

③ 資料複製・補修等

評議会議事要録綴 昭和 56 年度～昭和 60 年度の電子化

② 個人・関連団体寄贈資料等 (記念資料室所管) の受入・整理

新規資料の収集・受入

① 新規資料の収集・受入

平成 27 年度 主な受贈資料一覧 (記念資料室分 予定分含む)

資料名	数量	概要・備考
小西保文書 (学徒動員関係学生課文書)	8 点	遺族より受贈
細谷恒夫資料 (学制改革/教育研究関係)	5 箱	遺族より/教育学部初代学部長
西正孝氏旧蔵資料 (二高・工学部卒業生)	1 箱	遺族より
石津照璽資料 (学内使用鉄兜/学内行政関係)	2 点	遺族より/今後追加受入予定
斎藤報恩会資料 (報恩会運営事務文書)	約 20 箱	

② 目録の整備・公表

平成 27 年度に目録を公表した資料群

資料名	数量	概要・備考
外尾健一文書 (法学部教授)	10 点 (364 件)	会議記録等
学生運動ビラ集「東北大闘争史」	2 冊 (377 件)	ビラ集
根本猛雄文書 (60 年安保関係学生運動資料)	8 点 (149 件)	ビラ、新聞記事等
吉田哲雄氏収集 東北大学学生運動関係資料	2 冊 (72 点)	ビラ集
東北大学交響学部寄贈資料	701 点	50 年史作成用の写真や記録など
井上秀雄旧蔵古代朝鮮碑文拓本収集関係資料	8 種 33 点	
吉田震太郎文書	144 点	ビラ、会議資料など

(2) 資料利用者への対応

(1) 資料利用状況

月次	特定歴史公文書						記念資料(一般資料)				画像データ提供		出版・放映
	閲覧室利用		閲覧利用		写しの交付		移管元利用		閲覧		複写撮影(申請書)		
	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	
4月	14	1	2	0	0	1	2	2	1	1	6	8	9
5月	11	2	8	1	1	0	3	18	1	5	6	52	9
6月	9	8	47	1	2	0	1	5	2	3	8	25	9
7月	14	2	29	2	8	3	3	26	2	3	5	95	5
8月	18	3	10	1	3	0	7	161	0	0	5	10	7
9月	18	6	78	1	2	0	7	76	0	0	3	6	2
10月	13	5	28	1	1	2	4	6	0	0	3	3	4
11月	17	3	30	2	3	0	4	7	1	1	5	13	6
12月	8	0	0	1	2	0	1	10	1	1	5	39	5
1月	7	1	3	0	0	0	1	1	2	2	9	25	11
2月	12	2	3	1	1	0	3	4	0	0	6	42	9
3月	14	3	8	4	19	0	3	8	0	0	9	29	11
合計	155	36	246	15	42	6	39	324	10	16	70	347	87

4. 普及・社会教育事業

(1) 展示会および関連企画の開催

① 常設展示

① 「歴史のなかの東北大学」の公開と一時中断

平成 17(2005)年 4 月 1 日より、東北大学の歴史をテーマにした常設展として公開している。

② 魯迅記念展示室常設展「魯迅と東北大学」の公開と一時中断

平成 23(2011)年 7 月より、かつて仙台医学専門学校に留学生として在学した文学者魯迅(周樹人)の留學生活を主テーマとする展示室として「魯迅記念展示室」を開設。年間を通じて中国人来訪者等を中心に多くの見学者が訪れているが、同様に平成 26 年秋から一時閉室した。

(2) 企画展示

企画展示 「東北大生の戦争体験」

- ・ 9/25～1/29：史料館企画展示室／東北学院史資料センターとの連携企画

期間中入場者：2484 名

関連イベント：連携ギャラリートークの開催(10/24)

- ・ 3/1～18 附属図書館本館で開催予定

(3) その他の展示

新規公開資料の紹介を主眼とした「新公開資料速報展示」、いわゆる「モノ資料」の紹介を行う「コレクション紹介展」や、博物館実習Ⅵの受講生による成果発表の展示会など計 4 回の小規模な「ミニ展示」を実施した。

(3) 他機関展示会等への出陳(別表 2-3)

展示開催状況

常設展示	歴史のなかの東北大学	常設展示室	通年
	魯迅と東北大学	魯迅展示室	通年
テーマ展	東北大学史料館の紹介展示	企画展示室	企画展期間を除く通年
	もうひとつの源流－東北大学の包摂校－	企画展示室	2/12～通年
企画展示	東北大生の戦争体験	企画展示室	9/25～1/29
		附属図書館	3/1～3/18
新公開速報展	脳脊髄神経の世界的権威－布施現之助文書	企画展示室	4/20～6/30
	教員養成課程の分離独立－総務部総務課・教育学部文書	企画展示室	4/20～6/30
	村山源三郎旧蔵 宮城医学校受講ノート	企画展示室	7/1～9/11
	世界レベルの研究者招聘－ハンス・モーリッシュ関係資料	企画展示室	2/12～
	鶴の一声ちゃ！－林鶴一文書	企画展示室	2/12～
星寮のおひなさま展		企画展示室	2/12～3/11

(2) 展示室の利用状況

① 利用統計

史料館展示室への入場者数 4,926 人

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	総計
公開日数	10	18	22	22	17	15	30	20	19	19	21	22	235
入場者合計	178	350	308	379	337	243	1527	355	299	200	362	388	4926

※入場者数は、展示室入口においてカウントした

(2) 各種団体等による展示見学・視察への対応

平成 27 年度の対応件数 32 件

見学団体の内訳

区分	件数	備考
国際交流団体等	18 件	
その他一般	15 件	
総計	33 件	

主な見学団体

日独 6 大学学長会議オプショナルツアー一行／中国密教訪日団一行／国際交流基金北京大学現代日本研究センター／石巻市青葉中学校／国連中国シルクロード沿線都市間ネットワーク協力ミッション一行／仙台市姉妹都市アメリカ・リバーサイド市長一行見学／北京理工大学学長ほか一行／中国南海大学外国語学院院长・副院长一行／中国上海大学学長補佐兼理学部長一行／中国南開大学日本語文化研修プログラム、日本語教育研修プログラム一行見学／モスクワ国立大学心理学部学生夏季短期受け入れプログラム一行／中国吉林大学日本語コース学生一行／中国電子科技大学一行／国際キワニス財団会長一行／華南理工大学訪問団一行／南京航空航天大学副学長一行／宮城県観光課上海メディア一行／中国大連市旅遊局副局長ほか一行／国際交流基金プログラム・オフィサー／トライ式高等学院仙台駅前校一行／東京農工大一行／全国大学史資料協議会一行／東北地区国立大学広報担当課長／文部科学省視察一行／流体研キャンパスツアー一行／東北福祉大学一行／宮城県土木部空港臨空地域課／東北多文化アカデミー一行／化学教室同期会一行／工学部通信工学科卒業生一行／ほか

3-3. 他機関開催の展示会への出陳

展覧会名	会場・開催期間	資料名
伝説の洋画家たち—二科 100 年展—	東京都美術館 (7/18~9/6) 大阪市立美術館 (9/12~11/1) 石橋美術館 (11/7~12/27)	玉虫先生像 (安井曾太郎画)
医は仁術	東北歴史博物館 (4/18~6/21)	仙台医専文書、村山源三郎文書 ほか 12 点
学生たちの戦前・戦中・戦後	明治大学史資料センター	学徒隊看板ほか 5 点
ミッションスクールと戦争	東北学院史資料センター	宮城音五郎日記

5. 教育・研修・学習支援活動

1. 教育・学習活動における史料館の利用

(1) 史料館を活用した授業・講習の実施 4 件

- ・博物館学「博物館展示論」(水澤教子非常勤講師) 2 / 4
- ・日本史実習 (文学研究科 籠橋俊光准教授) 11 / 6, 20

2. 全学教育の担当

- (1) 大学教育 ①全学教育科目「東北大学のひとびと」開講 (10月~1月)
- ②博物館実習(館園実習)の受入: 9月14~18日 11名

3. 職員研修の担当

2015年度においては、以下の講義を担当した。

- ①大学の歴史に関する講義(初任者) 4, 10, 1月
- ②公文書管理研修 (中堅職員対象) 3月10日 受講者数 60名

6. 調査・研究活動

1. 学術出版物の発行

(1) 『東北大学史料館紀要』第11号の刊行(2016年3月)

2. 研究会等の開催・後援

①全国大学史資料協議会総会・全国研究会の開催
(10/7～10/9) 於東北大学・東北学院大学

10/7 公開講演会「学校資料の保存と活用」(同協議会と当館の共催)

講演者：大平聡氏(宮城学院女子大学教授)

企画展「東北大生の戦争体験」見学会

10/8 研究会「戦後70年と大学史資料」

10/9 見学会(東北大学史料館/仙台市博物館)

②大学アーカイブズセミナーの開催 2回(→別表2-4)

月日・回数	内容
2015/7/22 (第3回)	戦時下の東北帝国大学(企画展準備) ・小幡圭祐(史料館)「東北帝国大学における科学動員と大学院学生」 ・永田英明(史料館)「東北帝国大学の学徒勤労働員」
2016/3/11 (第4回)	黒田チカ資料の可能性 ・永田英明(史料館)「黒田チカ資料の整理－真島利行書簡を中心に」 ・志賀祐紀(奈良女子大学)「黒田チカ資料の書簡・日記から」

3. 学会・研究会・研修会等への参加および報告

全国公文書館長会議・公文書館実務担当者意見交換会(6/8～6/9) 教員1名

国立公文書館アーカイブズ研修(8/31～9/4) 教育研究支援者1名

京都大学大学文書館における研修(1/19～1/21) 教育研究支援者1名

4. 科学研究費獲得状況

平成27年度における館員(協力研究員含む)の科学研究費獲得は合計件となった。内訳は下記の通りである。

基盤研究(A)	分担2
基盤研究(B)	分担1
基盤研究(C)	代表1 分担2

7. その他

1. 広報・情報公開(ニュースレター・ホームページ)

(1) 『東北大学史料館だより』の刊行

平成27年度は下記の2回発行した。

23号(2015年9月)

巻頭コラム 戦後の東北大学と学生

戦争と大学 福島大学准教授 徳竹 剛

資料の公開について

史料館のうごき

お知らせ

24号(2016年3月)

巻頭コラム 帝大教授の矜持

東北学院史資料センターのご案内 東北学院史資料センター長 河西晃祐

連携企画展開催報告

資料の公開について

史料館のうごき

署名と捺印からみた初代総長・沢柳政太郎 史料館教育研究支援者 小幡圭祐

2. インターネット等を利用した情報発信

1) 史料館ホームページの改訂

- 20回の更新を行った
- 2) SNSによる情報発信
- Twitter を利用した情報提供を 125 回にわたり行った.
- Facebook ページを開設し、50 回にわたる情報提供をおこなった.

IV. 植物園

1. 植物園の概要

(1) 沿革

現在の東北大学植物園は、宮城県仙台市青葉区に位置する本園と、青森県青森市に位置する八甲田山分園から成っている。両者は元々性格の異なる組織であり、さらに本園には異なった歴史的背景を持つ植物園標本館（津田記念館）が存在している。現在、これらは一体として運営されているが、混乱をさけるため、以下では必要に応じて3施設を別々に記すことにする。

① 植物園（本園）

1958年（昭和33年）4月	理学部附属青葉山植物園として開設。生物学教室より助手（後に助教授）1名を派遣。
1960年（昭和35年）4月	文部省令6号により植物園設置の告示。助手（全学流用定員）1名を配置。
1962年（昭和37年）4月	博物館法による博物館相当施設に指定。
1964年（昭和39年）5月	ヤナギ科植物標本館落成。
1972年（昭和47年）7月	敷地の約8割（385,153 m ² ）が国指定天然記念物「青葉山」となる。
1987年（昭和62年）4月	植物園記念館（津田記念館）落成。
1993年（平成5年）4月	旧教養部生物学教官のうち教授1名が配置された。
1996年（平成8年）3月	植物園本館落成。
1996年（平成8年）4月	生物学教室より助手1名派遣。
1996年（平成8年）10月	植物園本館落成記念式。
1997年（平成9年）3月	定年退職により生物学教室よりの助教授が引き揚げられる。
1998年（平成10年）3月	転出により生物学教室よりの助手が引き揚げられる。
2000年（平成12年）4月	大学院理学研究科附属植物園となる。
2003年（平成15年）8月	天然記念物指定範囲が国指定史跡「仙台城」の一部となる。
2004年（平成16年）4月	大学法人化に伴い、財務省用地（通称L地区）が植物園用地として加わる。
2005年（平成17年）4月	大学植物園となる。
2006年（平成18年）4月	学術資源研究公開センター植物園となる。
2006年（平成18年）12月	仙台城二の丸の杉並木が仙台市指定天然記念物となる。
2007年（平成19年）3月	青葉山キャンパス側に青葉山ゲートが新設される。
2009年（平成21年）4月	植物園開園50周年式典を挙げる。
2009年（平成21年）5月	もみじ庭（50周年記念園）がオープンする。

② 八甲田山分園

1929年（昭和4年）4月	東北帝国大学理学部生物学教室の附属施設「八甲田山植物実験所」として開設。
1952年（昭和27年）3月	博物館法による博物館相当施設に指定される。
1952年（昭和27年）4月	本学以外の大学の実習の受入を開始する。
1958年（昭和33年）4月	技官1名の定員が認められる。
1964年（昭和39年）4月	助手1名の定員が認められる。
1966年（昭和41年）4月	理学部の附属施設となる（文部省令第22号）。
1985年（昭和60年）6月	1984年末に竣工した新管理等の落成式が行われる。
1994年（平成6年）10月	実験棟の全面改修工事が完了する。
1999年（平成11年）10月	転出に伴い、助手（理学部持ち回り定員）1名が削減となる。
2000年（平成12年）4月	理学研究科附属となる。
2004年（平成16年）4月	理学研究科附属植物園八甲田山分園となる。
2005年（平成17年）4月	大学植物園八甲田山分園となる。

③ 植物園標本館（津田記念館）

津田記念館) 植物園記念館; Herbarium Tsudanum; Tsuda Memorial Herbarium

現在東北大学の植物標本が収蔵されている植物園記念館は、東北帝国大学第三講座出身（1944-45 年在学）の故津田弘氏の寄付金によって建設されたので、津田記念館の別名がある。落成式は津田氏の尊敬する牧野富太郎の誕生日にあわせ、1987 年 4 月 24 日に行われ、現在に至っている。

(2) 設立経緯と趣旨

① 設立趣旨

植物園は本園および八甲田山分園敷地内に棲息する植物及び動物を保護・保全してそれを長く子孫に伝えると共に、これを学術上の貴重な資料として保護管理にあたり、東北大学教職員及び学生の植物学研究に資し、一方広く開放して一般の植物学上の知識の進歩、発達とその普及を計る。また、この自然植物園に加えて、多数の植物を国内、国外より蒐集栽培し、本学の教育研究に資すると共に広く植物学の啓蒙の用に供することを目的とし、その基礎的学術研究をおこなう。これらの諸活動をとおして生物多様性保全、絶滅危惧植物保護、地球環境保全に寄与する。

② 経緯

本園

東北大学植物園は仙台市の中央部を東西に走る丘陵地である青葉山丘陵の東端に位置し、この地の森林の歴史は慶長 5 年（1600）伊達政宗が仙台城を造営し、敵からの防御として御裏林を保護し、一般人の侵入を禁止した事に始まる。

明治維新後は軍隊の管理する地となり、仙台鎮台、大日本帝国陸軍第二師団が置かれ、昭和 20 年（1945）に太平洋戦争が終結すると進駐軍による接収が行われ、やはり一般人の出入りは禁止された。昭和 33 年（1958）に進駐軍が引き揚げると共に東北大学の管理地となり、理学部附属植物園となった。

当植物園は東北大学理学部生物学教室五十年史に故木村有香名誉教授が記述しているように、農学部と理学部で共同運営してはどうかという事であったというが、諸般の事情により理学部附属植物園として発足した。発足の目的は望ましいこと、植物園を市民に開かれた「東北大学の顔」として情報発信してゆくという考えから、総長を委員長とし、理学部、農学部長、事務局長らを委員、計部長、施設部長らを幹事とするなど、学部附属施設としては異例な運営委員会が設置されて運営・管理することとした。そして、平成 12 年に副総長制の発足に伴う総長、副総長の任務分担の区分に伴い、植物園運営委員会は総務担当副総長が担当することとなった。平成 17 年度からは、植物園が理学部から独立し、学内共同利用施設として教育基盤施設群に入ったため、植物園運営委員会は、植物園運営専門委員会に移行し、副学長が担当となった。さらに、平成 18 年度からは、総合学術博物館、史料館、植物園の 3 学内共同利用施設を統合し、「学術資源研究公開センター」が発足したことに伴い、その運営・管理は、学術資源研究公開センター運営専門委員会が担当することとなった。

植物園は青葉山を含む敷地約 49 万㎡のおおよそ三分の一を一般公開地域として、観察路を設置して広く学内外に開放し、大学の研究・教育に役立てると共に、一般の生涯教育に役立てることを主たる目的としている。そして、一般市民を対象とした啓発機関として博物館法による博物館相当施設に昭和 37 年（1962）に指定された。

植物園は自然植物園で、約 8 割が宮城県地方の丘陵地の気候的極相林とされるモミーイヌブナ林に覆われており、丘陵地の自然生態系が良好に保全されていることから昭和 47 年（1972）7 月に国指定の天然記念物「青葉山」に指定された。このように良好な生態系が維持されているため、丘陵地の鳥獣類も豊富であり、特別鳥獣保護区に指定されている。また、仙台城址が平成 15 年 8 月 27 日付けで国指定史跡に指定された。仙台城址の御裏林にあたる本植物園の天然記念物指定範囲（約 39ha）が指定地に含まれる。2007 年 2 月には、国指定天然記念物「青葉山」並びに国指定史跡「仙台城跡」指定地外にある 13 本のスギが新たに「仙台城二の丸跡南西境の杉並木(部分)」として仙台市指定文化財の指定を受けた。

植物園の建物は昭和 21 年（1946）に進駐軍のクラブハウスとして建築された棟などを展示室、押し葉標本庫、研究室等に使用してきたが、老朽化が激しくなり、平成 8 年（1996）ほぼ同様の場所に、本館が新築・落成した。

植物園の入園口としては、開園以来、川内キャンパス側のみであったが、工学部の要請により、2007 年 3 月に新たに青葉山ゲートが新設され、青葉山キャンパス側にも入園口が新設された。これに合わせ、仙台市の観光周回バス「るーぷる仙台」が青葉山ゲート付近に停車するようになり、入園者が大幅に増加した。

平成 21 年 4 月 29 日 (2009 年), 植物園は開園 50 周年を迎え, 同日, 東北大学川内萩ホールにて井上総長, 梅原仙台市長, 邑田植物園協会会長らご臨席のもと開園 50 周年記念式典を挙行了。またこの関連事業として, 植物園シンポジウム「青葉山の森を 22 世紀に伝える」, ミニ企画展「東北大学植物園の 50 年と青葉山」, 植物園ガイドブック「植物園に行こう」の発行を行った。またこれに合わせて総長裁量経費の配分を受け, 50 周年記念園「もみじ庭」を新設し, 絶滅危惧植物花壇を設置した。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災および同年, 翌年の台風により, 植物園では東屋の倒壊や本沢法面の土砂崩れなど, 甚大な被害が発生した。また, 標本庫のさく葉標本, 木材プレパレート標本も多数が被害を受けた。応急的な復旧作業により, 2011 年 5 月には一部園路を閉鎖したまま開園にこぎ着けたものの, 園内の復旧作業完了は 2013 年度末になる見込みである。その間, 長期間にわたり, 一部園路の閉鎖を余儀なくされた。

植物園では研究に必要な生きた植物を栽培し, 研究教育に供するために, 世界各地から植物を採集する必要があるが, 経費や時間の制約があるため, 相互扶助精神によってお互いの植物園が種子交換事業を行っている。当植物園では種子交換事業を昭和 42 年 (1976) に開始し, 世界各地の植物園及び研究機関と隔年おきに種子交換事業を行い, 現在 300 ヶ所に及んでいる。この事業で集められた種子は大学院理学研究科及び生命科学専攻の研究・教育に貢献している。

植物園は植物を生きた状態で保存することが重要な業務の一つである。当植物園ではヤナギ科植物の系統保存を行っており, 400 近い系統が保存されており, 世界一の規模を誇るヤナギ科植物のコレクションである。この系統保存樹から世界各地の植物園や研究機関に苗木の供給を行っている。

近年の野生植物の危機的な状況, そして, 植物園自然保護国際機構 (BGCI) が提唱する目標の一つ (地球上の絶滅危惧植物種の 50% を生育域外で保全) を受けて, 日本でも, 地方ごとに拠点園を設け, これらが連動しながら絶滅危惧種の種子を採集, 保存, 交換し, 保全を図る取り組みが始まった。本園も 2005 年に BGCI に加盟すると共に, 東北地区における保全拠点園として取り組みを開始し, 東北地区の絶滅危惧植物種子採集と種子交換事業に参加している。

また, 環境省が進めている日本の長期生態系観測のプロジェクト「モニタリングサイト 1000」に準コアサイト (森林) として 2006 年から参加し, 園内のモミ林 1ha のプロットにおいて樹木生長調査, 森林生産量調査, 地表性甲虫類調査, 繁殖鳥類調査を行っている。

一方, 本学の教員はもとより, 大学院生, 学生, 他大学, 各種研究機関の研究者等が本植物園を利用して行っている各種研究について, その成果を取り纏め, また, 研究成果の普及を計るために, 平成 9 年度より「植物園利用研究成果報告会」を開催し, 同時にそれらを「植物園利用研究成果報告書」として公表している。

平成 8 年 3 月に植物園本館落成に伴い展示内容の一新と充実を図った。天然記念物「青葉山」の自然林の成り立ち, 森を構成する樹木, そこに生息する動物, 季節の移り変わりを指標する花暦, 生物種の多様性と絶滅危惧植物の問題, 国際的に行われている種子交換事業の紹介と種子の行動など, 本植物園の特徴と植物を中心とした生物界の様子を, 大学での研究成果を踏まえて, 分かり易く展示している。

この他, 平成 9 年 (1997) に植物園ホームページ (<http://www.biology.tohoku.ac.jp/garden/index.html>) の開設 (2009 年にリニューアル) し, 2013 年には公式 Facebook ページも開設して, 情報発信を図っている。また, 社会教育として, 平成 10 年度 (1998) から市民向けの公開講座を開催, 平成 17 年度より, 逐次, 企画展を開催してきている。イベントとして, 5 月 4 日に「植物園の日」, 11 月 3 日「紅葉の賀」を実施するなど, 近年, 一般市民向けの社会教育活動を企画, 実施してきている。

八甲田山分園

東北大学植物園八甲田山分園は, 青森県青森市荒川の八甲田山西南側中腹にある酸ヶ湯温泉の南の台地上, 標高 875~908 m の場所に位置する。現在は八甲田山系の植物や自然環境に関わる様々な研究や教育の拠点として, 毎年 6 月から 10 月までの 5 ヶ月間開園しており, 日本各地の大学やその他の研究機関から長期滞在の研究者や学生実習を受け入れている。併せてその期間中に敷地 (東西約 400 m, 南北約 300 m, 面積約 7500 m²) 内を自然植物園として無料解放し, 一般の観光客に対して八甲田山系の自然に手軽に触れる場所を提供している。研究面では, 国際長期生態学研究ネットワーク (ILTER) の下部組織である, 日本長期生態学研究ネットワーク (JaILTER) の準コアサイトとして登録されており, 国内外の共同研究の場として利用されている。とくに, 近年の気候変動

の生態系影響に関しては成果をあげつつある。

前身である東北帝国大学附属八甲田山植物実験所は、1923年に東北帝国大学に開講された植物生態学講座に着任した吉井義次によって、八甲田山を日本における高山植物生態学研究の拠点とすべく1929年に開設された。この場所に実験所が設立された背景には青森県の精力的な誘致活動と、酸ヶ湯温泉の当時の湯主の子息であった京都帝国大学の郡場寛の働きかけがあった。そのため建物の建設は青森県よりの寄付によってまかなわれ、また設立後一貫して、日常生活は酸ヶ湯温泉の全面的支援に支えられてきている。大学側としても、これらの厚意に応えるべく、日本では当時絶無に等しかった自然植物園を、1927年から5年ほどかけて敷地内に整備して一般に解放した。これは同じコンセプトの仙台の本園が開設されるよりも30年近くも前のことであり、その当時ですら自然植物園の意義が広く理解されていなかったことを考慮すると極めて先進的な試みであったといえよう。この整備には広くヨーロッパの植物園を視察した吉井の意見が反映されたものである。

植物園標本館（津田記念館）

現在東北大学の植物標本が収蔵されている植物園記念館は、東北帝国大学第三講座出身（1944-45年在学）で故木村有香名誉教授の教え子に当たるヒマラヤ製菓社長故津田弘氏の寄付金によって建設されたので、津田記念館の別名がある。落成式は津田氏の尊敬する牧野富太郎の誕生日にあわせ、1987年4月24日に行われた。植物園記念館は押し葉標本庫を中心とし、貴賓室、ラウンジなどを備え、種々会議の場として利用されると共に、大学附属の植物標本館の単一の建物としては日本最大の規模を誇り、約80万点の植物標本を収蔵可能なように設計されている。また、標本の収蔵条件も最適な状態に保たれており、閲覧スペースも広くとられているために複数の研究者が同時に調査、研究を行うことができる。標本の収蔵スペースに余裕がなく収蔵条件も劣悪なものが多い日本の植物標本庫の中では極めて例外的な存在である。

記念館には、大正12年（1923）に東北帝国大学理科大学に開設された生物学教室の植物分類学教室を中心として収集されてきた押し葉標本（国際植物標本庫コード：TUS）と、理学部附属植物園の設立（1958年）と同時に設立され、当初は植物園内に自生するかまたは栽培されている植物の標本を収蔵するための標本（東北大学植物園植物標本室 国際植物標本庫コード：TUSG）が収蔵されている。両者は現在統合され一括管理されているが、ここでは個別に記述する。

東北大学植物標本室（TUS）

東北大学の植物標本は、現在、何時でも利用可能な状態に整理された押し葉標本約400,000点、木材標本約2,800点あり、目下整理中の標本が約250,000点ある。押し葉標本は植物園内にある植物園記念館（津田記念館）に分類学的順序に従って保管されており、維持管理の実務は主に植物園が行っている。本標本館はTUS（木材標本はTUSw）として知られている。TUSは国際植物分類学連合に登録され公示されている東北大学植物標本室の国際的な略称で、Herbarium Tohoku Universitatis Sendaiensisの頭文字から採ったものであり、木材標本のTUSwのwはwoodの略である。

本標本室に収蔵されている標本の主体をなすのは維管束植物の押し葉標本であり、現在約400,000点が整理された状態にある。特に、木村有香の研究したヤナギ科と、大橋広好の研究したマメ科が充実しており、96点の正基準標本（Holotype）を含む293点の基準標本（Ohashi et al. 2001にまとめられた数で2000年現在。その後20点ほど増加している）と論文の証拠標本多数が含まれている。藻類の押し葉標本は少数が存在するが、分類の専門家が不在であるために整理されていない。蘚苔類の乾燥標本は、樋口俊雄、湯沢陽一両氏から寄贈された福島県植物誌の証拠標本を中心に約10,000点が保管されている。本標本室の標本の採集地域を見ると、国内では東北地方のものが多く、東北地方以外では琉球諸島からの標本に重要なものが多い。国外では、台湾、中国南部およびチベット、ネパール、北アメリカ、オーストラリアで採集された標本が多く収蔵されている点が特色である。

木材標本（TUSw）は日本産の木本植物が中心であるが、中国（福建省）、ネパール、ニュージーランド、オーストラリア産等海外産のものも少数ながら含む。独立行政法人森林総合研究所から寄贈を受けたものについては、その木材標本番号（TWTw no.）で整理されており、それ以外のものについてはTUSw独自の番号が付されて整理され、いずれの標本とも、証拠標本の有無、ある場合はその標本番号や標本データ等が全てデータベース化されて管理されている。木材標本は、光学顕微

鏡観察用のプレパラート標本，樹皮つきの材鑑標本，および樹皮の無い板材に加工された標本に大別され，プレパラート標本はヤナギ館内に，他の標本は記念館内の植物標本庫内のキャビネットに保管されている。

東北大学植物園植物標本室（TUSG）

東北大学植物園の植物標本室は，理学部附属植物園の設立（1958年）と同時に設立され，当初は植物園内に自生するかまたは栽培されている植物の標本を収蔵するための標本庫であった。植物分類学連合に登録され公示されている国際的な略称は TUSG である。大場秀章（1970～1972 年在任）がスタッフとなって以後，標本室は拡充されて標本交換事業も行われるようになり，植物分類学的研究の拠点として整備された。大場の後は内藤俊彦（1971～2002 年在任）が標本庫の管理を引き継いだ。整理済みの標本約 20,000 点は植物園本館の 1 室に保管されていたが，2007 年度から標本を津田記念館の TUS の標本棚に順次移し，管理を一元化する作業を進めている。2009 年度は離弁花類の残りを移動する作業を行い，2010 年度から 2011 年度にかけて残された合弁花類を統合したことによって一元化作業は完了した。基準標本は 11 点確認されており，そのうち 2 点が正基準標本である。なお，未整理の標本が約 40,000 点あるが，標本データの不備等の影響もあって整理は進んでいない。

(3) 組織と運営

① 植物園内の組織

園長 1（本学専任の教授）

教授 1

助教 2（本園担当 1，分園担当 1）

技術職員 4，再雇用職員技術職員 1

時間雇用職員 2（事務，窓口担当），時間雇用職員 1（清掃担当）

② 植物園会議

園長，教員，技術職員にて構成

月 1 回開催

植物園の運営に関する実務についての連絡，実施等を行う

③ 非常時体制

植物園は 52ha という広大な敷地を抱えており，かつ市道に囲まれているため，データに示すように自然，人為による事故災害がたびたび発生している。これらは昼夜，時期を問わず発生するため，常時これらに備えておく体制を構築することが必要である。そのため，植物園ではデータにあるような非常連絡体制を整えるとともに，2009 年度までに事故災害対策マニュアルの策定を行っていたが，これらは，東日本大震災以降の災害にも有効に機能している。

施設，備品の故障も度々発生しているが，特に 2007 年 3 月に新設した青葉山ゲートに誤作動，入園者の誤操作が度々発生し，その対応が技術職員，事務員の大きな負担となった。その後，遠隔操作装置の設置を行い，トラブルは大幅に減少したものの，無人入園口であるため，土日のような勤務人数が少ない場合のトラブルが大きな負担になっている。

また，長年にわたり赤字が続いているため，老朽化が進んだ施設が多いこと，AED 設置がなされていないことなど，事故災害が起こる可能性が増大していることが憂慮される。

(4) 施設

① 本園

本園には，本館，記念館，ヤナギ館の 3 つの建物がある。いずれも施設としては十分なスペースが確保されている。また 2007 年 3 月には工学部側に無人の青葉山ゲートが新規に開設された。当植物園には温室を所有しておらず，植物の栽培には大きな制約がある。しかしながら，経済的な理由から実現は困難な状況にある。

2004 年 4 月の大学法人化に伴い，財務省用地（通称 L 地区）が植物園用地として加わった。植物園 50 周年を機に，総長裁量経費の配分を受け，絶滅危惧植物展示花壇などを備えた「もみじ庭」を約半分の面積を活用して新設したが，残り半分については，外柵は設置されたもののいまだ活用されていない。今後，早急な整備が望まれるが，経常費や施設営繕費が大幅に不足している現状では，実施は困難である。

データ

所在地 宮城県仙台市青葉区川内 12-2, 45-1, 45-2, 51, 川内山屋敷 50-2

敷地面積 496,347.98 m²

(うち国指定天然記念物「青葉山」及び国指定史跡「仙台城」範囲 385,153 m²)

植物園本館 S2 1996年(平成8年)竣工 1,883 m² (1階 1,212 m², 2階 671 m²)

植物園記念館(津田記念館) 1986年(昭和61年)竣工 鉄筋コンクリート2階建 建物面積 488 m², 延面積 1,117 m²

植物園標本室(ヤナギ館) 1963年(昭和38年)竣工 鉄筋コンクリート1階建 床面積 131 m²
(標本室 81 m², 研究室 25 m², 標本作製室 25 m²)

②八甲田山分園

概況

管理棟, 実験棟, 特別実験室の3つの建物が設置されている. このうち, 実験棟は老朽化が著しく, 床が沈下している. 早急な営繕または建て替えが望まれる.

データ

所在地 青森県青森市大字荒川字南荒川山 1-1

敷地面積 74988.94 m²

管理棟 S2 1984年(昭和59年)竣工(1985年から供用開始) 木造2階建 128.31 m²

実験棟 S1 1929年(昭和4年)建築, 1994年(平成6年)改修 木造平屋建 168.93 m²

新館(特別実験室) S1 1966年(昭和41年)竣工 木造平屋建 38.8 m²

2. 運営概要

(1) 補修・整備工事, 庶務報告等

本園

2015年

- ・5月13日 宮城県沖を震源とする地震(M6.6)が発生したが、園内に被害はなく、通常通り開園した。
- ・5月20日 交通事故で破損していた市道沿いフェンスの修理が完了した。
- ・6月6日 萩友会プレミアム会員懇談会参加者への無料入園を実施した。入園者は243人。
- ・6月25日～27日 京都市で開催された植物園協会大会に中静園長、技術職員1名が参加した。
- ・7月8日 1号道路沿いに事前予告なく電柱1本が設置されていた。設置を実施した施設部に、刈り払いした植物の除去、電線設置時の除伐立ち合いを依頼した。
- ・7月14日 工学部へ通じる遊歩道(亀岡道)で倒木があり、撤去した。被害は無かった。
- ・7月29日～30日 オープンキャンパスが行われ、高校生と保護者・教員は入園無料とした。入園者数116名。
- ・8月17日 豪雨により市道沿いの樹木1本が道路に倒壊したが、被害はなかった。
- ・8月13日～16日 計画年休・夏期休業のため閉園した。
- ・8月29日～30日 電気設備点検に伴う全館停電断水のため、臨時休園した。
- ・8月26日 記念館前の外灯工事が完了した。
- ・9月11日「平成27年関東・東北豪雨」により本沢沿い園路の流出、土砂崩れ、本沢下流域の土砂堆積が発生した。
- ・9月12日 被害が軽微であった外周園路のみに公開範囲を限定して開園した。
- ・9月24日 学術資源研究公開センター運営専門委員会が開催された。
- ・9月29日～10月2日 八甲田山分園の出張整備を行った
- ・10月8日 台風から変わった温帯低気圧接近のため、暴風警戒態勢を敷いたが、被害はなかった。
- ・10月16日 駐車場ゲートバーに車両が接触し、バーが折損した。
- ・10月17日「川内キャンパスの魅力発見ツアー」(キャンパス計画室・杉山先生)で19名が来園した。
- ・10月31日 ホームカミングデー参加者の無料入園を実施した。入園者は59名であった。
- ・11月20日 日本博物館協会を通じて日本宝くじ協会から自走式車いす1台が寄贈された。

- ・11月30日 中野小学校所有の津波被災したスギ円盤が当園に寄贈された。
- ・12月17日 文部科学省による園内豪雨被災箇所の視察が行われた。

2016年

- ・1月18日 1号道路沿いで大雪によりアカマツ生木が倒壊し、学内バスに接触した。
- ・2月2日 安全衛生に関わる事業場巡視が行われた。
- ・3月1日 学術資源研究公開センター運営専門委員会が開催される。
- ・3月9日 植物園利用研究報告会が開催される。

(2) 八甲田山分園

- ・6月1日 開園。開園時に新館（特別実験室）東側の壁面が雪圧で内側に折れ曲がっているのが発見され、その年中に総長裁量経費によって緊急修理を行うこととなった。
- ・7月13日～16日および9月29日～10月1日、本園技術職員による園内の整備が行われた(2名)。
- ・8月5日 突然断水した。原因は実験棟脇の現在使用されていない古い水道管(1995年以前に電気室に存在していたトイレに通じていたもの)の腐食であり、緊急工事の結果翌6日に復旧した。
- ・9月1日～ 実験棟東側実験室の改築工事が始められた。旧実験室の解体はスムーズに進んだが、改築建物の設計に関して青森県側との協議が不調のために10月末までの完成予定がずれ込むこととなった。
- 10月15日～園内湿原の木道の架け替えが行われた(～11月上旬)。
- ・10月31日 閉園。閉園後も実験棟の東側実験室の改築工事は続き、12月14日に完成検査が行われた。
- ・11月14日 仙台管区气象台との間で、八甲田火山観測のための地震計の設置場所の打ち合わせを行い、場所の選定を行うと共に、工事を行う上での注意事項に関して協議を行った。それに併せて、新館の工事の段取りに関する協議も行い、湿原木道の完成検査も行った。
- ・11月17日～12月上旬 仙台管区气象台によって、実験棟裏側の敷地内に八甲田火山観測のための地震計の設置工事が行われた。12月14日までに完成した。
- ・12月14日 実験棟東側実験室改築工事と新館東側壁面の補強工事の完成検査が行われた。
- ・2016年1月18日～2月まで、仙台管区气象台によって園内東側角に八甲田火山地獄沼火口の監視カメラを設置する工事が行われた。この工事の完成検査は翌年度に持ち越された。

(2) 植物園部会の開催

- ・2015年度は植物園部会は開催されなかった。

(3) 学内外からの事業資金獲得状況

平成27年度全学的基盤経費

学術資源研究公開センターに配分された「学術資源研究公開センター公開事業に関わる経費」のうち、5,300千円の交付を受けた。この経費は、天然記念物「青葉山」中心とする地域を保護管理しながら、一般に公開し、かつ各種社会教育事業を行うため使用された。具体的には、1)「5月4日は植物園の日、ふるさとの植物を守ろう」企画、2)「紅葉の賀」企画、3)一般公開に要する各種の維持管理・整備経費などに使用された。

学外助成金

財団法人自然環境研究センターより「学術研究の経費」1,710千円 植物園が準コアサイトとして調査に参加しているモニタリングサイト1000の実施費用に用いられた。

財団法人カメイ社会教育振興財団より「社会教育等生涯学習の振興に関する活動に対する助成金」平成27年度東北大学植物園公開市民講座—ScholaBotanica2015—として190千円の助成を受けた。助成金は、講師旅費、広報などに使用された。

(3) 平成27年度総長裁量経費

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1) 八甲田山分園本館改修その他工事 | 11,880,000円 |
| 2) 植物園周辺環境整備(舗装)工事 | 7,560,000円 |
| 3) 植物園温水暖房改修工事 | 1,490,400円 |

(4) その他

植物園会議

植物園の運営を協議する会議として、教員・技術職員・事務員で構成される植物園会議を原則として月1回開催している。平成27年度は、11回の会議を開催した。

植物園で発生した事故災害

2015年度に植物園で発生した事故のうち、重大な案件のみを以下で掲載した。例えば災害では物的被害で金額が大きいもの、事故では人的被害で入院や長期の加療が必要なもの、外部機関（警察、消防）へ通報したものを選んだ。

2015年4月～2016年3月

・9月11日 「平成27年関東・東北豪雨」により、本沢流域の園路の一部が流失し、亀岡道が土砂崩れにより通行不能になった。

・1月18日 大雪により市道沿いのアカマツが倒木して通行中のキャンパスバスの屋根を損傷した。

3. 収蔵・展示事業

(1) 資料標本等収蔵関連事業

東北大学植物標本室（TUS）の2015年度における活動は以下の通りである。

(1) スタッフ

主任：中静 透，キュレーター：牧雅之（植物園本園），米倉浩司（八甲田山分園），大橋広好（名誉教授），根本智行（石巻専修大学），黒沢高秀（福島大学）

(2) 来訪者

2015年度に植物分類・地理学，生態学，薬学などの研究のため本標本室に来訪し，利用した外来研究者はのべ307名（うち国外3名。上記キュレーターは含まない）あった。また，植物園スタッフを除く学内研究者や学生はのべ20名あった。なお，上記外来研究者のうち90名は，2012年1月から始まった宮城県植物誌作成のための標本調査に関わる宮城植物の会の会員である。

(3) 標本の貼付状況

2015年度には新たに15403点の標本が貼付され標本庫に収められた。

(4) 寄贈標本

2015年度の標本寄贈はなかった。

(5) 標本交換

2015年度の交換標本の受入れはなかった。

(6) 標本貸し出し

2015年度の標本の貸し出しはなかった。

(2) 展示関連事業

企画展

2015年度は行われなかった。

4. 教育・教育支援・普及教育活動

(1) 入館者統計等

本園

植物園では，通常3月の春分の日から11月30日にかけて本館の展示室および天然記念物「青葉山」を一般公開している。平成27年度は3月21日春分の日より開園したが，関東・東北豪雨により9月11日を臨時閉園，またその被害により9月12日から外周園路のみの限定園路で公開を行った。

またこの間，H.27. 5/4 植物園の日，6/6 菽友会プレミアム懇談会（対象者のみ），7/29～30 オープンキャンパス（対象者のみ），10/31 ホームカミングデー（対象者のみ），11/3 紅葉の賀，H.28. 3/20～24 日本生態学会仙台学会参加者等に無料開放を行った。

その他8/13～16 夏季休園，8/29～30 設備点検により臨時休園とした。
2015年度の入園者数は下表の通りである。

2015年度植物園一般入園者数

有 料 入 園 者	無 料 入 園 者	合 計		
一般 団体	年間パスポート	小計	本学教	
職員学生	幼児	パス		
ポート	青葉山			
その他	小計			
5,455	129	155	5,739	1,630 245 1,552 2,470 5,897 11,636

備考：無料入園者の「パスポート」は、植物園発行の「年間パスポート」・仙台市教育委員会発行の「どこでもパスポート」(青葉山ゲート入園を除く)、および校長より正式な依頼のあった「自主研修」による入場者を含む。

また、後述の学内、学外の研究、教育などの利用を目的とした利用者を集計すると下表のようになる。

2015年度植物園利用者数

研究・教育・調査・資料調 等	一般入園者	合 計
学内利用者	学外利用者	
1,192	150	11,636 12,978

八甲田山分園

2015年度は、6月1日に開園し、10月31日に閉園した。この間、園内を無料で一般公開し、多数の入園者が訪れた。入園者の統計は無料入園でゲート等がないためにとることができない。

また、後述する大学などの実習により以下のような研究者の利用があった。

2015年の利用研究者（のべ宿泊数）

実習(基礎ゼミも含む)教官：36名(うち東北大学15,以下()内は同じ)実習TA：16名(16)実習院生：0名(0)実習学生：162名(54)セミナー一般49名(0)セミナー教官,PD 16名(5)セミナー学生・院生47名(6)研究教官：17名(12)研究院生：76(66)研究学生：0名(0)研究補助院生,PD 87名(47)研究補助学生23名(12)技官他：12名(12)その他：35名(33)計576名(278)

(2)学内教育との連携

3-2-1.本園

植物園は、植物園を舞台にしたフィールド調査、研究試料や研究情報の提供、講義・実習の場として、学内の研究者、学生に広く利用されている。2015年度においては、以下のような植物園の利用があった。

2015年度学内利用者数(延べ)

研究・調査・資料調 等	講義・実習	合 計	
教員	大学院生	学生	学生(延べ)
5	-	13	1,174 1,192

2015年度に植物園で実施された講義、実習等の科目名

科 目 名	人 数	備 考
理学部地学専攻 第5セメスター-野外実習	36	1回
教育学研究科 授業	14	1回
文学研究科 モスクワ国立短期留学プログラム	10	1回
教育学部 社会教育主事講習	72	1回
理学部天文学専攻 宇宙教育活動	12	1回
理学研究科 博物館実習VI	28	4回
文学研究科心理学修論卒論発表会	60	1回
総合技術部生物・生命専門研修会	30	1回
複合生態フィールドセンター教育		
研究センター研究集会	30	1回
経済学部国際交流支援室	15	1回
植物系統分類学分野セミナー	867	17名×51回

計 1,174

八甲田山分園

2015 年度は以下の学内の実習と他大学と合同のセミナーにおいて八甲田山分園の利用があった。園内および八甲田山系の案内など実習支援を行った。

東北大学植物生態学実習 8/6～8/10. 中静透教授, 彦坂幸毅教授, 饗庭正寛助教. 学部 3 年次学生 10 名.

東北大学植物分類学 (古植生学) 実習 9/3～9/5. 牧雅之教授, 大山幹成助教, 米倉浩司助教. 学部 3 年次学生 7 名.

東北大学・山形大学・福島大学合同植物分類・生態系研究室野外セミナー 10/11～10/12. 牧雅之教授・酒井聡樹准教授 (東北大学): 横山潤准教授 (山形大学): 黒沢高秀教授 (福島大学)

東北大教官 3 名・PD1 名・院生 5 名・学生 1 名. 山形大教官 1 名・PD1 名・院生 1 名. 福島大教官 1 名・院生 3 名・学生 2 名. 山形県立博物館より学芸員 1 名.

(3) 学外機関の利用

本園

植物園は、植物園を舞台にしたフィールド調査、研究試料や研究情報の提供、講義・実習の場として、学外の研究者、学生に利用されている。

2015 年度学外利用者数 (延べ)

外来研究者	植物園関係者	計	その他	合計
44	16	60	90	150

【参考】: 外来研究者・植物園関係者・その他の所属機関等
区分 所属機関等

外来研究者 北海道大学, 東北工業大学, 京都大学, 岩手大学, 秋田県立大学, 長崎国際大学, 大阪市立大学

植物園関係者 宮城植物の会

その他 カメイ(株), バードリサーチ, 仙台市交通局, 仙台市市民文化事業団, 自然薬食微生物研究所 (NMI), 伊勢神宮, 都市デザインワークス, 東北大学環境保全センター, プレック研究所

また植物園では、県内、県外の小中高等学校の授業、および各種団体の研修などの協力依頼に対し、園内および展示施設の解説・質疑応答等を適宜行っている。(遠足は除く)

利用区分 利用

回数 利用

人数 備考

オープンキャンパス 2 116 高校生

小学校 8 147 県内 4

中学校 12 149 県内 7

高等学校・専門学校 13 417 県内 5

その他 23 413 下記参照

計 58 1,245

(内訳) 小学校: 仙台市立片平丁小学校 2 年 87 名, 仙台市立南中山小学校 5 年 10 名, 仙台市立七北田小学校 6 年 5 名, 名取市立増田小学校 6 年 11 名, 山形県長井市長井小学校 6 年 13 名, 青森県おいらせ町立木ノ下小学校 6 年 12 名, 岩手県岩泉町立岩泉小学校 6 年 4 名, 岩手県野田村立野田小学校 6 年 5 名

中学校: 仙台市立郡山中学校 1 年 5 名, 仙台市立秋保中学校 1 年 5 名, 仙台市立山田中学校 1 年 5 名, 富谷町立富谷第二中学校 2 年 3 名, 美里町立南郷中学校 2 年 4 名, 石巻市立蛇田中学校 2 年 7 名, 塩釜市立玉川中学校 2 年 32 名, 福島県泉崎村立泉崎中学校 2 年 8 名, 福島県本宮市立本宮第一中学校 2 年 61 名, 福島市立信夫中学校 2 年 5 名, 福島市立松陵中学校 2 年 10 名, 北海道新得町立屈足中学校 3 年 4 名

高等学校・専門学校等: 尚絅学院高等学校 1 年 291 名, 福島県磐城高校 2 年 44 名, 宮城教育大学 24 名, 東北工業大学 36 名, 東北文化学園こども未来科 18 名, 仙台コミュニケーションアート専門学校 4 名

その他：東北大学環境サークルルネックス 12 名，東北大学ボランティアサークル 17 名，東北大学キャンパスツアー（学外対象）19 名，大崎市川渡地区公民館 17 名，森のガイド 4 名，イオン多賀城チアーズクラブ 13 名，みちくさの会 15 名，東堀越部会（山形県鶴岡市）33 名，香川県造園協会 21 名，イオンチアーズ古川店 11 名，新潟県生態研究会 13 名，水彩画の会 14 名，駒草俳句会 26 名，東北会病院 20 名，一関市千厩市民センター 20 名，東日観光 5 名，森林セルフケア 14 名，俳句の会「霽」12 名，脳いきいき教室 11 名，（株）キャラパンクラックス仙台 30 名，筋トレサークル 17 名，NHK 文化センター郡山 30 名，こども園みどりの森 39 名

八甲田山分園

（１）他大学の実習

2015 年度は以下の他大学の実習において八甲田山分園の利用があった。園内および八甲田山系の案内・解説など実習支援を行った。

山形大学地域教育学部・岩手大学人文社会学部合同実習 8/17～8/20. 永井康雄教授（山形大学）・竹原明秀教授（岩手大学）。山形大学は学部 3 年次学生 7 名・2 年次学生 3 名。岩手大学は学部 2 年次，3 年次，4 年次学生各 1 名。学生総計 13 名。

東京情報大学総合情報学部実習 8/26～8/30. 原慶太郎教授，富田瑞樹准教授，S. Kevine 准教授。学部 2 年学生 9 名，3 年次学生 3 名。

立正大学地球環境科学部実習 8/31～9/3. 米林仲教授。学部 3 年次学生 7 名。

茨城大学理学部研究室野外セミナー 10/8～10/10. 北出理教授。教官 2 名，院生 6 名，学生 2 名。

（２）観察会・研修会

2015 年度は以下の勉強会が行われた。

東北植物研究会野外植物研修会 6/27-6/28. 引率：米倉。一般 16 名，学生 4 名。

埼玉県高等学校生物系教員生物研究会 7/25-7/28. 引率：菅野治虫（埼玉県蕨高等学校）。一般 11 名。

青森県高等学校教育研究会理科部会の生物巡検 7/31. 引率：高木和彦（青森県立弘前南高等学校）。参加者 40 名。

また，以下の一般対象の観察会が八甲田山分園内とその周辺で行われた。

青森県立明の星高等学校遠足 6/12。

八甲田ホテル主催自然観察会 6/20，21

（４）報道機関・一般社会人等への対応

（１）報道機関への対応

- 1) 河北ウィークリーせんだい「植物園の日」イベント掲載 2015 年 4 月 16 日
- 2) リビング仙台「植物園の日」イベント掲載 2015 年 4 月 16 日
- 3) 読売新聞社「植物園の日」イベント掲載 2015 年 4 月 24 日
- 4) 仙台放送「植物園の日」取材 2015 年 5 月 4 日 ニュースピーク放送
- 5) NHK 放送局「植物園の日」取材 2015 年 5 月 4 日 昼のニュース放送
- 6) 河北新報社「植物園の日」取材 2015 年 5 月 5 日朝刊掲載
- 7) 読売新聞社「植物園市民公開講座」案内 2015 年 5 月 22 日掲載
- 8) 朝日新聞社「東松島のハマヒルガオと津波の影響について」2015 年 5 月 27 日
- 9) 東北放送「亜炭坑跡の撮影」Nスタみやぎ（夕方）2015 年 8 月中旬放映
- 10) テレビ朝日「ワイドスクランブル」日本の植生についてのHP引用

2015 年 11 月 19 日

- 1 1) 朝日新聞社「中野小学校の円盤寄贈について」2015 年 11 月下旬掲載
- 1 2) BS ジャパン「空から日本を見てみよう！」植物園と亜炭坑紹介 2016 年 3 月 8 日放送
- 1 3) 河北ウィークリーせんだい別冊「ちかてつさんぽ」開園情報 2016 年 3 月 20 日掲載

（２）一般社会人等への対応

- 1) 笠倉出版社・オフィス三銃士「日本の植物園散歩」情報掲載 2016 年
- 2) 地下鉄東西線情報誌「まっくる」情報掲載 2016 年 1 月号
- 3) NHK 出版「趣味の園芸」情報掲載 2016 年 3 月号
- 4) (株)カルダイ社「ウェルカムみやぎ観光ガイドブック」情報掲載 2016 年 3 月号

- 5) JTBパブリッシング「楽々仙台」情報掲載 2016年5月発行
- 6) 東北紙工業(株)「宮城県教育旅行ガイドブック2016」情報掲載
- 7) 地下鉄東西線情報誌「まっくる」植物園開園情報掲載 2016年3月18日発行

(5) 講演会・体験活動等

植物園が企画・実施または共催した企画と実施状況は以下の通りである。

(1) 植物園を利用したイベント

1) 植物園の日 「植物園に行こう」

平成27年5月4日 無料開園 参加者数：1,206名

奉納すずめ踊り, ミニ・コンサート, 植物園ガイドツアー(午前の部・午後の部)

企画展示「植物画展」(5/4~6/7)「中野小学校のスギ円盤展示」(5/4~常設展示)

2) 植物園ガイドツアー「ガイドウォーク」(定員各10名×6回) 参加者数：計44名

平成27年4月12日, 5月17日, 6月14日, 9月13日, 10月11日, 11月15日

3) 植物園「こども植物観察会」平成27年8月9日実施 参加者数：10名(5組)

平成27年7月16日~7月31日(受付期間)

小学生を対象に園内の木を観察して描きポスターを作成、後日園内に掲示。

4) 植物園「市民公開講座」平成27年6月~11月

・自然史講座「日本の森林：多様性と成り立ち」(全6回) 参加者数：計361名

平成27年6月20日, 7月18日, 8月8日, 9月19日, 10月17日, 11月21日

・植物画講座(各2日×2回) 参加者数：54名(4日間延べ)

春の植物画講座 平成27年6月6日~7日, 秋の植物画講座 10月24日~25日

5) 植物園・文学研究科共催 「紅葉の賀」

平成27年11月3日 無料開園 参加者数：375名

野点、尺八演奏、植物園内ガイドツアー、俳句会、公開講演会

本学の教員, 大学院生, 学生, 他大学, 各種研究機関の研究者等が本植物園を利用して行っている各種研究について, その成果を取り纏め, また, 研究成果の普及を計るために, 平成9年度より「植物園利用研究成果報告会」を開催している。平成27年度は平成28年3月9日に開催され, 7件の研究発表が行われた。また, この利用研究発表会の要旨集である利用研究報告書には, さらに2件の要旨掲載があった。

【プログラム】

日時：平成28年3月9日(水) 10:00~11:50

場所：東北大学植物園 講義室

10:00~10:05 開会の挨拶

10:05~10:20 非破壊的な盗蜜者による植物の繁殖への影響：サワギキョウでの訪花行動と蜜報酬の変化

*松原 豊 1・酒井聡樹 1

1 東北大・生命科学研究科

10:20~10:35 個体サイズに依存した胚珠サイズ：その一般性を探る

*望月潤 1・酒井聡樹 2

1 東北大・理, 2 東北大・生命科学研究科

10:35~10:50 園内に発生するツクツクボウシタケをはじめとした冬虫夏草属

*戸田真一 1・戸田真奈美 1・矢萩信夫 1・矢萩吉光 1・庄司優香子 1

1N. M. I. 自然薬食微生物研究所

10:50~11:05 東北大学植物園に露出する新第三系の層序と凝灰岩のアパタイト

微量元素組成

*高嶋礼詩 1, 草川遥 2

1 東北大・学資研, 2 東北大・理

11:05~11:20 晴天時における森林域を流れる小河川の流出特性に関する研究

*水野俊 1・鈴木龍之介 1・佐藤源亮 1・中山正与 1

1 東北工大・工学部

11:20~11:35 東日本大震災被災資料「仙台城跡界隈の毎木調査資料」等の再情報化について

*松山正将 1・今野均 2・豊嶋 純一 3・菊地 清文 1

1 東北工大、2 片平地区まちづくり会／片平地区連合町内会、
3 NPO 法人 都市デザインワークス

11:35~11:50 東北大学川内キャンパス魅力発見ツアー（ピクニックパレード）

*豊嶋 純一 1・杉山 丞 2

1 NPO 法人都市デザインワークス、2 東北大

【要旨のみ掲載】

・八甲田分園内のシダ類配偶体と AM 菌感染
今市涼子 1・橋本季巳江 1・武田夕海子 1
1 日本女子大・理

・森林の窒素循環におけるブナと環境の相互作用
橋本桂佑 1・新井（田中）孝尚 2・黒川紘子 3・上田実希 1・中静透 1
1 東北大・生命科学研究科、2 福島大・共生、3 森林総研

(6) ニュースレター・ホームページ・出版
植物園ホームページ

2015 年度における植物園ホームページでは、季節の草花の写真、イベント開催の告知、参加者募集（例えば、「公開講座」「紅葉の賀」）などを随時掲載し、一般市民や東北大学教職員・学生が親しみを持って来園できるような広報活動を実施した。また、大雨による臨時休園、部分開園の告知など、来園者への利便性を重視し、リアルタイムで植物園情報の発信を行った。地下鉄東西線開業に伴う交通案内の更新を行った。

以下に 2015 年度に行われたホームページ管理・更新履歴を列挙する。

- [2015/4/3] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/4/9] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/4/22] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/4/22] 「植物園の日」(5月4日)の開催情報を告知。
- [2015/5/8] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/5/8] 5/17 ガイドウォーク (5/17) が、定員に達した旨を告知。
- [2015/5/15] 2015 年度東北大学植物園公開市民講座の募集案内を掲載。
- [2015/5/22] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/6/16] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/6/25] 8月13日(木)~8月16日(日)、8月29日(土)~8月30日(日)の臨時休園を告知。
- [2015/7/1] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/7/13] 8月9日(日)に「こども植物観察会」の案内を告知。
- [2015/7/14] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/7/28] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/8/2] 8月5日(水)の仙台七夕花火祭の交通規制に伴う開園時間の短縮を告知。
- [2015/8/20] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/8/22] 「こども植物観察会」の様子を「イベント報告」に掲載。
- [2015/9/2] 秋の植物園ガイドウォークを開催を告知。
- [2015/9/2] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/9/11] 大雨による被害状況把握と復旧のため9/11の臨時休園を告知。
- [2015/9/11] 9/12からの通常開園と本沢園路など一部の園路の通行止めを告知。
- [2015/9/25] 園内の草花の情報を更新。
- [2015/10/8] 9/11の集中豪雨被害のため、部分開園の継続と通行可能箇所の地図を掲載。

[2015/10/12] 園内の草花の情報を更新。

[2015/10/29] 11月3日(火)(文化の日)の東北大学市民キャンパス『紅葉の賀』にかんする開催案内を掲載。

[2015/11/3] 園内の草花の情報を更新。

[2015/11/17] 園内の草花の情報を更新。

[2015/12/1] 冬季休園期間の告知。に入りました。

[2016/3/17] 地下鉄東西線開通に伴う、交通案内を更新。

[2016/3/17] 春の植物園ガイドウォークを開催案内を掲載。

[2016/3/17] 春の植物園ガイドウォークを開催案内を掲載。

[2016/3/22] 3/20(春分の日)からの開園を告知。

[2016/3/22] 5月4日(水)(みどりの日)「植物園の日」の開催を告知。

5. 全学・学部・大学院生への指導

(1) 授与した大学院学位

生命科学研究科博士前期課程(修士)

(論文審査委員:主査)

喜屋武隆太: 溪流沿い植物アオヤギバナの起源に関する系統地理学的研究

齋藤雄介: 日本と韓国に共通して分布する植物種の地理的遺伝分化~その足跡をたどって~

(2) 担当講義

全学教育

「生命科学概論」 第1 Semester 2単位

「自然科学総合実験」 第2 Semester 2単位(12回)

「博物館実習IV」 集中講義 1単位

学部専門教育(理学部)

「植物系統進化学」 第4 Semester 2単位

「植物系統分類学実習」 集中講義 1単位

「生物学へのアプローチ」 第2 Semester 1単位の1/12(1回)

「進化学実習」 第5 Semester 2単位のうち、5回

生物学演習」 第6 Semester 2単位のうち1/2(5回)

大学院教育(生命科学研究科)

「生態システム生命科学特論」 2単位のうち1/11(1回)

「生態学合同講義」 1回

「植物系統分類学特論」 2単位

6. 研究活動

(1) 研究支援活動

本園

1) 研究調査目的での利用研究申請

- ・ 自然環境変化に伴う昆虫相、蝶類分布の調査 亀井昭伍(カメイ株式会社)
- ・ 地下鉄東西線事業に係る環境影響評価事後調査(猛禽類調査) 仙台市交通局東西線建築部建築課(プレック研究所・東北事業所)
- ・ ライラック開花観察 門松昌彦(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)

環境省モニタリングサイト1000の準コアサイト調査の鳥類棲息状況調査 植田睦之(特定非営利活動法人 バードリサーチ)

植物園内を流れる小河川および湧水の水質と流量の調査 中山正与(東北工業大学工学部)

2014年垂炭香古学での植物園調査に伴う展覧会広報物への掲載依頼 (仙台市市民文化事業団) 8/8

～8/18 亜炭香古学 2015 イベント・仙台メディアテークにて
植物園内・湧水地点における地下水生生物の調査 末永崇之（東北大学理学部生物学科）
植物園内の冬虫夏草属の種別毎の発生数調査（N. M. I. 自然薬食微生物研究所）
式年遷宮に使用する楊箱の樹種同定等依頼 神宮技師 宮本史典（伊勢神宮）
鮮新世カルデラと凝灰岩対比のための地質調査・サンプリング 高嶋礼詩（東北大学総合学術博物館）
日本国内各地のタンポポの紅葉特性の調査 植松千代美（大阪市立大学大学院理学研究科）
コバギボウシの研究・調査 望月潤（東北大学理学部生物学科）
植物園内においてヤマトシロアリの採集実施（アカマツ）吉村剛（京都大学 生存圏
研究所）
青葉山公園で発見したホタルのいる沢の源流水質調査 豊嶋純一（都市デザインワークス）
残月亭に植樹した（昭和42年）トチノキの直径測定 菅原亀悦（岩手大学）
スミレ類の標本調査・撮影 大野利男（宮城植物の会）

技術職員による研究支援

2015年度は技術職員による技術支援は行われなかった。

ヤナギ園を利用した調査・研究

・2015年度はヤナギ園を利用した調査・研究は行われなかった。

栽培植物受け入れ

一般公開及び研究資料として以下の植物苗を受入れた。

・ハルトラノオ

採集地：広島県

受入月日：4月20日

・ハルトラノオ

採集地：熊本県

受入日時：4月20日

・Bistorta sp.

採集地：島根県

受入日時：4月20日

・ススヤアカバナ

採集地：福島県

受入日時：6月6日

・Silene (Lychnis) cognata (チョウセンマツモト)

採集地：韓国

受入日時：9月25日

採集者：米倉浩司

・Aconogonon divaricatum

採集地：岩手県

受入日時：9月25日

・カラムシ

採集地：岐阜県

受入日時：6月26日

採集者：小林和貴、鈴木三男

・アカシヨウマ

採集地：兵庫県

受入日時：10月26日

採集者：米倉浩司

・ジンジソウ

採集地：兵庫県

受入日時：10月26日

採集者：米倉浩司

・オオニガナ

採集地：宮城県

受入日時：11月24日

採集者：米倉浩司

・Rumex sp.

採集地：愛媛県

受入日時：2月5日

絶滅危惧植物の域外保全のため以下の植物苗を受入れた。

・ナガバサンショウソウ

採集地：宮城県

受入日時：3月30日

八甲田山分園

1) 学内研究者

中静透（教授）：地球温暖化が森林生態系にもたらす影響評価に関わるモニタリング

Maya Daumal (D2) : The variation of nitrogen cycle in beech forest by environmental factor
(環境要因によるブナ林における窒素循環の変動)

橋本桂佑 (M2) : 森林の窒素循環におけるブナと環境の相互作用

松原豊 (D3) : 盗蜜者がサワギキョウの蜜生産に及ぼす影響：盗蜜排除との比較から

金子麻里 (M2) : 高層湿原植物群集における異なる機能群の植物の窒素利用効率の解析

2) 学外研究者

今市涼子（日本女子大学，教授）：シダ植物配偶体の生育場所とAM菌相共生の相関関係に関する研究

中川宏記（横浜国立大学(酒井研究室)，M2）：温帯林樹木における標高傾度上での樹木の成長繁殖様式の変化

(2) 研究活動

(1) 植物園及び植物系統分類学講座の研究教育活動（教員の業績を除く）

1) 発表論文等

秋山綾子・鈴木三男 2015. 第III章第2節3項「小山崎遺跡の出土木材の樹種組成と森林植生」
遊佐町教育委員会（編）『小山崎遺跡発掘調査報告書-総括編-』：98-106.

大川貴弘・秋山綾子・鈴木三男 2015. 第IV章第3節2(3)項「木製品（漆器含む）」 遊佐町教育委員会（編）『小山崎遺跡発掘調査報告書-総括編-』：261-266.

片岡太郎・上条信彦・柴正敏・伊藤由美子・小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・鳥越俊行 2015. 青森県板柳町土井(1)遺跡出土漆器類の材質同定と製作技術の解明，考古学と自然科学 67：7-27.

古代の森研究舎・能城修一・鈴木三男 2015. 「北の谷地区から出土した木材の樹種」 青森県教育委員会（編）『三内丸山遺跡 42』：121-133.

小林和貴・鈴木三男 2015. 「神谷地遺跡の土壌墓から出土した朱漆紐の素材」 横手市教育委員会（編）『神谷地遺跡・小出遺跡』：448-449、

- 小林和貴・鈴木三男 2015. 「仙台中在家南遺跡から出土した樹皮製品等の植物種」 仙台市教育委員会（編）『仙台市文化財調査報告書第 434 集 中在家南遺跡第 6 次調査ほか』: 91-97.
- 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 2015. 第 28 節「河原口坊中遺跡出土編組製品等の素材の植物種」 『河原口坊中遺跡第 2 次調査』 4 分冊:1582-1588.
- 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 2015. 「三内丸山遺跡出土編組製品等の素材植物」 青森県教育委員会（編）『三内丸山遺跡 42』:134-151.
- 小林和貴・能城修一・佐々木由香・鈴木三男・濱田竜彦 2015. 高住井手添遺跡出土編組製品等の素材植物. 一般国道 9 号(鳥取西道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 XIX「高住井手添遺跡」, 鳥取県教育委員会: 192-199.
- 佐々木由香・小林和貴・能城修一・鈴木三男 2015. 「三内丸山遺跡北の谷出土編組製品・樹皮製品等の製作技法」 青森県教育委員会（編）『三内丸山遺跡 42』:152-159.
- 鈴木三男 2015. 「縄文・弥生時代の樹皮製品とその地域性」 あみもの研究会（編）『縄文・弥生時代の編組製品研究の新展開』 要旨集:27-34.
- 鈴木三男（編）2015. 平成 25-27 年度科学研究費補助金基盤研究 (A)「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組製品・繊維製品等素材の考古植物学的研究」(代表 鈴木三男) 研究成果シンポジウム (2015 年 11 月 22 日、明治大学お茶の水キャンパス) 資料集『縄文・弥生時代の編組製品研究の新展開—植物資源利用・技法・用途—』, 86pp.
- 鈴木三男・秋山綾子・吉川昌伸・吉川純子 2015. 第 IV 章第 4 節 2 項「縄文時代早期から晩期にかけての植生変遷と植物利用」 遊佐町教育委員会（編）『小山崎遺跡発掘調査報告書-総括編-』:429-433.
- 能城修一・佐々木由香・村上由美子・小林和貴・鈴木三男 2015. 第 27 節「河原口坊中遺跡(第 2 次調査)から出土した木材の樹種」 (公財) かながわ考古財団（編）『河原口坊中遺跡第 2 次調査』 4 分冊:1554-1581.
- 片岡博尚 2015. 『グスタフ・ゼン 葉緑体の変形と転位運動』 東北大学出版会, 446pp. {Senn, G. (1908) Die Gestalts- und Lageveränderung der Pflanzen- Chromatophoren. Engelmann, Leipzig の 翻訳と図解注釈 }
- 片岡博尚 2015. 「光と藻類の生活史」 飯野盛利（編）『光生物学事典』, 朝倉書店: 98-99.

2) 学会等での発表

- 藤川和美・石内勘一郎・大久保智史・鈴木三男・田代武男・能城修一・橋本光政・馬場由実子・ティンミヤソウ・ティンティンム・ヌエヌエウィン 2015. ミャンマー西部ナマタン国立公園の植物相. 日本植物園協会第 50 回大会研究発表会、京都、ポスター発表、2015 年 6 月 26 日.
- 大久保智史・石内勘一郎・鈴木三男・田代武男・能城修一・橋本光政・馬場由実子・藤川和美・ティンティンム・ヌエヌエウィン 2015. ミャンマーにおける民族植物学的調査. 日本植物園協会第 50 回大会研究発表会、京都、ポスター発表、2015 年 6 月 26 日.
- 鈴木三男・能城修一・タンシン 2015. ミャンマーの漆掻き. 日本植物園協会第 50 回大会研究発表会、京都、ポスター発表、2015 年 6 月 26 日.
- 鈴木三男・小林和貴・佐々木由香・能城修一 2015. 縄文の縄・紐類の素材植物. 第 30 回日本植生史学会北海道大会、北海道、口頭発表、2015 年 11 月 8 日.
- 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 2015. 北海道で出土した編組製品の素材植物. 第 30 回日本植生史学会北海道大会、北海道、ポスター発表、2015 年 11 月 8 日.
- Kazutaka Kobayashi・Mitsuo Suzuki・Yuka Sasaki・Shuichi Noshiro 2015. Prehistoric plant materials for various types of weaving in Japan. XIX INQUA (the International Union for Quaternary Research) Congress, 名古屋, 口頭発表, 2015 年 7 月 26 - 8 月 2 日.

3) 招待講演・講師等

- 鈴木三男. 招待講演「信濃の森とヒトのつきあいの歴史」, 秋季企画展『樹木と人の交渉史』講演会, 長野県立歴史館(長野県千曲市), 2015 年 10 月 3 日
- 鈴木三男. 招待講演「鳥浜貝塚から 40 年-さらにわかった! 縄文人の植物利用」, 第 98 回歴博フォーラム『さらにわかった! 縄文人の植物利用—その始まりと編みかご・縄利用—』, 国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市), 2015 年 11 月 21 日.
- 鈴木三男(主催). 平成 25-27 年度科学研究費補助金基盤研究 (A)「日本の縄文・弥生時代遺跡出土

編組製品・繊維製品等素材の考古植物学的研究」(代表 鈴木三男) 研究成果シンポジウム『縄文・弥生時代の編組製品研究の新展開―植物資源利用・技法・用途―』, 明治大学お茶の水キャンパス (東京都千代田区), 2015年11月22日.

鈴木三男. 招待講演「縄文・弥生時代の樹皮製品の素材とその地域性」平成25-27年度科学研究費補助金基盤研究(A)「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組製品・繊維製品等素材の考古植物学的研究」(代表 鈴木三男) 研究成果シンポジウム『縄文・弥生時代の編組製品研究の新展開―植物資源利用・技法・用途―』, 明治大学お茶の水キャンパス (東京都千代田区), 2015年11月22日.

(2) モニタリングサイト1000

モニタリングサイト1000とは、平成14年に策定された新・生物多様性国家戦略に基づき環境省生物多様性センターが中心となって行っている調査で、全国1000カ所の調査サイトで長期にわたる継続的なモニタリングを行って、自然環境データを収集、蓄積し、そのデータを分析することにより、自然環境の移り変わりを捉え、迅速かつ適切な保全対策につなげることを目指している。天然記念物「青葉山」は、この調査における森林サイトの準コアサイトとして選定され、平成17年度より調査を開始した。平成27年度は、5年毎の毎木調査を行い、前年度に引き続いてリタートラップによる森林生産量の測定とピットホールトラップによる昆虫の調査を行うとともに、林床における有機物の分解実験(セルロースフィルター分解試験)を行った。調査の概要は以下の通りである。

調査内容：リタートラップ調査	12回
ピットホールトラップ調査	4回
セルロースフィルター分解試験	3回
毎木調査	

(3) 研究資金受託状況

●鈴木 三男 (名誉教授、協力研究員)

科学研究費

H25~27 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤(A))「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究」代表者 9,230,000円(直接経費7,100,000円、間接経費2,130,000円)

H27~31 日本学術振興会科学研究費補助金(新学術領域)「古環境の変遷と動・植物利用の諸段階」研究分担(代表者 金原 正明 奈良教育大学教授)2,340,000円(直接経費1,800,000円、間接経費540,000円)

H27~30 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤(A))「縄文時代前半期における森林資源管理・利用体系の成立と植物移入の植物学的解明」研究分担(代表者 能城修一 森林総合研究所木材特性研究領域・チーム長)780,000円(直接経費600,000円、間接経費180,000円)

V. 教員の研究教育活動

1. 総合学術博物館

西 弘嗣 (総合学術博物館 教授)

【研究分野】 古生物学・層序学・古海洋学

【研究課題】 過去1億年間の古海洋・古環境変動

【2015年度の研究概要】

白亜紀～第四紀の古環境変動

ニューファンドランド沖, 赤道太平洋, 南海トラフ等の IODP コア試料を用いて, 各種微化石 (浮遊性有孔虫, 底生有孔虫, 石灰質ナノ化石, 渦鞭毛藻シスト化石など) の群集解析を行い, 白亜紀から第四紀に至る海洋環境変動の研究を行った。

白亜系～第四系の層序学的研究

北海道の白亜系蝦夷層群, 白亜系～古第三系根室層群, 古第三系音別層群および幌内層群, 岩手県の白亜系久慈層群, フランス Vocontian Basin の白亜系に対して, 各種微化石層序 (浮遊性有孔虫, 底生有孔虫, 石灰質ナノ化石, 渦鞭毛藻シスト化石など), 炭素同位体比層序, オスミウム同位体比層序, 凝灰岩の U-Pb 年代測定を行い, 高精度の年代モデルを構築した。

震災遺構の3次元クラウドデータに関する研究

岩手県および宮城県各地の東日本大震災の被災遺構に対して3次元クラウドデータ化を行い, バーチャルリアリティシステム上に再現する事業を行った。

【学術論文等】

< ISI 登録誌 >

Du Vivier, A. D. C., Selby, D., Condon, D. J., Takashima, R., Nishi, H., 2015. Pacific 1870s/1880s isotope and U-Pb geochronology: Synchronicity of global Os isotope change across OAE 2. *Earth and Planetary Science Letters*, Vol. 428, 204-216. DOI: 10.1016/j.epsl.2015.07.020

Takata, H., Lee, J., Sakai, S., Nomura, R., Tsujimoto, A., Nishi, H., Lim, H. S., Khim, B., 2015. Impact of early Oligocene deep water circulation to the benthic foraminifera in the eastern equatorial Pacific. *Micropaleontology*, Vol. 118, 177-184.

Matsuzaki, K. M., Suzuki, N., Nishi, H., Hayashi, H., Gyawali, B. R., Takashima, R., Ikehara, M., 2015. Early to Middle Pleistocene paleoceanographic history of southern Japan based on radiolarian data from IODP Exp. 314/315 Sites C0001 and C0002. *Marine Micropaleontology*, Vol. 118, 17-33. DOI: 10.1016/j.marmicro.2015.05.001

< ISI 登録誌以外の査読付き学術論文 >

【学会発表・講演等】

< 国際会議 >

Hiroki Matsui, Hiroshi Nishi, Reishi Takashima, Azumi Kuroyanagi, Minoru Ikehara, Hideko Takayanagi, Yasufumi Iryu. Changes of Oligocene planktic foraminiferal depth habitat in the eastern equatorial Pacific (IODP Site U1334 and U1333). AGU Fall Meeting 2015, Dec. 15 2015, San Francisco, USA.

< 国内会議 >

西弘嗣・鈴木紀毅・小安浩理・高嶋礼詩・山中寿朗. 北海道蝦夷層群における放散虫化石層序とその年代—浮遊性有孔虫・炭素同位体比・U-Pb 年代との統合—. 日本古生物学会第165回例

会. 2016年1月30日, 京都.

西弘嗣・小安浩理・尾松圭太・高嶋礼詩. 白亜系蝦夷層群における浮遊性・底生有孔虫, 放散虫統合層序の樹立と古環境解析. 日本地質学会第122年学術大会. 2015年9月11日, 長野.

Gyawali B. R., Nishi, H., Takashima, R., Herrle, J. O. Mid-Cretaceous calcareous nanofossil biostratigraphy in the Vocontian Basin, Southeast France. 日本地質学会第122年学術大会. 2015年9月11日, 長野.

安藤卓人・沢田健・中村英人・宮田遊磨・尾松圭太・高嶋礼詩・西弘嗣. 北海道蝦夷層群 Cenomanian/Turonian 境界堆積岩の有機地球化学指標に記録された海洋の酸化還元環境変動. 日本地質学会第122年学術大会. 2015年9月11日, 長野.

安藤卓人・沢田健・高嶋礼詩・西弘嗣. 白亜系海洋無酸素事変層準の堆積岩中に見出されるアクリタークの起源生物と白亜紀海洋における基礎生産への寄与. 日本地質学会第122年学術大会. 2015年9月11日, 長野.

有元純・高嶋礼詩・西弘嗣・條将太・山中寿朗・折橋裕二・高地吉一・山本鋼志・梅津慶太. 上部白亜系久慈層群における炭素同位体比・U-Pb 放射年代統合層序を用いた高精度年代決定. 日本地質学会第122年学術大会. 2015年9月11日, 長野.

西弘嗣・西田茉莉・尾松圭太・桑原義博・高嶋礼詩. 底生有孔虫化石と粘土鉱物組成に基づくOAE 2期間の古環境変動. 第1回地球環境史学会年会, 2015年11月21日, 東京.

西弘嗣・條将太・有元純・高嶋礼詩・山中寿朗・折橋裕二・山本鋼志・高地吉一・梅津慶太. 炭素同位体比層序と凝灰岩の放射年代に基づく白亜系浅海—陸成堆積物の高精度年代対比. 日本地球惑星科学連合大会, 2015年5月25日, 千葉.

平井彩乃・池原実・佐多美香・松崎賢史・西弘嗣・横山祐典. 房総半島沖黒潮流域におけるヤングドライアス前後の古海洋変動—ちきゅう掘削コア C9010E の地球化学的研究. 日本古生物学会2015年年会, 2015年6月27日~28日. つくば.

山口龍彦・松井浩紀・西弘嗣. ニューファンドランド沖のIODP Site U1407のマーストリヒチアン階~サネティアン階の貝形虫化石層序(予察). 日本古生物学会2015年年会, 2015年6月27日~28日. つくば.

浦川良太・小松俊文・高嶋礼詩・尾松圭太・西弘嗣. 日出島に分布する下部白亜系宮古層群の堆積環境と産出化石. 日本古生物学会2015年年会, 2015年6月27日~28日. つくば.

松井浩紀, 西弘嗣, 高嶋礼詩, 黒柳あずみ. 漸新世の浮遊性有孔虫に基づく東赤道太平洋域の温度躍層深度および湧昇流強度. 微古生物学リファレンスセンター研究集会 2015, 2015年8月10日, 仙台.

【学術調査・渡航】

- 1) 2015年9月28日~10月2日: 熊本県・坂瀬川層群の調査
- 2) 2015年11月15日~19日: 徳島県・物部川層群の調査

【シンポジウム・研究集会の開催など】

東北みらいプロジェクトレクチャシリーズ「地球と宇宙の謎に挑む」を開催. 2016年3月19日, 東北大学川内キャンパス.

東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム「共に未来へ~東日本大震災から5年~」において, 震災遺構3次元クラウドアーカイブ事業の展示を開催. 2016年3月8日, 川内萩ホール. 第5回日本外来小児科学会年次集会において, 震災遺構3次元クラウドアーカイブ事業の展示を実施. 2015年8月22, 23日, 東北大学川内キャンパス.

J-DESC(日本地球掘削科学コンソーシアム) コアスクール・第9回微化石コース/第12回微化石サマースクール(底生有孔虫)を開催(J-DESC, 総合学術博物館, 理学部地圏環境科学科との共催). 2015年8月6-8日, 仙台, 東北大学青葉山キャンパス.

MRC 2015 in Sendai(微古生物学リファレンスセンター研究集会 in 仙台)を開催. 2015年8月8-10日, 仙台, 東北大学青葉山キャンパス.

【共同研究実施状況】

ダラム大学(英): 北海道の白亜系のオスミウム同位体比に関する研究.

岡山大学：日本の白亜系堆積物の炭素同位体変動に関する共同研究。
東京大学地震研究所：日本の白亜系の U-Pb 年代に関する共同研究。
ゲーテ大学（独）：フランスの白亜紀石灰質ナノ化石に関する共同研究。
スクリプス海洋研究所（米）：古第三紀の古海洋に関する共同研究。
リール第一大学（仏）：白亜紀放射虫化石に関する共同研究。
中国科学院古脊椎動物古人類研究所：白亜紀の陸成層に記録された古環境変動に関する共同研究。

【外国人研究者受入状況】

平成 28 年 2 月 16 日～3 月 16 日にかけて、中国科学院古脊椎動物古人類研究所の海魯（ハイル）尤（ヨウ）教授を学術資源研究公開センターの客員教授として招聘した。

【社会的貢献】

小田原スタディーツアーの協力（7 月 25 日）博物館の展示解説
多賀城高校の地質野外実習の引率（9 月 26～27 日）

【新聞等で報道された研究成果・研究紹介】

【担当講義・実験科目】

全学教育科目：博物館実習 VI
専門教育科目：日本の地質誌，島弧の進化と環境（分担），博物館学Ⅱ（分担）「セミナー」（分担），課題研究
大学院科目：地球環境科学概論，セミナー（分担），課題研究

【外部資金】

基盤研究 A（一般） 代表，「北太平洋における極限温室期の全環境復元」．直接経費 3,600,000 円．間接経費 1,080,000 円．課題番号：24244082.

【学内委員】

学術資源研究公開センター センター長
広報戦略会議委員
学術資源研究公開センター運営専門委員会委員
総合学術博物館部会委員
理学部附属自然史標本館館長

【学外委員】

日本古生物学会・評議員
日本古生物学会・常務委員
日本地質学会代議委員
Island Arc 編集委員
地球惑星連合財務委員会委員
地球惑星連合理事
日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESK）部会長
地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 IPA 小委員会 委員
日本学術会議連携会員

【所属学会】

日本地質学会，日本古生物学会，日本堆積学会，東京地学境界，日本地球惑星科学連合学会，
地球環境史学会
Geological Society of America, American Geophysical Union

藤澤 敦（教授）

【研究分野】考古学・文化財科学

【2015 年度の研究概要】

1) 古墳時代前後の北海道・東北の文化の変遷と分布

古墳時代を前後する、弥生時代後期から飛鳥時代にかけての時期は、北海道・東北地方の文化の分布が、大きく変動する時期にあたる。その原因をめぐっては、様々な議論があるが、環境変動の影響をどのように考えるかという点で、検討されるべき課題が多く残っている。このような検討を進めて行くには、考古資料編年の対応関係を整理し、その分布の変化を整理しておくことが必要である。そのため各地域の研究成果を検討して併行関係を整理し、新たな実年代観を提示するとともに、文化の分布変化の連動性などについて検討した。

2) 東北大学での考古学研究についての学史的 research

東北大学を舞台に進められた考古学研究について、学史的な側面から検討をしている。山内清男の縄文原体研究は、東北大学を舞台に昭和初期に行われた重要な研究である。山内の縄文原体表記の提唱の際に、東北大学理学部の木村有香（植物学）と元村勲（動物学）との関係が大きな影響を与えていることを論証した。

3) 前方後円墳の3次元測量にもとづく墳丘形態の研究

整った形態を持つ前方後円墳は、設計図や土木技術の裏付けがあって構築可能であったと考えられ、墳丘形態の詳細な検討が行われてきた。近年では、3次元計測に基づく詳細なデータを使用して、立体的な検討が進められている。岡山大学新納泉教授を中心とする研究グループの一員として、宮城県村田町の愛宕山古墳の3次元レーザー計測を実施し、その墳丘形態の特徴の検討を進めている。

4) 色麻古墳群出土遺物の研究

1950年に東北大学考古学研究室によって調査された、宮城県色麻古墳群の調査成果は、北縁地域の終末期古墳の調査事例として重要な意味を有するが、長らく正式な調査報告がなされてこなかった。この資料について、調査報告の作成を見据えて、資料の図化などの作業を開始し、検討を進めている。特に副葬品の須恵器が、7世紀後葉における地方生産の可能性が高く、地方への須恵器生産の拡大を考える上で、重要な事例であることが判明している。

【学術論文等】

著書

藤澤敦編著（他5名と共著）2015・10『東北の古代史2 倭国の形成と東北』吉川弘文館
論文（和文・査読なし）

藤澤敦 2015・9「蝦夷を問う者は誰かー蝦夷論の構造をめぐると問題ー」『東北史を拓く』
山川出版社、48～67頁

その他の著作（新聞記事等も含む）

藤澤敦 2015・6「4年を経た被災地宮城から」『考古学研究』第62巻第1号、考古学研究会、6～10頁

河北新報 2015年11月28日 「<愛宕山古墳>古代の実像掘り起こせ◎東北大と岡山大共同調査へ」

河北新報 2015年12月1日 「愛宕山古墳の重要性学ぶ 中学生が学習会」

【学会発表・講演等】

2015年度東北史学会大会 藤澤敦「山内清男の縄文原体表記と植物学者木村有香」 2015年10月4日、東北大学

教育活動

【担当講義・実験科目】

- ・東北大学大学院文学研究科・文学部「博物館資料論特論・考古学各論」（前期）
- ・東北大学大学院文学研究科・文学部「文化財科学特論・考古学各論」（後期）
- ・東北大学文学部「博物館資料論」（後期）
- ・東北大学文学部「博物館実習VI」（前期集中講義）

【学生指導】

- ・ 文学研究科博士後期課程（博士）論文審査委員（副査）
八重樫忠郎「中世平泉の生活文化に関する考古学的研究」
 - ・ 文学研究科博士前期課程（修士）論文審査委員（副査）
熊谷亮介「ナイフ形石器の製作と機能に関する形態計量学的研究」
- 山口貴久「律令社会成立期における北日本の副葬品研究」
山田凜太郎「動物資源からみた縄文時代における生業」

【学外非常勤講師】

- ・ 宮城教育大学「日本史講義 D」（後期）
- ・ 放送大学宮城学習センター「専門科目：人間と文化」（第 1 学期面接授業）

【外部資金】

科学研究費補助金基盤研究（B）（一般）「前方後円墳の三次元計測とそれにもとづく設計原理の検討」（分担・研究代表者岡山大学新納泉）700,000 円

【学内委員】

学術資源研究公開センター運営専門委員会委員
学術資源研究公開センター総合学術博物館部会委員
学術資源研究公開センター植物園部会委員
埋蔵文化財調査室運営委員会委員
埋蔵文化財調査室運営委員会専門部会委員

【学外委員】

日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会副委員長
考古学研究会全国委員
東北史学会評議員
日本文化財科学会文化財防災特別委員会委員
宮城県考古学会副会長・宮城県考古学会東日本大震災対策特別委員会委員長
東北・関東前方後円墳研究会幹事
青森県おいらせ町阿光坊古墳群整備検討委員会副委員長
岩手県山田町房の沢古墳群出土品保存管理指導委員会委員
宮城県仙台市仙台北城跡調査指導委員会委員
宮城県名取市文化財保護審議会委員
宮城県名取市歴史文化基本構想等策定委員会委員

【所属学会】

日本考古学会、日本文化財科学会

佐々木 理（准教授）

【研究分野】 情報古生物学

【研究課題】

古生物学・地球科学・考古学等の自然史科学研究領域を対象とした X 線 CT 等の 3 次元コンピューター技術の応用研究・技術開発

【2015 年度の研究概要】

1) デジタル標本システムデータベース「e-Foram Stock」の開発

95 年の Internet 元年以降、急速な Internet 技術の発展と普及により、あらゆる情報環境を急激に変化させつつある。総合学術博物館では、博物館発足以来、博物館における標本研究の新しいコア技術として次世代型標本システムの開発とそれを用いた分類研究法の研究を行ってきた

た。08年度はデジタル標本のインターネット配信のための実験サイト「e-Foram Stock」を構築し、実験公開 (<http://webdb2.museum.tohoku.ac.jp/e-foram/index.html>) を開始した。システム構築では、主にデジタル標本ソフト配信方法、デジタル標本規格及び著作権調整、WWW ページデザイン、データベース検索ソフト開発、デジタル標本製作とデジタル標本データベース構築を行った。

- 2) マイクロフォーカス X 線 CT 断層像の高画質化法の開発
X 線 CT 装置による標本撮影法を確立するために、断層像の画質を空間解像度、コントラスト及びノイズの評価アルゴリズムを検討した。特に、X 線検出器のノイズ特性及び S/N 比に注目し、ノイズ発生原因を検討し、その低減法を提案した。
- 3) 浮遊性有孔虫殻形態計測法の開発
現生浮遊性有孔虫の分子生物学的研究は、このグループの少なくない形態種から複数の遺伝的に異なる隠蔽種を報告している。このことは、従来の形態種の再検討が必要であることを示している。形態種の再検討のため、CT 断層像スタックデータに基づく分類形質の 3 次元形態計測法を開発し、浮遊性有孔虫 *Globoconella* 属と *Neogloboquadrina* 属の進化系列を対象として、その有効性の評価を行った。
- 4) X 線 CT 技術を用いた海洋の炭酸イオン濃度指標の確立
X 線 CT を用いて浮遊性有孔虫・翼足類の殻密度、特に、成長・殻形成・溶解等による密度変化の定量計測法の開発のための基礎的研究を行い、北極海及び北太平洋における海洋酸性化の影響の定量評価を行った。
- 5) エディアカラ紀・カンブリア紀産動物胚化石の内部構造解析
X 線 CT 及び CG を用いて動物胚化石内部構造を解析し、動物進化初期の動物胚発生過程の再構築を行った。
- 6) 考古遺物等の内部構造解析
X 線 CT 及び CG を用いて土偶等の考古遺物の内部構造を解析し、その製作過程の再構築を行った。
- 7) 火成岩等岩石の内部構造解析
X 線 CT 及び画像解析を用いて火成岩等岩石の内部構造を解析し、その成因について考察した。
- 8) 岩石堆積構造の 3 次元構造解析
X 線 CT 及び画像解析を用いて頁岩の堆積構造を解析し、その成因について考察した。

【学術論文等】

< ISI 登録誌 >

- 1) Iwasaki, S., Kimoto, K., Sasaki, O., Kano, H. Honda, M. C., and Okazaki, Y., 2015
Observation of the dissolution process of *Globigerina bulloides* tests (planktic foraminifera) by X-ray microcomputed tomography. *Paleoceanography*, 30, 317–331, doi:10.1002/2014PA002639.
- 2) S. Okumura, K. Uesugi, M. Nakamura, and O. Sasaki, 2015
Rheological transitions in high-temperature volcanic fault zones. *J. Geophys. Res. Solid Earth*, 120, doi:10.1002/2014JB011532.
- 3) Ehiro, M., Sasaki, O., Kano, H., Kato, H., 2015
Thylacocephala (Arthropoda) from the Lower Triassic of the South Kitakami Belt, Northeast Japan. *Paleontological Research* 19(4):269-282 · October 2015
- 4) Otsuki, S., Nakamura, M., Okumura, S. and Sasaki, O. (2015)
Interfacial tension-driven relaxation of magma foam: An experimental study. *J. Geophys. Res. Solid Earth*, 120, 7403–7424, doi:10.1002/2015JB012391.
- 5) Han, J., Kubota, S., Ou, G. Li, Q., Wang, X., Yao, X., Shu, D., Li, Y., Uesugi, K., Hoshino, M., Sasaki, O., Kano, H., Sato, T., and Komiya, T. (2016)
Divergent evolution of medusozoan symmetric patterns: Evidence from the microanatomy of Cambrian tetramerous cubozoans from South China. *Gondwana Research*, doi:10.1016/j.gr.2015.01.003

6) Okano, J., Sasaki, O. and Kano, H. (2016)
The effects of surface roughness of sediment particles on the respiration of case-bearing caddisfly larvae.
Freshwater Science, DOI: 10.1086/685713

7) 佐々木理・岩下智洋・木元克典・鹿納晴尚・木原辰之 2016
計算微古生物学：最新 3 次元イメージング技術の浮遊性有孔虫研究への応用. *化石* 99, 63-72.

< ISI 登録誌以外の査読付き学術論文 >

< 査読なし論文 >

< プロシーディング・紀要報告 >

< 書評・総説類 >

< 著書 >

< 調査報告書 >

【学会発表・講演等】

< 国際会議 >

- 1) Kimoto, K., Sasaki, O., Kano, H., Kihara, T., Wakita, M., Onodera, J., Honda, M. and Harada, N.
Micro-focus X-ray CT analysis reveals shell density of marine calcifiers and its seasonal changes. *Arctic Science Summit Week 2015*, Toyama, Japan, 2015.4.23-26.
- 2) Iwasaki, S., Kimoto, K., Sasaki, O. and Kano, H.
Investigation in impact of seawater condition on planktic foraminiferal (*Globigerina bulloides*) calcification by X-ray micro-computed tomography. *ESSAS Annual Science Meeting*, Yokohama, Japan, 2016.3.7-9.

< 国内会議 >

- 1) 木元克典・木原辰之・岩崎晋弥・佐々木理・鹿納晴尚・脇田昌英・入野智久海洋酸性化研究を目指したマイクロフォーカス X 線 CT 技術. 日本地球惑星科学連合大会、千葉、2015.5.24-28.
- 2) 奥村聡・上杉健太郎・中村美千彦・佐々木理
珪長質マグマの粘性流動と摩擦すべり：火山の噴火様式の多様性に対する意義. 日本地球惑星科学連合大会、千葉、2015.5.24-28
- 3) 奥村聡・岩本将明・佐々木理
高結晶度マグマの発泡とそれに伴う流動化. 日本地球惑星科学連合大会、千葉、2015.5.24-28.
- 4) 佐々木猛智・前川 優・佐々木理・前野哲輝・幸塚久典・近藤真理子
高精細 X 線 CT 装置を用いた生物多様性研究の効率化. 日本動物分類学会代 51 回大会、広島、2015.6.13-14
- 5) 片岡太郎・上條信彦・鹿納晴尚・佐々木理
X 線 CT 観察による縄文時代晩期の漆櫛の製作技術. 日本文化財科学会代 32 回大会、東京、2015.7.11-12
- 6) 片岡太郎・上條信彦・鹿納晴尚・佐々木理
X 線 CT 分析による秋田県南秋田郡五城目町中山遺跡出土堅櫛の製作技術. 日本文化財科学会代 32 回大会、東京、2015.7.11-12
- 7) 永広昌之・佐々木理・鹿納晴尚・根本 潤・加藤久佳
南部北上帯下部三畳系産 *Thylacocephala* (囊頭類) : わが国からの初産出とその意義.
日本地質学会第 122 年大会、長野、2015.9.11-13.
- 8) 永広昌之・佐々木理・鹿納晴尚

南部北上帯歌津地域の下部三畳系（上部オレネッキアン階）大沢層のアンモノイドフォーナ。日本古生物学会第 165 回例会、京都、2016.129-1.31

- 9) 柏木晴香・木下峻一・佐々木 理・梶村 恒
虫害堅果を透視してネズミの選好性を探る一幼虫の有無、種・サイズ、摂食率に着目して一。日本生態学会第 63 回大会、仙台、2016.3.20-24.

【学術調査・渡航】

【シンポジウム・研究集会の開催など】

【共同研究実施状況】

- 1) 木元克典・脇田昌英 (JAMSTEC)・岩崎晋弥 (東京大)・入野智久 (北海道大)：海洋酸性化による浮遊性有孔虫等骨格形成への影響評価
- 2) 中村美千彦・奥村聡 (東北大)：火山噴出物等の微細構造評価
- 3) 佐々木猛智・前川 優・幸塚久典・近藤真理子 (東京大)・前野哲輝 (国立遺伝研)：3 次元コンピュータリングによる生物多様性研究
- 4) 上條信彦・片岡太郎 (弘前大)：縄文漆櫛等の製作技術
- 5) 阿古島香 (東北大)：縄文土製品の製作技術
- 6) 永広昌之 (東北大)・加藤久佳 (千葉県博)：下部三畳系の古生物学的研究
- 7) 梶村 恒・柏木晴香 (名古屋大)：堅果類虫害の定量評価
- 8) 菊池一夫 (コムスキャン)・岩下智洋 (ホワイトラビット)・木元克典 (JAMSTEC)：微小標本撮影のための X 線 CT 技術開発
- 9) 江口克之 (首都大)：アリ類 3 次元形態解析
- 10) 岡野淳一 (京都大)：トビケラ幼虫の巣微細構造の定量評価
- 11) 林広樹 (島根大)：浮遊性有孔虫サイズの時間変動解析
- 12) 浅海竜司 (琉球大)：海洋酸性化のサンゴ成長への影響評価
- 13) J. Han (Northwest Univ., China)・K. Komiya (Tokyo Univ., Japan)：カンブリア系最下部・胚化石による動物門多様性進化の研究
- 14) H.L.Filipsson (Lund Univ. Sweden)・T. Toyofuku (JAMSTEC)：海洋酸性化による底生有孔虫骨格形成への影響評価

【新聞等で報道された研究成果・研究紹介】

【外国人研究者受入状況】

【受賞】

第 63 回日本生態学会ポスター賞

【アウトリーチ】

1. 被災ミュージアム支援活動：南三陸わらすこ探検隊・9 月 22 日・23 日
2. 博物館ニュースレターno.48 表紙「カイアシ類」
3. 博物館ニュースレターno.49 表紙「3 次元脳動脈瘤モデル」

【担当講義・実験科目】

専門教育：「地圏情報解析学」(分担)、「地圏情報解析学実習」(分担)、「基礎地学実験」,「進化古生物学」(分担)、「セミナー」(分担)、「地学実験」(分担)、「課題研究」
大学院教育：「群集進化学特論」(分担)、「セミナー」(分担)、「課題研究」
学芸員養成課程：博物館実習 I
その他：短期留学生プログラム (分担)

【客員教員】

【非常勤講師】

【外部資金】

- 1) 科研費（萌芽的研究・分担）・「高精細 X 線 CT 装置を活用した生物多様性研究の高精度化（佐々木猛智・東京大学）200,000
- 2) 科研費（基盤 C ・分担）・「浮遊性有孔虫殻サイズの標準変動曲線の提唱（林 広樹・島根大）400,000

【学内委員】

- ・ 広報連絡会議委員
- ・ 情報シナジー機構情報システム利用連絡会議委員
- ・ 学術資源研究公開センター運営専門委員会委員
- ・ 総合学術博物館部会委員

【学外委員】

- 1) 仙台市文化財保護委員
- 2) 山形県立博物館協議委員
- 3) 宮城県被災文化財等保全連絡会議委員

【所属学会】

日本古生物学会，日本地質学会，日本進化学会，日本博物科学会，日本昆虫学会，日本博物科学会

長瀬 敏郎（准教授）

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

専門教育科目：造岩鉱物学（分担），鉱物結晶学，地球物質科学概論（分担），野外調査実習（分担），課題研究（分担）

大学院科目：鉱物構造論特論 I，鉱物成因論特論 I，鉱物学特選講義 II（分担）

2. 研究活動

(1) 研究概要

低温熱水から生成するアモルファス・結晶中間体の構造と挙動 鉱物の微細組織の観察・解読

- ・ カルセドニーならびにめのう組織の多様性と微細構造
- ・ 黒鉱中のウルツ鉱の生成過程の解明を目指した微細組織の観察
- ・ 千葉石の多形に関する研究（国立科学博物館との共同研究）
- ・ 小笠原諸島に産する鉱物の記載（国立科学博物館との共同研究）

(2) 学術論文等

< ISI 登録誌 >

- 1) Nozaki,T., Ishibashi,J., Shimada,K., Nagase,T., Takaya,Y., Kato,K., Kawagucci,S., Watsuji,T., Shibuya, T., Yamada,R., Saruhashi,T., Kyo,M. & Takai,K., Rapid growth of mineral deposits at artificial seafloor hydrothermal vents. Scientific Reports,6,(2016),22163.
- 2) Miyahara,M., Ohtani,E., Goresy, A.E., Lin,Y., Feng,L., Zhang,J.C., Gillet,P., Nagase,T., Muto,J., Nishijima,M., Unique large diamonds in a ureilite from Almahata Sitta 2008 TC3 asteroid. Geochimica et Cosmochimica Acta,163(0),(2015),14-28.
- 3) Momma,K., Nagase,T., Kuribayashi,T., and Kudoh,Y., Growth history and textures of quartz twinned in accordance with the Japan law.European Journal of Mineralogy,27(1),(2015),71-80.

< ISI 登録誌以外の査読付き学術論文 >

Momma,K., Sano,T., Nagase,T., Miyawaki,R. and Matsubara,S., An okenite-like mineral from Anijima Island, Ogasawara Islands, Tokyo, Japan.[Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series C 41,(2015),1-8.

< 紀要・実験報告書等 >

- 1) 栗林貴弘, 長瀬敏郎, 井上徹, 新規に合成された Al に富む高压含水相の結晶構造解析, 共同利用・共同研究拠点「先進超高压科学研究拠点 (PRIUS)」, 愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター (GRC)2014 年度共同利用研究研究成果報告書 (2015) .

(3) 学会講演等

< 国際会議 >

Inoue,T., Kakizawa,S., Cai,N., Fujino,K., Kuribayashi,T., Nagase,T., Greaux,S., Higo,Y., Sakamoto,N. and Yurimoto,H., The stability and water solubility of possible Al-bearing high pressure hydrous and nominally anhydrous minerals in the mantle. Goldschmidt Conference, Prague, 2015. 8. 16 – 21

< 国内会議 >

- 1) 長瀬 敏郎 野崎 達生 石橋 純一郎 山田 亮一 高井 研 川口 慎介 栗林 貴弘, ウルツ鉱の組織と形成過程, 日本鉱物科学会 2016 年年会, 2015 年 9 月 25~27 日, 金沢大学.
- 2) 栗林 貴弘 青木 聡志 長瀬 敏郎, アウインの高温その場回折実験:変調構造の原因に関する考察
- 3) 中村 友梨江 栗林 貴弘 長瀬 敏郎, 奈良県天川村産イリデッセンスガーネットの結晶 構造における陽イオン秩序配列
- 4) 岡田敏朗 今井裕之 上原誠一郎 長瀬敏郎, 大分県尾平鉱山産水晶にみられる櫻構造について
- 5) 長瀬敏郎, 門馬綱一, 栗林貴弘, 宮本毅, 低温熱水における準安定相の鉱物の形成過程, 日本鉱物科学会 2015 年年会, 2015 年 9 月 25~27 日, 東京大学.
- 6) 門馬綱一, 宮脇律郎, 松原 聡, 重岡昌子, 加藤 昭, 清水正明, 長瀬敏郎, 櫻井鉱の結晶化学的再検討, 日本鉱物科学会 2015 年年会, 2015 年 9 月 25~27 日, 東京大学.
- 7) 中村友梨江, 栗 貴弘, 長瀬敏郎, カナダジェフリー鉱山産グロッシュラーガーネットの{211} 分域における陽イオン秩序配列, 日本鉱物科学会 2015 年年会, 2015 年 9 月 25~27 日, 東京大学.
- 8) 小澤優, 栗林貴弘, 長瀬敏郎, カルシウム角閃石系列の結晶構造中での陽イオン席占有について, 日本鉱物科学会 2015 年年会, 2015 年 9 月 25~27 日, 東京大学.
- 9) 川崎雅之, 長瀬敏郎, トラピッチパターン形成過程, 日本鉱物科学会 2015 年年会, 2015 年 9 月 25~27 日, 東京大学.
- 10) 門馬綱一, 宮脇律郎, 松原聡, 徳本明子, 重岡昌子, 長瀬敏郎, 鹿児島県咲花平および隼人の大隈石と共生する堇青石, 日本鉱物科学会 2015 年年会, 2015 年 9 月 25~27 日, 東京大学.
- 11) 山田亮一, 長瀬敏郎, 黒鉱タイプを決定づける鉱石組織と鉱床の産状, 資源地質学 2015 年度年会学術講演会, 2015 年 6 月 24 日 (水)~26 日 (金), 東京大学小柴ホール.
- 12) 長瀬敏郎, 山田亮一, 栗林貴弘, 五味 篤, 鹿児島県赤石鉱山鉱石の電子顕微鏡観察 ~珪化ステージと金ナノ粒子について, 資源地質学 2015 年度年会学術講演会, 2015 年 6 月 24~26 日, 東京大学小柴ホール.
- 13) 栗林貴弘, 井上 徹, 長瀬敏郎, PhaseD 構造中への Al の置換機構, 第 5 6 回高压討論会, 2015 年 11 月 10~12 日, 広島 (アステールプラザ) .
- 14) 井上 徹, 柿澤 翔, CAI Nao, 藤野 清志, 栗林 貴弘, 長瀬敏郎, GREAUX Steeve, 肥後 祐司, 阪本 直哉, 坂本 尚義, 服部 高典, 佐野 亜沙美, 高压含水鉱物の合成とそのキャラクター化, 第 5 6 回高压討論会, 2015 年 11 月 10~12 日, 広島 (アステールプラザ) .
- 15) 青木聡志, 栗林貴弘, 長瀬敏郎, 温度上昇に伴うアウインの構造変化. 地球惑星科学関連連合大会, 2015 年 5 月 24 日~28 日, 幕張.
- 16) 石川志緒利, 長瀬敏郎, 栗林貴弘, 津軽錦石の組織観察と成因について. 地球惑星科学関連連合大会, 2015 年 5 月 24 日~28 日, 幕張.
- 17) 栗林貴弘, 中村友梨江, 長瀬敏郎, 井上徹, 地球マントル中での水の挙動: シンクロトロン単結晶構造解析からのアプローチ. 東北放射光ワークショップ, 2015 年 12 月 14 日~15 日, 仙台.
- 18) 栗林貴弘, 井上徹, 長瀬敏郎, (Al, H)-bridgmanite および Al-rich phase D の精密構造解析. 第 3 回愛媛大学先進超高压科学研究拠点シンポジウム. 2016 年 2 月 23 日~24 日, 松山.

(4) 研究資金受託状況

- 1) 科学研究費基盤研究(C) (継続) 「低温熱水から生成するアモルファス・結晶中間体の構図と挙動」(研究代表者)(代表：長瀬敏郎 (東北大学))
- 2) 科学研究費基盤研究(A) (継続) 東北日本弧プレート境界面の力学特性解明を目指した実験的研究(研究分担者)(代表：長濱 裕幸 (東北大学))
- 3) 科学研究費基盤研究(B) (継続) 初期海洋環境における一次生産者の特定 (研究分担者) (代表：掛川武 (東北大学))
- 4) 高エネルギー加速器研究機構放射光共同利用研究(新規) PAC.No.2014G081 代表
- 5) 高エネルギー加速器研究機構放射光共同利用研究(継続) PAC.No.2013G127 代表

3. 大学運営, 学外委員, 社会的活動等

(1) 学内委員

- 1) 総合学術博物館運営専門委員会委員
- 2) 総合学術博物館部会委員
- 3) 理学部安全委員会委員

(2) 学外委員

- 1) 日本鉱物学科学会編集委員会委員
- 2) 日本鉱物学科学会評議委員
- 3) 日本鉱物学会行事委員
- 4) 仙台市天文台・協議会委員
- 5) 仙台市科学館・協議会委員

(3) 展示会・講演会・自然観察会等の普及活動

(4) 所属学会

日本鉱物科学会, 資源地質学会, Mineralogical Society of America

高嶋 礼詩 (准教授)

【研究分野】 地質学・層序学

【研究課題】 層序と古環境

【2015年度の研究概要】

1) 白亜系-古第三系の年代対比に関する研究

北海道・蝦夷層群, 根室層群, 音別層群において野外調査を実施し, サンプルングを行うと共に, 浮遊性有孔虫の抽出, 炭素同位体の測定 (岡山大学との共同研究), Os 同位体比の測定 (英・ダラム大学との共同研究), 凝灰岩の $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$, U-Pb 年代の測定 (仏・パリ第 11 大学, ブレーズパスカル大学, 東京大学地震研究所との共同研究) を行い, 詳細な国際年代対比と年代モデルの構築を行った.

2) 白亜系陸成層の年代対比に関する研究

岩手県久慈層群 (岡山大学との共同研究) において野外調査を実施し, 植物の炭素同位体比の変動と, 凝灰岩の U-Pb 年代から白亜紀の恐竜・哺乳類の産出する層準の年代対比を検討した.

3) 白亜紀古環境変動に関する研究

フランスボコンチアン堆積盆地に露出する白亜紀海洋無酸素事変 OAE1b, OAE2 の黒色頁岩の微化石, 化学組成, 堆積粒子, 堆積相の解析および粘土鉱物分析から, 当時の古環境の変動を検討した (北海道大学・九州大学との共同研究).

4) アパタイト微量元素組成に基づくテフクロロジーの研究

日本の第四紀火砕流 (始良, 阿蘇, 猪牟田, 洞爺, 十和田, 洞爺, 支笏, 十勝, 屈斜路カルデラ) のアパタイト微量元素組成を測定し, 各火砕流の識別と広域テフラとの対比を行った (京都大学との共同研究). また, 紀伊半島の中新世カルデラの火砕岩岩脈, 火砕流堆積物, テフラの対比もアパタイトの微量元素組成を基に行った (愛知教育大学, 奈良教育大学, 東京経済大学との共同研究).

5) コケムシの研究

日本の白亜系~新第三系からコケムシ化石を採集し, その分類学的検討を行った (北海道大学, サンクトペテロブルグ州立大学, 国立プラハ博物館, 熊本大学との共同研究).

6) ベトナムにおける古生界の層序学的研究

ベトナム・ハーザン省に露出するデボン系～三畳系の炭素同位体層序の研究を行った（熊本大学との共同研究）。

【学術論文等】

< ISI 登録誌 >

- 1) Du Vivier, A. D. C., Selby, D., Condon, D. J., Takashima, R., Nishi, H., 2015. Pacific $^{187}\text{Os}/^{188}\text{Os}$ isotope and U-Pb geochronology: Synchronicity of global Os isotope change across OAE 2. *Earth and Planetary Science Letters*, Vol. 428, 204-216. DOI: 10.1016/j.epsl.2015.07.020
- 2) Matsuzaki, K. M., Suzuki, N., Nishi, H., Hayashi, H., Gyawali, B. R., Takashima, R., Ikehara, M., 2015. Early to Middle Pleistocene paleoceanographic history of southern Japan based on radiolarian data from IODP Exp. 314/315 Sites C0001 and C0002. *Marine Micropaleontology*, Vol. 118, 17-33. DOI: 10.1016/j.marmicro.2015.05.001
- 3) Zagorsek, K., Takashima, R., Hirose, M., 2015. Palaeoenvironment of a monospecific association of a new bryozoan species, *Schizoretopenora tamagawaensis* sp. N. (Phidoloporidae, Briozoa), from the Miocene Tanosawa Formation, Northern Japan. *Neues Jahrbuch Geologie Paläontologie Abhandlungen*, vol. 275, p. 115-123. DOI: 10.1127/njgpa/2015/0456. (査読有)

< ISI 登録誌以外の査読付き学術論文 >

- 4) 北川雄貴・高嶋礼詩・伊藤康人, 2016. 北海道中央部芦別地域に分布する空知層群・蝦夷層群の古地磁気学的研究. *東北大学総合学術博物館紀要*, 15 巻. p. 109-125. (査読有)

【学会発表・講演等】

< 国際会議 >

- 1) Hiroki Matsui, Hiroshi Nishi, Reishi Takashima, Azumi Kuroyanagi, Minoru Ikehara, Hideko Takayanagi, Yasufumi Iryu. Changes of Oligocene planktic foraminiferal depth habitat in the eastern equatorial Pacific (IODP Site U1334 and U1333). AGU Fall Meeting 2015, Dec. 15 2015, San Francisco, USA.

< 国内会議 >

- 1) 高嶋礼詩・桑原里・西弘嗣. アパタイト微量元素組成を用いたテフラ・火砕流堆積物の広域対比. 日本地質学会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月 11 日.
- 2) 高嶋礼詩・桑原里・西弘嗣. 白亜紀前弧海盆堆積物におけるテフラの対比とテフロクロロジー. 日本地球惑星科学連合大会. 2015 年 5 月 24 日.
- 3) 高嶋礼詩. 白亜紀の温室気候 火成活動との関係. 日本古生物学会第 165 回例会, 2016 年 1 月 29 日.
- 4) 西弘嗣・鈴木紀毅・小安浩理・高嶋礼詩・山中寿朗. 北海道蝦夷層群における放散虫化石層序とその年代—浮遊性有孔虫・炭素同位体比・U-Pb 年代との統合—. 日本古生物学会第 165 回例会. 2016 年 1 月 30 日, 京都.
- 5) 西弘嗣・小安浩理・尾松圭太・高嶋礼詩. 白亜系蝦夷層群における浮遊性・底生有孔虫, 放散虫統合層序の樹立と古環境解析. 日本地質学会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月 11 日, 長野.
- 6) Gyawali B. R., Nishi, H., Takashima, R., Herrle, J. O. Mid-Cretaceous calcareous nannofossil biostratigraphy in the Vocontian Basin, Southeast France. 日本地質学会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月 11 日, 長野.
- 7) 安藤卓人・沢田健・中村英人・宮田遊磨・尾松圭太・高嶋礼詩・西弘嗣. 北海道蝦夷層群 Cenomanian/Turonian 境界堆積岩の有機地球化学指標に記録された海洋の酸化還元環境変動. 日本地質学会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月 11 日, 長野.
- 8) 安藤卓人・沢田健・高嶋礼詩・西弘嗣. 白亜系海洋無酸素事変層準の堆積岩中に見出されるアクリタークの起源生物と白亜紀海洋における基礎生産への寄与. 日本地質学会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月 11 日, 長野.
- 9) 有元純・高嶋礼詩・西弘嗣・條将太・山中寿朗・折橋裕二・高地吉一・山本鋼志・梅津慶太. 上部白亜系久慈層群における炭素同位体比・U-Pb 放射年代統合層序を用いた高精度年代決定. 日本地質学会第 122 年学術大会. 2015 年 9 月 11 日, 長野.
- 10) 西弘嗣・西田茉莉・尾松圭太・桑原義博・高嶋礼詩. 底生有孔虫化石と粘土鉱物組成に基づく OAE 2 期間の古環境変動. 第 1 回地球環境史学会年会, 2015 年 11 月 21 日, 東京.

- 11) 西弘嗣・條将太・有元純・高嶋礼詩・山中寿朗・折橋裕二・山本鋼志・高地吉一・梅津慶太. 炭素同位体比層序と凝灰岩の放射年代に基づく白亜系浅海—陸成堆積物の高精度年代対比. 日本地球惑星科学連合大会, 2015年5月25日, 千葉.
- 12) 浦川良太・小松俊文・高嶋礼詩・尾松圭太・西弘嗣. 日出島に分布する下部白亜系宮古層群の堆積環境と産出化石. 日本古生物学会 2015年年会, 2015年6月27日~28日. つくば.

【学術調査・渡航】

- 2015年5月15~18日: 紀伊半島の中新世火成岩類の調査 (愛知教育大学との共同研究).
- 2015年6月17~23日: 北海道の第四紀火砕流堆積物の調査
- 2015年7月11~12日: 岩手県・久慈層群の調査
- 2015年8月24~31日: 北海道・根室層群の調査 (京都大学との共同研究)
- 2015年9月28~10月2日: 熊本県・坂瀬川層群の調査
- 2015年11月15~19日: 徳島県・物部川層群の調査

【シンポジウム・研究集会の開催など】

- 1) 東北大学災害復興新生研究機構シンポジウム「共に未来へ〜東日本大震災から5年〜」において, 震災遺構3次元クラウドアーカイブ事業の展示を開催. 2016年3月8日.
- 2) 第5回日本外来小児科学会年次集会において, 震災遺構3次元クラウドアーカイブ事業の展示を実施. 2015年8月22, 23日.
- 3) MRC 2015 in Sendai (微生物学リファレンスセンター研究集会 in 仙台) を開催. 2015年8月8—10日, 仙台, 東北大学青葉山キャンパス.

【共同研究実施状況】

- 国立プラハ博物館 (チェコ) : 暁新世〜鮮新世における日本とヨーロッパのコケムシ化石群集の比較に関する共同研究.
- パリ第11大学 (仏) ・ブレーズパスカル大学 (仏) : 北海道の白亜系凝灰岩の Ar/Ar 年代に関する共同研究.
- リール第一大学 (仏) : 北海道の白亜系放散虫化石層序に関する共同研究.
- ダラム大学 (英) : 北海道の白亜系のオスミウム同位体比に関する研究.
- 岡山大学: 日本の白亜系堆積物の炭素同位体変動に関する共同研究.
- 東京大学地震研究所: 日本の白亜系の U-Pb 年代に関する共同研究.
- 熊本大学: 白亜系姫浦層群の統合層序およびベトナムのデボン紀・石炭紀境界に関する共同研究.
- 大阪府立大学: 北海道の白亜系の古地磁気に関する共同研究.
- ゲーテ大学 (独) : フランスの白亜紀石灰質ナノ化石に関する共同研究.
- 中国科学院古脊椎動物古人類研究所: 白亜紀の陸成層に記録された古環境変動に関する共同研究.

【外国人研究者受入状況】

平成28年2月16日~3月16日にかけて, 中国科学院古脊椎動物古人類研究所の海魯^{ハイル} 尤^{ヨウ}教授を学術資源研究公開センターの客員教授として招聘した.

【社会的貢献】

- 1) 小田原スタディーツアーの協力 (7月25日) 博物館の展示解説
- 2) 多賀城高校の地質野外実習の引率 (9月26~27日)

【担当講義・実験科目】

共通科目: 博物館実習 VI

専門教育: 地質調査法実習, 野外実習 I, II, 地殻岩石学実習 II, 地学実験, 「セミナー」 (分担), 課題研究

大学院教育: 地球科学特別講義 I, 「セミナー」 (分担), 課題研究

【外部資金】

基盤研究 (B) : 研究代表者, 白亜系における高解像度国際標準年代尺度とテフクロロジーの樹立 (平成27年度 直接経費 2,700,000 円, 間接経費 750,000 円)

三菱財団: 研究代表者, 白亜紀末に起こった生物大量絶滅事変時の地球環境の高精度復元. (平成27年

度 3,000,000 円)

基盤研究 (A) : 分担研究者 (代表: 西弘嗣), 北西太平洋における極限温室期の全環境復元 (平成 27 年度 100,000 円)

【学内委員】

学術資源研究公開センター運営専門委員会委員

総合学術博物館部会委員

青葉山キャンパス整備委員会委員

安全衛生委員会委員

埋蔵文化調査室運営委員会委員

【学外委員】

【所属学会】

日本地質学会, 日本岩石鉱物鉱床学会, 日本古生物学会, 日本地球惑星科学連合学会, 地球環境史学会, Geological Society of America, American Geophysical Union

小川 知幸 (助教)

【2015 年度の研究概要】

1) ヨーロッパ近世における学環の成立の研究

知の情報が狭い分野に秘匿される状態, すなわち専門家たちのコミュニティ内部にのみ発信されることを「インパブリッシュ」とよび, これが特定のコミュニティを超え, 外部へと発信されることを「アウトパブリッシュ」とよぶ. コミュニティ外部への知の普及はコミュニティそのものを社会的に強化し, その駆動力となる. つまりこのような知的エリートのコミュニティ=社会間のオープン・コミュニケーション (学環) が誕生したのは, 具体的には 15 世紀後半から 16 世紀にかけての出版界においてであったのではないかと. 本研究はこれをおもにオルテリウスの『世界の舞台』(Theatrum Orbis Terrarum) のテキストおよび図版の収集と分析によって解明することを目的とする.

2) ヨーロッパ近世における世界地域間統合システムの研究

世界の認知は 16 世紀ヨーロッパにおいて飛躍的に高まり, それは諸地域の再編をもたらした. その表現のひとつが当時の国際的地図編集出版事業であり, これは歴史・政治・文化のリ=イメージング (語り直し) でもあったといえる. 本研究では, 地図複合の改訂・増補のプロセス分析から, 政治的承認と人びとの歴史的・文化的同意を得て形成された領域である「地域」間の統合システム (ドメイン=目的を達成させる世界) をあきらかにすることを目的とする.

3) (共同研究) 世界史教育と外国史研究との連携・協働に向けた総合研究——岩手県における世界史教育の現状と課題—— (代表: 吉原秋)

【学術論文等】

1) 小川知幸 (2016), ローマにおける戦争と法について—1915 年ベルリン大学エミール・ゼッケル講演録一、東北大学附属図書館調査研究室年報第 3 号 (2016. 3), 11—28 頁.

2) 小川知幸 (2016), 附属図書館にて発見されたエルンスト・チーテルマン宛て書簡 2 通について 翻刻と解説——2 Letters for Prof. Dr. Ernst Zitelmann in 1882 and 1910, 東北大学附属図書館調査研究室年報第 3 号 (2016. 3), 1—10 頁.

3) (共著, 2016) 大学における世界史教育の現状と課題 (1) ——世界史学習に関する大学生たちの意識調査——, 岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集第 18 号 (2016. 3), 65—71 頁.

4) (共著, 2016) 世界史履修に関する短大生の意識調査、岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集第 18 号 (2016. 3), 59—64 頁.

5) (共編) 『私の山形物語 渡部治雄のあしあと』, 渡部昌子・蕃山房, 2015 年 12 月刊.

(記事)

1) アンインテンディド・ジャーニー スミソニアン自然史博物館と国連防災世界会議—震災被災地

- 発見の旅, 東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス], 東北大学総合学術博物館, No. 48 (2015. 7), 2—4 頁.
- 2) ミュージアムの種を播く(後編) 現代社会の創造的破壊の装置としてのミュージアム, 東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス], 東北大学総合学術博物館, No. 48 (2015. 7), 6—7 頁.
 - 3) (共著) 発見の楽しさがわかるワークショップを目指して, 東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス], 東北大学総合学術博物館, No. 49 (2015. 11), 6—7 頁.
 - 4) ちいさな博士の誕生～「みんなでどろんこ! 生きもの観察 in 地底の森2」を開催しました, 東北大学総合学術博物館ニュースレター Omnividens [オムニヴィデンス], 東北大学総合学術博物館, No. 50 (2016. 3), 6 頁.

【学会発表・講演等】

- 1) 小川知幸 (2016), 歴史と記憶: 画像資料の可能性と課題, ヨーロッパ構造史研究会, 於岩手県立大学アイーナキャンパス, 2016年3月29日.
- 2) 小川知幸 (2013), シンデレラの原型～ガラスの靴・灰の意味～, 於 SMMA ミュージアムユニバーズ 2015, 於せんだいメディアテーク 12月18日.

【新聞等で報道された研究成果・研究紹介】

- 1) 読売新聞 2016年1月11日朝刊 12面「ドイツの新カント派哲学者ヴィンデルバント直筆ノート」.

教育活動

【担当講義・実験科目】

- ・文学研究科兼任
- ・学芸員課程館園実習 VI 担当, 2015年9月14—18日 (学部生 21名, 大学院生 1名).

【アウトリーチ・社会活動・学外講義】

- 1) 仙台宮城ミュージアムアライアンス (SMMA) と連携した企画とイベントの実施
 1. SMMAクロスイベント: みんなでどろんこ! 生きもの観察in地底の森2, 於地底の森ミュージアム, 2015年9月26, 27日.
 2. SMMAミュージアムユニバーズ2015への出展
 在仙15館が集結する年一度の祭典に, みちのく博物楽団とともに参加.
 内容: トークとイベントの広場①「シンデレラの原型～ガラスの靴・灰の意味～」, ②「ミュージアムのおきのおきの話うごく編」, 体験の広場「生きもののおしぎにふれてみよう」(うみの杜水族館・八木山動物公園とのコラボ), 展示の広場「みちのく博物楽団の取り組み」他
 会場: せんだいメディアテーク 1Fオープンスクエア
 期間: 2015年12月18, 19日 (来場者数: 2,548名)
 3. SMMA広報資料 (ウェブ, イベントカレンダー, ポスター, 「旬の見験楽学便」春号・冬号等) 作成協力, 2015年3月～.
- 2) 東北大学総合学術博物館ニュースレターOmnividens [オムニヴィデンス]編集発行 (No. 48, 49, 50).
- 3) NPO 法人 natural science 「サイエンス・デイ 2015」との連携, 2015年7月19日.
- 4) 東北大学附属図書館と連携した活動
 1. 東北大学附属図書館協力研究員に対する指導・助言, 2015年4月～.
 2. 附属図書館洋書古典係コンシェルジュに対する指導, 2016年3月.
 3. 附属図書館で発見されたドイツ新カント派哲学者 W. Windelband の直筆ノート鑑定助言, 2015年5—12月.
 4. 附属図書館貴重図書等委員会委員, 2015年4月～.
 5. ミュンスターベルク文庫の照会, 調査にかかる業務, 2015年4月～.
 6. 漱石文庫修復助言, 2015年5月～.
 7. 『図書館人物事典』(仮)人名録 (パニッツィ, エドワーズ, ユーアート) 執筆, 2015年6月.

8. 附属図書館企画展「狩野文庫の世界」展示資料解題監修, 2015年10月.
 9. 「附属図書館より発見された2通の書簡」(東北大学附属図書館調査研究室年報第3号)執筆, 2016年3月発行.
 10. 附属図書館企画展「漱石没後100年」展示資料解題監修, 2016年3月.
- 5) 学外講義
1. 第35回社会科学古典資料講習会講師, 於一橋大学社会科学古典資料センター, 2015年11月18日~20日.

【外部資金】

- 1) 科学研究費補助金・基盤研究(C)(研究課題名: ヨーロッパ近世における地域間統合システムの研究(代表: 小川知幸) 課題番号15K02928(平成27~29年度))
- 2) 岩手県立大学学部等研究費(研究課題名: 「世界史教育と外国史研究との連携・協働に向けた総合研究—岩手県における世界史教育の現状と課題—」(代表: 吉原秋))

【学内委員】

- 1) 附属図書館協力研究員
- 2) 附属図書館貴重図書等選定委員会委員
- 3) 附属図書館古典資料等修復保存小委員会委員
- 4) 総合学術博物館部会委員
- 5) 仙台北三番丁教会九十年史執筆協力
- 6) 西洋史研究会会計監査役

【学外委員】

- 1) SMMA(仙台宮城ミュージアムアライアンス) 運営会議メンバー
- 2) 「私の山形物語」出版委員会委員

【所属学会】

日本西洋史学会, 西洋史研究会, 博物科学会, ヨーロッパ構造史研究会

黒柳 あずみ (助教)

【研究分野】 古海洋学・微古生物学

【研究課題】 微化石を用いた古海洋環境の精密解析

【2015年度の研究概要】

- 1) 硫化水素濃度を制御した浮遊性有孔虫飼育実験
硫化水素存在下での浮遊性有孔虫の飼育実験を世界で初めて試み, 飼育海水中の硫化水素濃度をほぼ一定の値に保ちながら, 浮遊性有孔虫を飼育する技術を開発した.
- 2) 白亜紀OAE期近傍の浮遊性有孔虫絶滅進化
これまでの溶存酸素制御飼育実験で得られた結果を用いて, 先行研究およびモデリング結果と, 独自にコンパイルした絶滅・進化率と検討した.

【学術論文等】

< ISI 登録誌 >

- 1) Yoshimura, T., Tamenori, Y., Takahashi, O., Nguyen, L.T., Hasegawa, H., Iwasaki, N., Kuroyanagi, A., Suzuki, A., Kawahata, H. (2015) Mg coordination in biogenic carbonates constrained by theoretical and experimental XANES. *Earth and Planetary Science Letters*, 421, 68-74. DOI: 10.1016/j.epsl.2015.03.048

【学会発表・講演等】

< 国際会議 >

- 2) Hiroki Matsui, Hiroshi Nishi, Reishi Takashima, Azumi Kuroyanagi, Minoru Ikehara, Hideko Takayanagi, Yasufumi Iryu. Changes of Oligocene planktic foraminiferal depth habitat in the eastern

equatorial Pacific (IODP Site U1334 and U1333). AGU Fall Meeting 2015, Dec. 15 2015, San Francisco, USA.

<国内会議>

- 3) 松井浩紀, 西弘嗣, 高嶋礼詩, 黒柳あずみ, 池原実, 高柳栄子, 井龍康文. 東赤道太平洋域の温度躍層深化に伴う漸新世の浮遊性有孔虫生息深度変化. 日本地球惑星科学連合 2016 年大会, 2016 年 5 月 24 日, 幕張.
- 4) 松井浩紀, 西弘嗣, 高嶋礼詩, 黒柳あずみ, 品田拓真. 北大西洋域における前期漸新世から前期中新世の浮遊性有孔虫生層序および群集変化 (IODP Exp. 342). 日本古生物学会第 165 回例会, 016 年 1 月 30 日, 京都.
- 5) 松井浩紀, 西弘嗣, 高嶋礼詩, 黒柳あずみ. 漸新世の浮遊性有孔虫に基づく東赤道太平洋域の温度躍層深度および湧昇流強度. 微古生物学リファレンスセンター研究集会 2015, 2015 年 8 月 10 日, 仙台.

【シンポジウム・研究集会の開催など】

2015 年 8 月 6—8 日: J-DESC (日本地球掘削科学コンソーシアム) コアスクール・第 9 回微化石コース/第 12 回微化石サマースクール (底生有孔虫) を開催 (J-DESC, 総合学術博物館, 理学部地圏環境科学科との共催).

2015 年 8 月 8—10 日: MRC 2015 in Sendai (微古生物学リファレンスセンター研究集会 in 仙台) を開催 (理学部地圏環境科学科, 東北大学総合学術博物館, MRC との共催).

【共同研究実施状況】

海洋技術研究機構: 硫化水素存在下における浮遊性有孔虫挙動に関する共同研究.

東京大学大気海洋研究所: 下北沖堆積物コアを用いた古環境変遷, 浮遊性有孔虫殻の Na 解析, 白亜紀海洋無酸素事変時の海洋環境モデリング, サンゴ礁棲大型底棲有孔虫に関する共同研究.

産業技術総合研究所: サンゴ礁棲大型底棲有孔虫の同位体に関する共同研究.

Foraminifera census project (FORCIS) (代表者: Thibault de Garidel-Thoron, CEREGE (仏)): 浮遊性有孔虫の多様度に関する共同研究.

【アウトリーチ】

2015 年 6 月 10 日: 宮城県山元町合戦原遺跡の線刻横穴墓の地質調査および 3D 撮影に協力.

2015 年 7 月 22 日: NPO 法人ミクロネシア振興協会招へいプログラム・ミクロネシア高校生および日本国際協力センター職員へ博物館展示案内を実施.

2015 年 7 月 25 日: 小田原スタディーツアーに協力.

2015 年 8 月 22 日: 日本小児科学会での震災記録 MR の展示・解説に協力.

2015 年 9 月 29 日: 登米市立米川小学校 6 年生へ博物館所蔵標本を使用した解説及び展示説明を実施.

2015 年 10 月 16 日: 文科省職員へ博物館展示案内を実施.

2015 年 11 月 3 日: 奈良美智講演会 in 東北大学「記憶の中のカタチ～豊かさと貧しさ」の運営に協力.

2016 年 1 月 21—22 日: 宮城教育大学授業での展示解説を実施.

2016 年 3 月 8 日: 震災シンポジウム (萩ホール) で MR 展示.

【担当講義・実験科目】

全学教育科目: 自然科学総合実験 (前期)

専門教育科目: 博物館実習 VI, セミナー, 地圏進化学特別セミナー, 課題研究

【外部資金】

住友財団 環境研究助成: 研究代表者, 海洋温暖化に伴う貧酸素環境が炭酸塩殻プランクトンに与える影響の評価 (平成 27 年度~28 年度, 250 万円)

【学外委員】

J-DESC (日本地球掘削科学コンソーシアム) 執行部委員

【所属学会】

日本古生物学会, 日本地質学会, 日本地球惑星科学連合学会, American Geophysical Union

永広昌之 (協力研究員)

【研究分野】

地質学・古生物学

【研究課題】

北上山地を中心とする東アジアの先新第三紀構造発達史の研究

【2015 年度の研究概要】

北上山地の基盤の形成を中心とする前期~中期古生代構造発達史の研究として, 南部北上帯西縁部の基盤の形成年代について検討した。また, 南部北上帯の古生代~中生代の構造発達史や古地理研究の一環として, ペルム紀および三畳紀の古生物相や古生物地理について, とくに下部三畳系大沢層を中心に研究を進めた。付加体の層序や対比の検討も行った。

【学術論文等】

< ISI 登録誌 >

- 1) Isozaki, Y., Ehiro, M., Nakahata, H., Aoki, K., Sakata, S & Hirata, T. 2015. Cambrian plutonism in Northeast Japan and its significance for the earliest arc-trench system of proto-Japan: new U-Pb zircon ages of the oldest granitoids in the Kitakami and Ou Mountains. *Journal of Asian Earth Sciences*, vol. 108, 136–149.
- 2) Ehiro, M., Sasaki, O., Kano, H., Nemoto, J. and Kato, H., 2015, Thylacocephala (Arthropoda) from the Lower Triassic in the South Kitakami Belt, Northeast Japan. *Paleontological Research*, vol. 19, no. 4, p. 269–282.

< ISI 登録誌以外の査読付き学術論文 >

- 1) Ehiro, M., 2015, Extraordinarily large Permian nautiloid *Tainoceras* from the Kamiyasse–Imo area, South Kitakami Belt, Northeast Japan. *Earth Science (Chikyu Kagaku)*, vol. 69, p. 303–310.

< 査読なし論文 >

< プロシーディング・紀要報告 >

- 1) Niko, S., Ehiro, M., Nishikawa, O. and Nishikawa, I., 2015, Early Permian (Asselian) orthoconic cephalopods from the Taishaku Limestone Group, Akiyoshi Belt, Southwest Japan. *Bulletin of the Tohoku University Museum*, no. 14, p. 1–4.

< 書評・総説類 >

< 著書 >

< 調査報告書 >

- 1) 永広昌之, 2015, 附章 4 多賀城市八幡地区供養碑調査結果報告書. 多賀城市教育委員会 (編), 多賀城市文化財調査報告書第 123 集, 多賀城市の歴史遺産 八幡村(2), 24–29.
- 2) 相馬市史編纂委員会編, 2015, 相馬市史自然編 第 1 章 地形・地質・気候 (永広昌之, 第 1 節 地形・地質, 2. 地質 (1) 古生代, p. 22–27; 永広昌之, (2) 中生代, 4) 白亜紀火成岩類, 42–47; 永広昌之, (4) 地質構造, p. 70–79; 永広昌之・竹谷陽二郎, 3. 自然史, (1) 大地の基盤の形成と発展, p. 113–125 を分担執筆) .

【学会発表・講演等】

< 国際会議 >

<国内会議>

- 1) 永広昌之・佐々木理・鹿納晴尚・根本潤・加藤久佳, 2015, 南部北上帯下部三畳系産 *Thylacocephala*(囊頭類):わが国からの初産出とその意義. 日本地質学会第122年学術大会(信州大学, 2015年9月11-13日).
- 2) 斎 宏行・下向武文・熊谷・永広昌之・大石雅之・橋本智雄・伊藤太久, 2015, 三陸ジオパークにおける教育普及活動の紹介. 日本地質学会第122年学術大会(信州大学, 2015年9月11-13日).

【新聞等で報道された研究成果・研究紹介】

- 1) 南三陸町の下部三畳系から国内初の囊頭類の発見 (2015年9月:新聞各紙, テレビ各局)

【アウトリーチ】

講演等

- 1) 三陸ジオパーク・ガイド認定講座勉強会・現地観察会(豊間根川のジュラ紀付加体の覆瓦状構造)(岩手県山田町 2015/11/1).

授業等

- 1) 仙台市特別講師(仙台市理科特別授業)(2015年度:仙台市立東仙台小学校, 旭丘小学校, 幸町小学校, 上愛子小学校, 桂小学校, 北中山小学校)
- 2) 宮城県向山高等学校地学野外実習講師(授業・野外実習:仙台市泉区根白石)(2015年11月)

【学外委員】

- 1) 日本地質学会理事
- 2) 日本地質学会125周年記念事業実行委員会委員
- 3) 仙台市教育委員会委員
- 4) 宮城県自然環境保全審議会委員(温泉部会委員)
- 5) 福島県教育委員会文化財保護審議会委員
- 6) 宮城県教育委員会文化財保護審議会委員

【所属学会】

- 2) 日本地質学会, 日本古生物学会, 地学団体研究会

2. 史料館

永田 英明 (准教授)

1. 教育活動

- (1) 東北大学での教育活動
(全学教育)

- 1) カレントトピックス科目「東北大学のひとびと」(第2 Semester) 授業担当(分担)

- (2) 他大学等での教育活動

- 1) 放送大学客員准教授
宮城学習センターにおける学習相談等

- (3) 研修会・公開講演会等の講師

- 1) 東北大学初任者オリエンテーション「東北大学の歴史」講義, 2015年4月1日および10月1日, 東北大学
- 2) 東北大学公文書管理研修「公文書管理法制と法人文書・歴史公文書」講義, 2016年3月10日

2. 研究活動

- (1) 研究概要

- 1) 大学アーカイブズの研究
東北大学の歴史的公文書等を素材に, 大学におけるアーカイブズの特色や, その適切な保存・

公開のあり方について研究している。

2) 古代交通制度と政治支配との関係についての研究

古代の駅馬・伝馬制度や関所の制度を題材に、日本の古代国家がどのような交通・通信システムによって日本の国土支配を実現していたのかを研究している。

3) 古代国家の地方・地域支配に関する研究

交通施設を含む、古代の地方行政組織や施設が地域に住む人々をどのように編成することで維持され、それが地域にどのような影響を与えていたのかについて研究している。

(2) 学術論文等

(著書)

1) 熊谷公男編『東北の古代史3 蝦夷と城柵の時代』吉川弘文館,2015年10月、(熊谷公男、永田英明、菅原祥夫、宇部保則、村田晃一、吉野武と共著)

(論文)

1) 「古代東北の軍事と交通ー城柵をめぐる交通関係」 舘野和己・出田和久編『日本古代の交通・交流・情報1 制度と実態』,2016年1月,206-232

2) 「出羽国の東山道移管と陸奥按察使」『日本歴史』811,2015年12月,1-18

3) 「古代陸奥国海道・山道考」『国史談話会雑誌』56,2015年11月,61-78

4) 「国立大学法人と公文書管理法ー東北大学の事例からー」『全国歴史資料保存利用機関連絡協議会関東部会会報 アーキビスト』,84,2015年10月,16-20

5) 「古代東北の内陸水運ー最上川・阿武隈川流域を中心にー」鈴木靖民・川尻秋生・鐘江宏之編『日本古代の運河と水上交通』(八木書店),2015年6月

(3) 研究報告

1) 「東北帝国大学の学徒勤労働員」第3回大学アーカイブズセミナー、2015年7月22日、東北大学史料館

2) 「黒田チカ資料の整理ー真島利行書簡を中心に」第4回大学アーカイブズセミナー、2016年3月11日、東北大学史料館

(4) 講演等

1) 仙台市文化財課 第63回文化財展講演会「陸奥国分寺と貞観震災」2015年11月15日、仙台メディアテーク

(5) 研究資金受託状況

1) 「黒田チカの生涯」(研究代表者黒田光太郎), 基盤研究(C), 2014-2016年度, 600,000円

2) 「帝国大学における研究者の知的基盤に関する基礎的研究」(研究代表者吉葉恭行), 基盤研究(C), 2013-2015年度, 300,000円

3. 大学運営, 学外委員, 社会的活動等

(1) 学内委員

1) 学術資源研究公開センター運営専門委員会 委員

2) 学術資源研究公開センター運営専門委員会史料館部会 委員

3) 東北大学公文書管理委員会 委員

(2) 学外委員

1) NPO 法人・宮城歴史資料保全ネットワーク 監事

2) 山形県大石田町教育委員会 駒籠楯跡指導検討委員

3) 宮城歴史科学研究会 委員

4) 東北史学会 評議員

5) 岩沼市史 通史専門部会委員

(3) 所属学会

日本アーカイブズ学会, 大学史研究会, 日本史研究会, 史学会, 歴史科学者協議会, 東北史学会,

曾根原 理（助教）

1. 教育活動

（1）東北大学での教育活動

- 1) 全学教育：カレントトピックス科目群「東北大学のひとびと」（第2 semester）授業担当（分担）
- 2) 高等教養教育・学生支援機構・外国人留学生等特別課程 PH5（第1 semester）授業担当

（2）他大学等での教育活動

- 1) 東北薬科大学薬学部講師（非常勤）「文章の表現Ⅰ・Ⅱ」（前期・後期）担当

2. 研究活動

（1）研究概要

- 1) 日本近世において宗教秩序の頂点にたった東照宮を対象とし，①近世社会における権威やコスモロジー，②それに深く関わる仏教や神道その他の教義・思想の研究を行い、海外の学会等で口頭発表を行った。
- 2) 近世思想形成の前提となる中世の論義・談義の研究のため，日本各地の史料保存機関において，現地調査を実施した（科研費使用）．あわせて東北大学所蔵の古典資料（文書，典籍，聖教類など）の整理と調査を進めた。
- 3) 東北大学の歴史に関わった研究者や課外活動について，史料の整理や分析を進め，成果報告も実施した。

（2）学術論文等

（論文等）

- 1) 曾根原 理，宗教と信仰，高橋充編『東北近世の胎動』吉川弘文館，2016年3月，pp.167-192.
- 2) 曾根原 理，ローマ五輪の東北大学エイトをめぐる一記念行事と関連記事の紹介，東北大学史料館紀要 11，2016年3月，pp.15-31.

（その他）

- 1) 曾根原 理，大明神と大権現，小和田哲男監修『徳川家康』〈別冊太陽 228〉平凡社，2015年4月，pp.130-131.
- 2) 曾根原 理，〈書評と紹介〉東叡山寛永寺監修/宇高良哲・中川仁喜編『南光坊天海発給文書集』，日本歴史 807，2015年8月，pp.98-100.
- 3) 小幡 圭祐・曾根原 理・永田 英明，展示記録 東北大生の戦争体験，東北大学史料館紀要 11，2016年3月，pp.51-92.
- 4) 曾根原 理，狩野文庫所蔵『天体靈魂図説』について，東北大学附属図書館調査研究室年報 3，2016年3月，pp.133-136.

（3）学会報告等

- 1) 曾根原 理，狩野旧蔵書の東北大学受け入れをめぐる「狩野亨吉の書物」研究会，2015年11月3日，東京大学；東京.
- 2) 曾根原 理，鹿児島東照宮の成立，中世の会，2016年3月31日，東北大学；仙台.

（4）国際研究集会への参加，海外渡航

- 1) 研究集会開催・発表および見学：2015年5月26日~6月5日，ドイツ・スイス・フランス．
Sonehara Satoshi. Edo-period Development of Shotoku Taishi Legends（聖徳太子伝説の近世的展開），Joint Workshop “Combinatory Religious Practices in Japanese History”，May 29th 2015；Heidelberg, Germany.
- 2) 学術交流と史跡調査：慶熙大学校訪問と江華島史跡調査，2015年6月12-15日，水原など；韓国
- 3) 史料調査：ローマ市立カピトリノ文書館 Archivio Storico Capitorino，2015年7月31日，ローマ；イタリア
- 4) 学会発表：Sonehara Satoshi. The Lineage of the Sanno Deity（山王神の系譜），International Association

History of Religious Quinquennial 21th World Congress. August 28th 2015 ; Erfurt, Germany.

- 5) 文書館見学および史料調査 : National Archives, Library of Congress ほか, 2015 年 9 月 17~25 日, ワシントン D.C. など ; 米国
- 6) 学会発表 : Sonehara Satoshi. “Early modern Japanese Buddhism and the Taiseikyō (日本近世仏教と『大成経』)”, Multidisciplinary Workshop “Rethinking the Textual Approach to Buddhist Studies: Issues and Methodologies (資料に導かれる仏教研究; 問題提起と方法論)”. November 15th 2015 ; Santa Barbara, USA.
- 7) 史料調査 : 国史館、宜蘭設治記念館, 2015 年 11 月 27~30 日, 台北および宜蘭 ; 中華民国.
- 8) 学術交流 : プリンストン大学訪問など, 2016 年 2 月 24~28 日, ニューヨークおよびプリンストン ; 米国

(4) 研究資金受託状況

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C), 日本近世の神仏習合とその展開 (代表 : 曾根原 理), 27 年度 1500 千円 (直接経費)
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (A), 多分野複合の視角から見た日本仏教の国際的研究 (代表 : 大久保良峻), 27 年度配分 330 千円 (直接経費)
- 3) 科学研究費, 基盤研究 (A), 「書物・出版と社会変容」研究の深化と一般化のために (代表 : 若尾政希), 27 年度配分 100 千円 (直接経費)
- 4) 曾根原理, 成菩提院所蔵近世史料の研究資源化 (代表), 2015 年度東京大学史料編纂所一般共同研究, 50 万円.

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動等

(1) 学内委員

- 1) 附属図書館・貴重図書等選定委員会委員
- 2) 附属図書館・協力研究員
- 3) 学術資源研究公開センター・運営専門委員会史料館部会委員
- 4) 東北アジア研究センタープロジェクト研究部門プロジェクト研究ユニット評価委員

(2) 学外委員

- 1) 日本仏教総合研究学会・理事
- 2) 日本山岳修験学会・理事 (編集委員)
- 3) 日本思想史学会・評議員 (編集委員)
- 4) 日本文芸研究会・委員
- 5) 仏教文学会 委員

(3) 所属学会

神道宗教学会・中世文学会・天台学会・東北史学会・日本アーカイヴズ学会・日本古文書学会・日本山岳修験学会・日本史研究会・日本思想史学会・日本仏教総合研究学会・日本文芸研究会・仏教史学会・仏教文学会

(4) 講演会など

- 1) 曾根原 理, 徳川家康の年忌行事一家光期を中心に一, いしぶみ会, 2015 年 6 月 6 日, 仙台市中央市民センター ; 仙台.
- 2) 曾根原 理, 狩野亨吉と東北大学, 生誕 150 周年記念「狩野文庫の世界」企画展記念講演会, 2015 年 10 月 24 日, 東北大学附属図書館 ; 仙台.
- 3) 曾根原 理, 狩野亨吉と東北大学, 東北大学附属図書館職員総合研修会講演, 2016 年 2 月 4 日, 東北大学附属図書館 ; 仙台.

大原 理恵 (助教)

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

2. 研究活動

(1) 研究の概要

- 1) 日本古典文学の研究. 特に平安時代物語を中心とする.
- 2) 和漢書古典籍に関する研究.

(2) 学術論文等

- 1) 大原理恵「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（四）－平成8年4月別置本目録増改訂プロジェクト設置以前－」東北大学史料館紀要 11 東北大学史料館 2016年3月 33-49頁
- 2) 大原理恵「公平本（金平本）について：和漢書貴重図書目録の周辺」東北大学附属図書館調査研究室年報 3 東北大学附属図書館 2016年3月 29-36頁

3. 大学運営，学会運営，社会的活動等

(1) 学内委員

附属図書館貴重図書等委員会委員

(2) 所属学会

中古文学会

3. 植物園

牧 雅之（教授）

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

(全学教育)

「生命科学概論」 第1 Semester 2単位

(理学部)

「植物系統進化学」 第4 Semester 2単位

「植物系統分類学実習」集中講義 1単位

「生物学へのアプローチ」 第2 Semester 1単位の1/12 (1回)

「進化学実習」 第5 Semester 2単位のうち, 5回

「生物学演習」 第6 Semester 2単位のうち1/2 (5回)

(生命科学研究科)

「生態システム生命科学特論」 2単位のうち1/11 (1回)

「生態学合同講義」 1回

「植物系統分類学特論」 2単位

(2) 学生指導

生命科学研究科博士前期課程 (修士)

(論文審査委員：主査)

喜屋武隆太：溪流沿い植物アオヤギバナの起源に関する系統地理学的研究

齋藤雄介：日本と韓国に共通して分布する植物種の地理的遺伝分化～その足跡をたどって～

2. 研究活動

(1) 研究概要

科学研究費補助金（基盤研究（B））「外来侵入植物による遺伝的汚染—ギンギン属在来主の危機的実態の解明」に基づき、在来種のギンギン属植物と外来種との交雑の現状を国内広くにわたって解析を行った。また、科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「外来種による遺伝的攪乱—侵入後の経過を植物標本から探る」を遂行するために、外来種と在来種の交雑が起きている可能性のある集団で野外サンプリングを行い、遺伝的解析を行った。そのほか、島嶼における植物の遺伝的分化、高山植物における適応的遺伝子の検出、溪流沿い植物の遺伝的分化と起源に関する研究、交雑帯における集団遺伝学的解析、亜高山帯植物の系統地理学的研究、菌と植物の共生に関する研究などを進めた。

(2) 学術論文等

1) 発表論文

Sakamoto, Y., Yokoyama, J. and Maki, M. 2015. Mycorrhizal fungal diversifications in mixotrophic orchid *Cephalanthera longibracteata*: is mixotrophy a transitional stage from autotrophy to myco-heterotrophy? *Mycoscience* 56: 183-189.

Li, Y., Itoi, T., Takahashi, H. and Maki, M. 2015. Morphological and genetic variations in the populations of a hybrid zone between *Leucospectrum jaopnicum* and *L. stellipilium* in the west Japanese mainland. *Plant Systematics and Evolution* 301: 1029-1041.

Li, Y. and Maki, M. 2015. Variation in the frequency and extent of hybridization between *Leucosceptum japonicum* and *L. stellipilium* (Lamiaceae) in the central Japanese mainland. *PLoS ONE* 10: e0116411.

Lee, S.-R. and Maki, M. 2015. Origins of *Hosta* cultivars based on sequence variations in chloroplast DNA. *Horticulture Journal* 84: 350-354.

Li, Y., Iijima, S. and Maki, M. 2015. Development and characterization of microsatellite markers for *Veratrum maackii* (Melanthiaceae). *Application in Plant Sciences* 3: 1500030.

藤井伸二・小林真吾・牧 雅之. 2015. 愛媛県伊予三島産のハマネナシカズラ標本を見いだす. エヒメアヤマ (愛媛植物研究会誌) 46: 13-14.

(2) 学会講演

五十島賢太・辻田有紀・今市涼子・樋口正信・牧雅之. 2015. ナンジャモンジャゴケに感染する共生菌相の解明. 植物学会第 79 回大会. 新潟. ポスター発表.

木村拓真・阪口翔太・伊藤元巳・永野淳・工藤洋・牧雅之. 2015. 標高勾配に沿って生育するアキノキリンソウ (広義) の遺伝的分化と分布変遷について. 植物学会第 79 回大会. 新潟. ポスター発表.

喜屋武隆太・山城考・藤井伸二・阪口翔太・伊藤元巳・永野淳・工藤洋・牧雅之. アオヤギバナの起源と種内遺伝的分化. 植物学会第 79 回大会. 新潟. ポスター発表.

荻嶋美帆・堂園いくみ・星野佑介・山城考・堀江佐知子・牧雅之. 2016. タカクマヒキオコシとサンインヒキオコシの交雑帯における遺伝的・形態的変異の解析. 植物分類学会第 15 回大会. 富山. 口頭発表.

喜屋武隆太・山城考・藤井伸二・阪口翔太・伊藤元巳・永野淳・工藤洋・牧雅之. アオヤギバナの起源に関する系統地理学的研究. 植物分類学会第 15 回大会. 富山. 口頭発表.

齋藤雄介・藤井伸二・牧雅之. 2016. 日本と韓国におけるツリフネソウの地理的分化. 植物分類学会第 15 回大会. 富山. 口頭発表.

木村拓真・牧雅之. 2016. 日本列島における広義エゾカワラナデシコの緯度・標高間の遺伝的変異. 植物分類学会第 15 回大会. 富山. ポスター発表.

早坂俊亮・菊地諒・牧雅之. 2016. 山地性大型草本コバイケイソウの国内における遺伝的分化と遺伝

的多様性. 植物分類学会第15回大会. 富山. ポスター発表

(3) 研究資金受託状況

H24～27年 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))「外来侵入植物による遺伝的汚染-ギンギン属在来主の危機的実態の解明」代表 2,340,000円(直接経費1,800,000円、間接経費540,000円)

H27～28年 日本学術振興会科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究)「外来種による遺伝的攪乱-侵入後の経過を植物標本から探る」代表 2,340,000円(直接経費1,800,000円、間接経費540,000円)

H26～29年 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B))「水生植物アサザを用いた科学的リファレンス像の構築に関する研究」研究分担者(代表者 藤井伸二人間環境大学准教授) 819,000円(直接経費630,000円、間接経費189,000円)

H26～28年 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))「繁殖干渉による形質置換がもたらす植物の生態分化」研究分担者(代表者 堂園いくみ東京学芸大学准教授) 390,000円(直接経費300,000円、間接経費90,000円)

H24～28年 文部科学省創生プログラム 「生態系生物多様性に関する気候変動リスク情報の創出」研究分担者(代表者 中静透東北大学教授) 1,650,000円(直接経費1,500,000円、間接経費150,000円)

H27～29年 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))「性特異的マーカーの伝達に着目した雄性両全異株性の維持機構」研究分担者(代表者 三宅崇岐阜大学教育学部准教授) 520,000円(直接経費400,000円、間接経費120,000円)

研究助成金

H27 新技術開発財団植物研究助成「津波被災地における絶滅危惧植物種の集団維持・回復・保全に関する研究」 1,500,000円(直接経費 1,500,000円)

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動等

(1) 学内委員

総合技術部運営委員会委員

(2) 学外委員

1) 植物園協会植物多様性保全委員会委員

2) Population Ecology, Editor

(3) 所属学会, 学会運営など

1) (社) 日本植物学会会員

2) 日本植物分類学会会員

3) 種生物学会会員

4) 日本生態学会会員

5) 植物地理・分類学会会員

6) Botanical Society of America 会員

7) International Association for Plant Taxonomy 会員

8) American Society of Plant Taxonomists 会員

大山 幹成 (助教)

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

(全学)

「自然科学総合実験」 第2セメスター 2単位の1単位 (6回)

「博物館実習 IV」 集中講義 1単位

(理学部)

「植物系統分類学実習」集中講義 1単位

「生物学演習」 第6セメスター 2単位のうち1/2 (5回)

2. 研究活動

(1) 研究概要

樹木は、周囲の環境の影響を受け年々広狭の年輪を形成する。この性質を利用し、年代測定および古環境の復元などの研究を行う分野が年輪年代学である。東日本においては、この分野の研究及び年輪データの蓄積は不十分な状態にあり、当該地域における木質文化財の年代測定、木材産地推定および古気候復元の基礎データとするため、スギ、ヒバなどを中心とした標準年輪曲線（標準的な年輪幅変動パターン）の構築および古気候復元の研究を進めている。また、今年度は科学研究費「年輪幅・年輪同位体比・DNA マーカーを用いた新たな木材産地推定法の検討」により、年輪幅に加えて、近年乾湿の指標として注目が集まっている酸素安定同位体比を用いたアスナロの標準年輪曲線構築を進めた。今年度、主に進めた研究は以下の通りである。

- ・三重県の中世遺跡から出土した曲物の年輪計測を実施し、同地方における中世の年輪幅標準年輪曲線構築に着手した。

- ・ヒバ分布北限域における近世～明治期の年輪幅データ収集と古建築の年代測定を目的として、昨年に引き続き、函館市・旧相馬邸、江差町・旧中村家住宅の調査を実施した。この調査により、両建造物の使用木材について木材組織学に基づく知見を得ると共に、旧相馬邸については、年輪年代測定を実施し、建築年代に関する情報を得ることができた。

- ・東北地方北部の現生ヒバ試料の安定同位体比を測定し、複数個体間での高い同調性が認められることを確認した。

(2) 学術論文等

1) 発表論文

Tei, S., Yonenobu, H., Suzuki, S., Ohyama, M., Gotanda, K., Nakagawa, T., Sugimoto, A.: Reconstructed July temperatures since AD 1800, based on a tree-ring chronology network in the Northwest Pacific region, and implied large-scale atmospheric-oceanic interaction. *Palaeogeography Palaeoclimatology Palaeoecology*, 435, 203-209, 2015, DOI: 10.1016/j.palaeo.2015.06.012. (査読有)

2) その他

大山幹成・津久井孝博. 2015. 天然記念物「青葉山」における樹木管理方法. *樹木医学研究* 19: 155-158 (査読無)

大山幹成. 2015. 多賀城市八幡沖遺跡第9次調査出土木材の樹種同定, 八幡沖遺跡第9次調査—災害

公営住宅多賀城市宮内地区整備に係わる埋蔵文化財発掘調査一，多賀城市文化財調査報告書第125集，多賀城市教育委員会，43-44. (査読無)

(3) 学会講演

藤井裕之，大山幹成：江差町旧中村家住宅の年輪調査一明治期に北海道へ渡ったツガの産地一，日本文化財科学会第32回大会，東京学芸大学（小金井市），2015.7.11-12. (ポスター発表)

鈴木伸哉，大山幹成，星野安治：X線CTを用いた東北地方民家所蔵漆器の非破壊年輪計測と産地推定，日本文化財科学会第32回大会，東京学芸大学（小金井市），2015.7.11-12. (ポスター発表)

Sakashita, W., Miyahara, H., Yokoyama, Y., Nakatsuka, T., Aze, T., Hoshino, Y., Ohyama, M., Yonenobu, H., Takemura, K.: A humid climate in central Japan at the end of the Little Ice Age, 第138回地球電磁気・地球惑星圏学会(2015年秋学会)，東京大学（東京），2015.11.3. (口頭発表)

大山幹成，藤井裕之：年輪年代測定に基づく函館市・旧相馬邸の建築年代の推定，第66回日本木材学会大会，名古屋大学（名古屋），2015.3.27., (口頭発表)

工藤佳世，大山幹成，栗本康司，高田克彦：鳥海山体崩壊による埋没木の組織観察と樹種識別，第66回日本木材学会大会，名古屋大学（名古屋），2015.3.28., (ポスター発表)

大山幹成，米延仁志：年輪年代学的視点に基づく材鑑標本の試料調査および年輪データベースの構築，第304回生存圏シンポジウム 生存圏データベース（材鑑調査室）全国共同利用研究報告会，宇治，2016.2.23. (口頭発表).

(4) シンポジウム・講師など

大山幹成：鳥海山埋没スギの年輪年代学的解析，日本木材学会木質文化財研究会 平成27年度第1回定例研究会，象潟，2015.10.2, (口頭発表，招待講演)

(5) フィールド調査

- ・2015年4月6日 山形大学博物館にて、鳥海山神代杉の年輪調査を行った。
- ・5月26日～6月13日にかけて、エジプト・大エジプト博物館保存修復センターに於いて、第3回木材修復研修（JICA 大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）プロジェクト）を実施した。
- ・6月25日 多賀城市埋蔵文化財センターにて、八幡沖遺跡の出土材調査を行った。
- ・8月18日～19日 沖縄県立博物館にて、円覚寺仁王像残欠材の樹種同定調査を行った。
- ・9月10日 象潟市にて鳥海山埋没木の年輪調査、樹種調査調査を行った。
- ・10月12日～10月29日にかけて、エジプト・大エジプト博物館保存修復センターに於いて、第4回木材修復研修（JICA 大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）プロジェクト）を実施した。
- ・11月9日～11日、函館市旧相馬邸に於いて年輪年代試料調査を行った。
- ・11月25日～11月28日 根室市春国岱において、年輪試料採取を行った。
- ・2016年3月1日～3月8日にかけて、中国・浙江省田螺山遺跡にて、出土木材の樹種調査を行った。

(5) 研究資金受託状況

H25～27年 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B））「年輪幅・年輪同位体比・DNAマーカーを用いた新たな木材産地推定法の検討」代表者 3,380,000円（直接経費 2,600,000円、間接経費 780,000円）

H 2 7 日本学術振興会科学研究費補助金（新学術領域）「古代アメリカ文明の高精度編年体系の確立と環境史復元」研究分担(代表者 鳴門教育大学准教授 米延 仁志) 4,420,000 円（直接経費 3,400,000 円、間接経費 1,020,000 円）

H 2 7 埋蔵文化財発掘調査に伴う樹種調査（静岡県埋蔵文化財センター） 3,890,718 円（直接経費 2,992,860 円、間接経費 897,858 円）

3. 大学運営，学会運営，社会的活動等

(1) 学内

植物園部会委員

学外

JICA 大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）プロジェクト 派遣専門家

(3) 所属学会，学会運営など

日本木材学会会員

日本植生史学会会員

日本森林学会会員

日本文化財科学学会会員

東北植物学会会員

IAWA (International Association of Wood Anatomists) 会員

Tree-ring society 会員

年輪研究会会員

北海道，東北保存科学研究会会員

日本植物園協会ホームページ委員会委員長

米倉 浩司（助教）

1. 教育活動

(1) 学内教育への参加

(全学)

「自然科学総合実験」 第2セメスター 2単位の1単位 (6回)

「博物館実習Ⅳ」 集中講義 1単位

(理学部)

「植物系統分類学実習」集中講義 1単位

「生物学演習」 第6セメスター 2単位のうち1/2 (5回)

2. 研究活動

(1) 研究概要

1980年代から1990年にかけて出版された日本の野生植物に関する代表的な図鑑『日本の野生植物』草本編3巻，木本編2巻（平凡社）を，科の配列を含む分類体系の全面的な改訂によって5巻に

再編成し、併せて、従来の版で手薄であった沖縄や小笠原の植物に関する記載を加えると共に、過去に掲載された分類群に関する記述も最新の知識に基づいて改めた。筆者は一部の科を担当すると共に、編者として全体の記述内容の統一や補足などを行った。

福島県川俣町にある東圓寺の堂宇の天井に描かれている江戸時代の天井画中の植物について同定を行い、植物地理や園芸学上の意義等に関してコメントした。これらのコメントは東圓寺開山良阿上人五百年遠忌記念誌編集委員会(2015)に収録されている。

(2) 学術論文等

1) 発表論文

2) 著書、その他

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編) 2015. 改訂新版日本の野生植物 1. 平凡社.(分担執筆:センリョウ科, コシヨウ科, クスノキ科)

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編) 2016. 改訂新版日本の野生植物 2. 平凡社.(分担執筆:イネ科(タケ亜科), ブドウ科, クワ科, イラクサ科)

東圓寺開山良阿上人五百年遠忌記念誌編集委員会(編) 2015. 開山良阿上人五百年遠忌記念誌. 東圓寺.

(3) データベース

Yonekura, K. and Kajita, T. BG Plants 和名 - 学名インデックス (Ylist) <http://ylist.info>

(4) 海外調査等

東北大学の牧研究室の学生と共に、日本と韓国に共通に分布する植物の系統地理学的研究のため、2015年9月16日から9月21日までの期間で韓国の各地を調査し、サンプリングを行った。

3. 大学運営, 学会運営, 社会的活動等

(1) 所属学会, 学会運営など

日本植物分類学会会員

同 絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会委員

同 植物データベース専門委員会委員

同 国際植物命名規約邦訳委員会委員

同 Acta Phytotaxonomica et Geobotanica (APG)編集委員

ヒマラヤ植物研究会会員

植物研究雑誌編集委員

(2) 学外委員など

青森県環境影響評価審査会委員 (2010.3~)

青森県生物多様性地域戦略検討委員会委員 (2012. 10~)

背表紙

東北大学学術資源研究公開センター
二〇一五年度
年次報告

二〇一六年
三月